

(3) 田園地域

1) 出張所管内を除く田園地域を取り巻く現状と将来の見通し

①人口

- 人口は、平成 17 年 (2005) 22, 111 人から平成 28 年 (2016) 19, 947 人までの間で 2, 164 人減少しています。
- 世帯数は、平成 17 年 (2005) 7, 284 世帯から平成 28 年 (2016) 8, 158 世帯までの間で約 900 世帯増加しており、世帯人員は、0.59 人/世帯減少し 2.45 人/世帯となっています。
- 年齢別人口の割合は、平成 22 年 (2010) で高齢者が 28.2%であり、高齢化は市全体 (25.6%) と比べやや早く進んでいます。
- 人口分布は、市街化区域の周りにはりつくように点在しており、特に清野袋や大久保・津賀野、清水森・小栗山・松木平、原ケ平・狼森・大和沢、大開・大原・小沢、下湯口・悪戸・常盤坂に集中しています。
- 人口密度は、平成 22 年 (2010) で 30~40 人/ha が点在していましたが、令和 17 年 (2035) にはほとんどの地域が 20 人/ha 以下になる見込みです。
- 高齢化率は、令和 17 年 (2035) にはほとんどの地域で 40%以上の地域が多くなる見込みです。

②生活利便施設・公共交通

- 市街化区域にはりつくように、高齢者福祉施設や小学校を中心とした生活利便施設が立地しており、地域の住民だけではなく市街化区域の住民にも広域的に利用されています。
- 公共交通は、各地域を運行する本数は少ないですが、出張所管内や他市町村との間を運行する JR や弘南鉄道、路線バスが運行している地域があります。

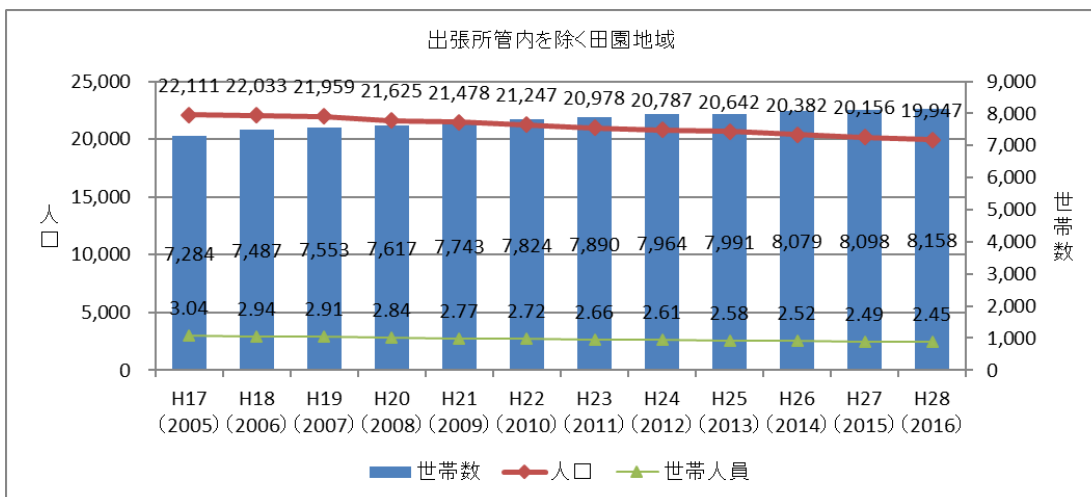
③課題

- 人口の減少に対して、世帯数は増加しており、さらに広い範囲に人口が分布していることから、地域コミュニティ、公共交通の維持が困難になる可能性があります。
- 生活利便施設が点在していますが、食料品スーパーや医療機関等は少ないため、市街化区域でサービスを受けるための移動が必要となり、今後の高齢化に対応できなくなる可能性があります。

④展望

- 生活利便施設は、高齢者福祉施設を中心として広く立地していますが、平成 18 年（2006）に都市機能分布のコンパクト化のために都市計画法が改正されていることから、今後は現存の生活利便施設を維持するとともに、当地域近隣の都市機能誘導区域の都市機能を利用し充実させることで、当地域の効率的な生活環境の維持を図ります。
- 各集落の地域住民が主体となって、地域の生活環境等の維持を図るための取組を支援することで、各集落における農業生産活動や地域コミュニティの維持を図ります。

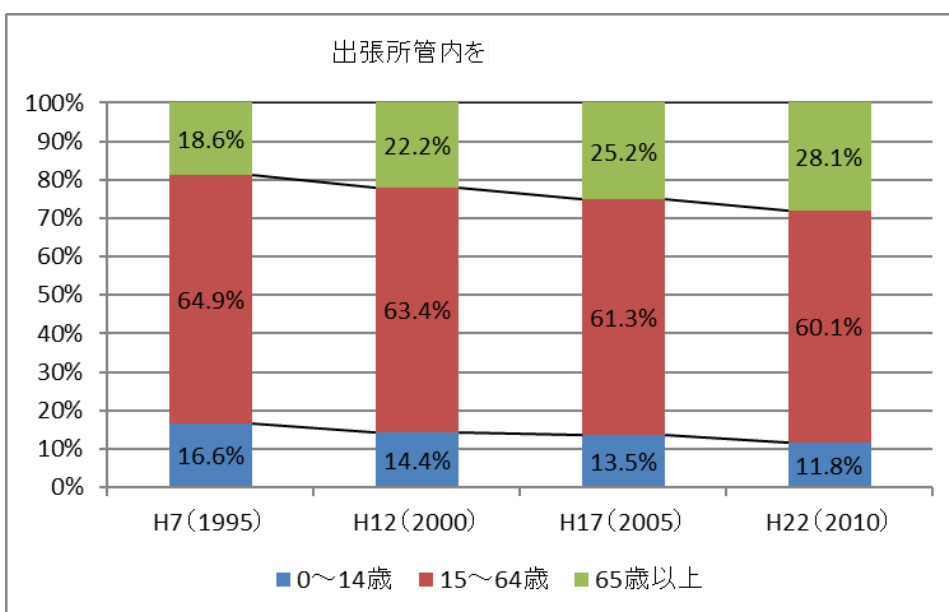
図表 4-22 人口・世帯数・世帯人員の推移



資料：「弘前市住民基本台帳（各年 4 月 1 日時点）」

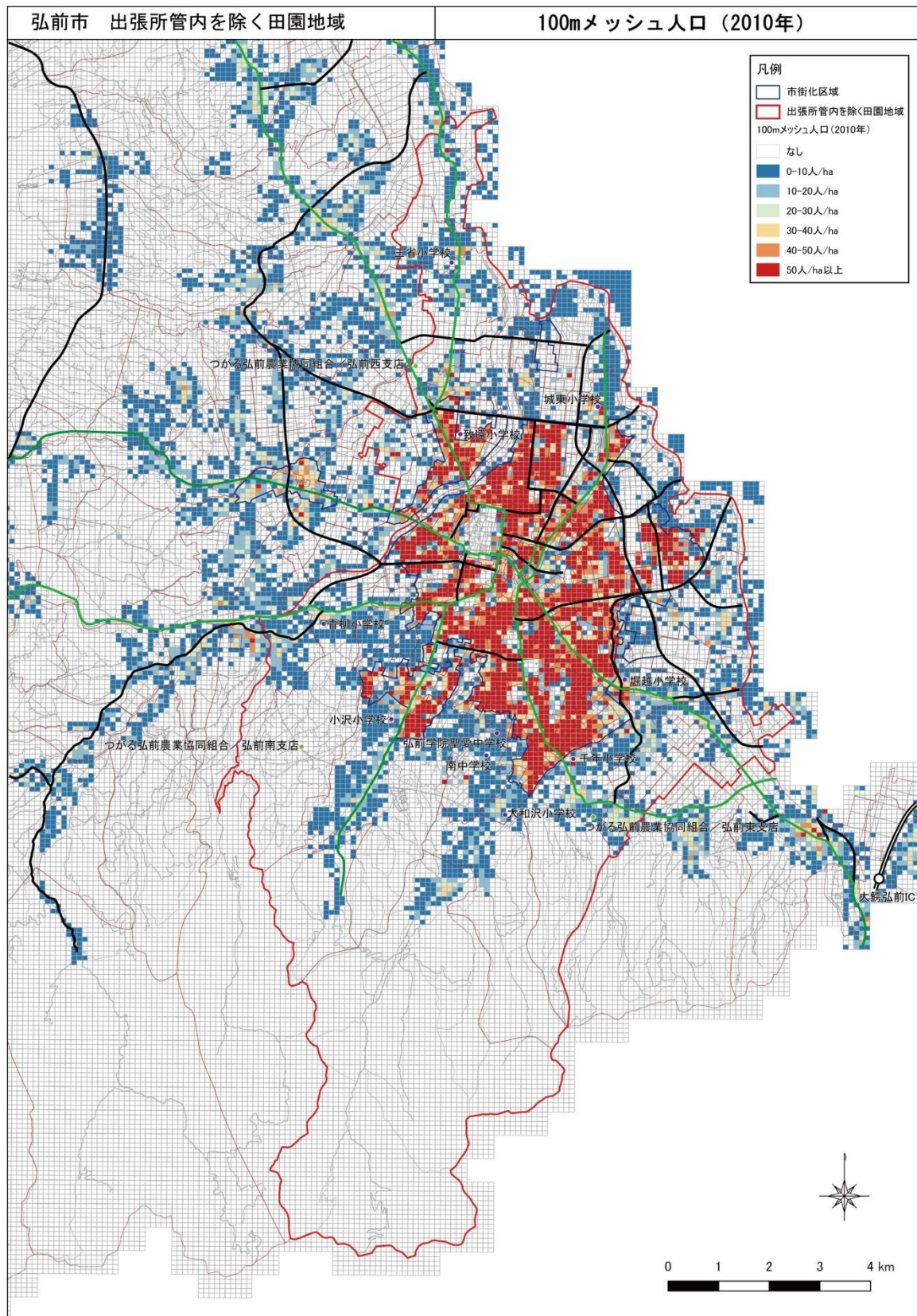
※平成 25 年（2013）以降は、外国人人口、世帯数を含む。

図表 4-23 年齢別人口割合の推移



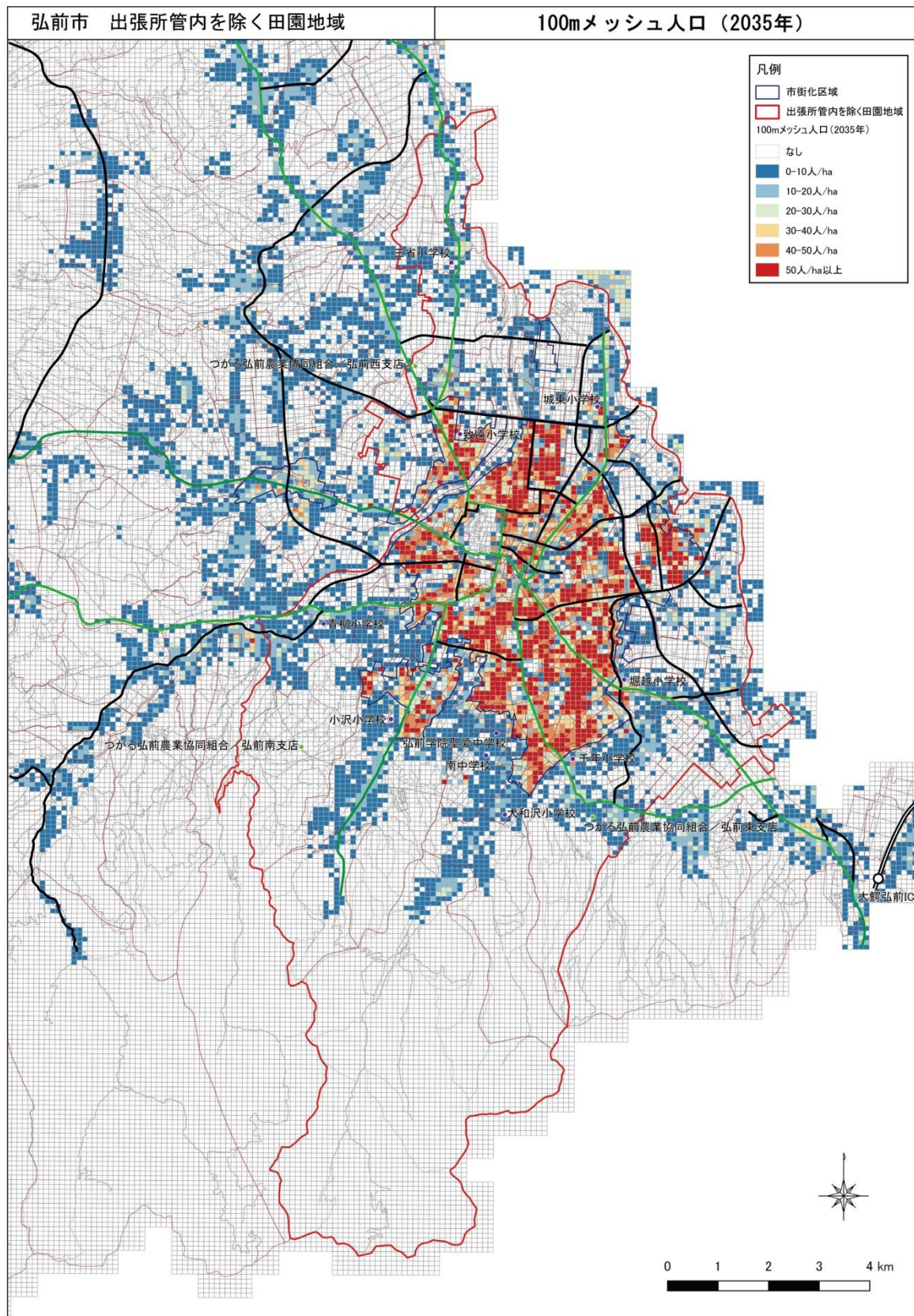
資料：「国勢調査」

図表 4-24 人口分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



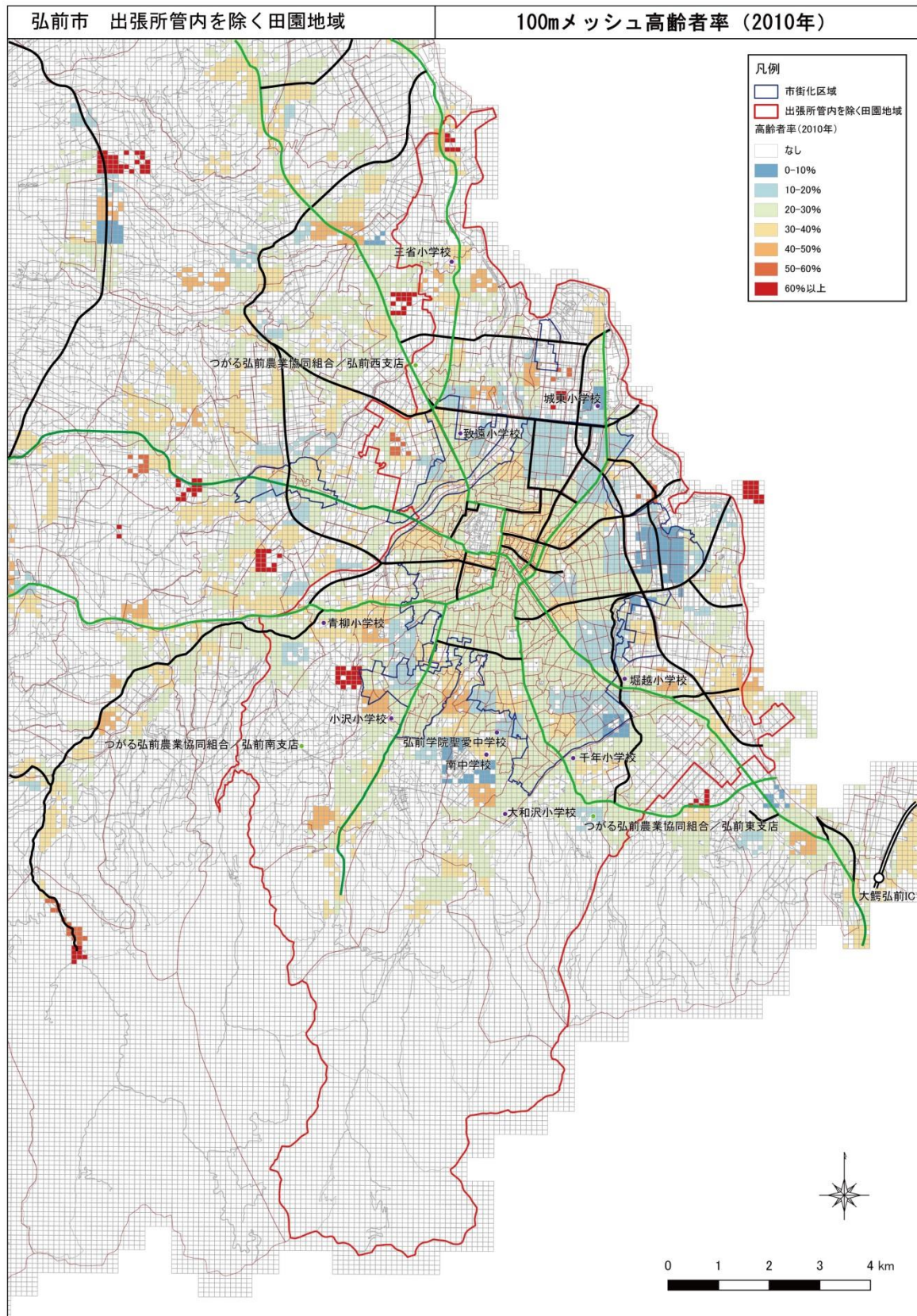
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-25 人口分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



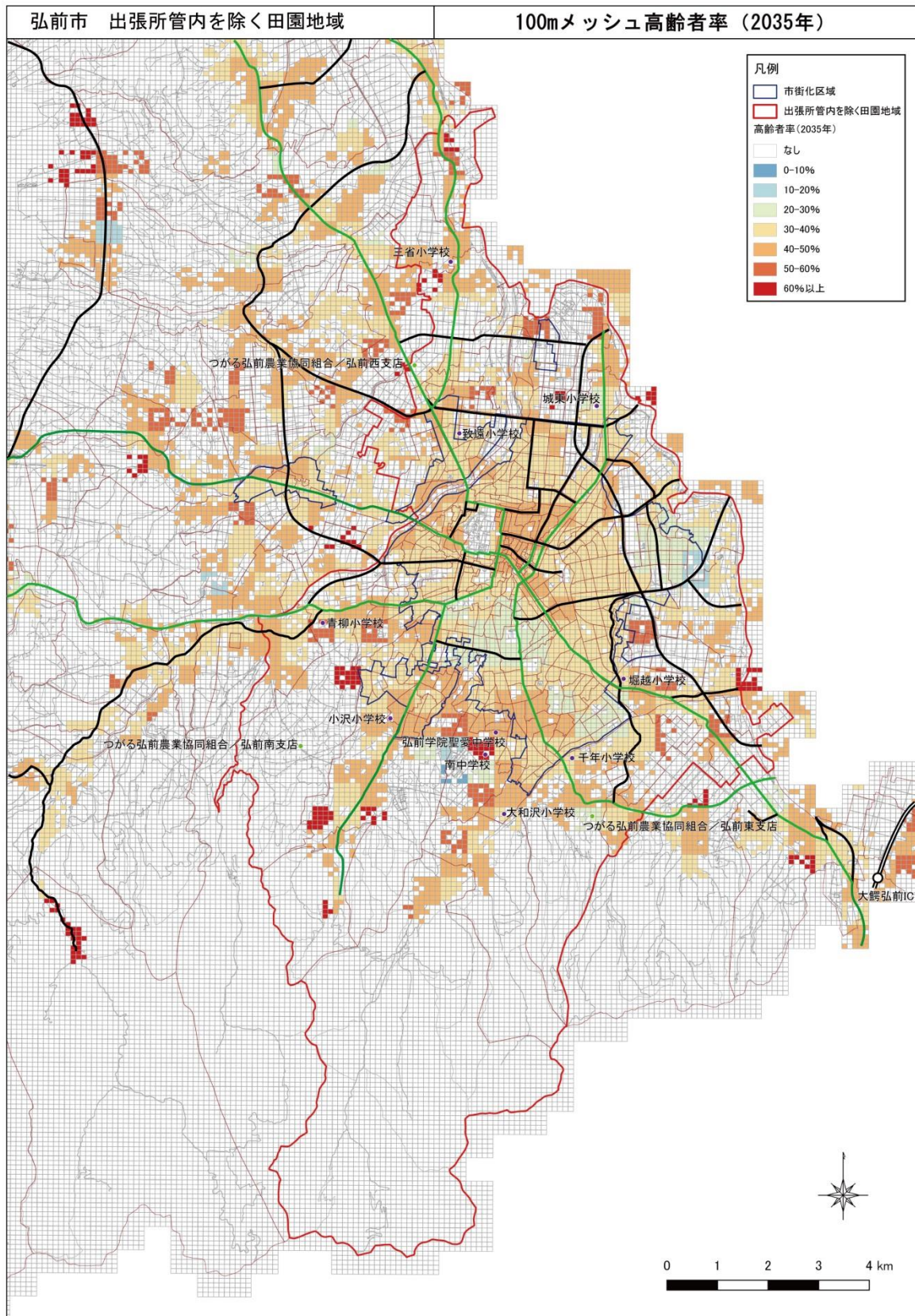
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100mメッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-26 高齢化率分布(100mメッシュ) 平成 22 年 (2010)



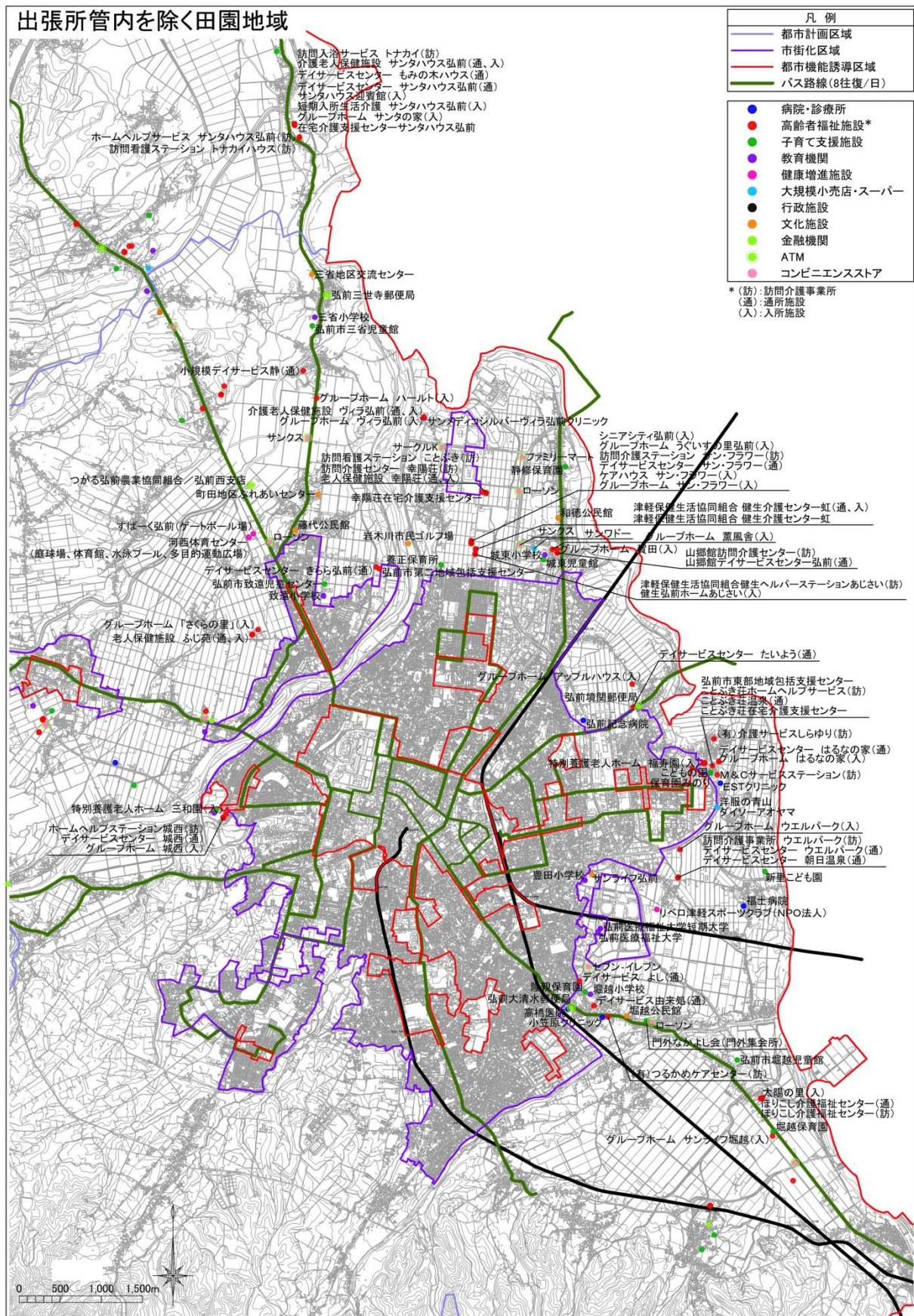
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100mメッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-27 高齢化率分布(100mメッシュ) 令和 17 年 (2035)



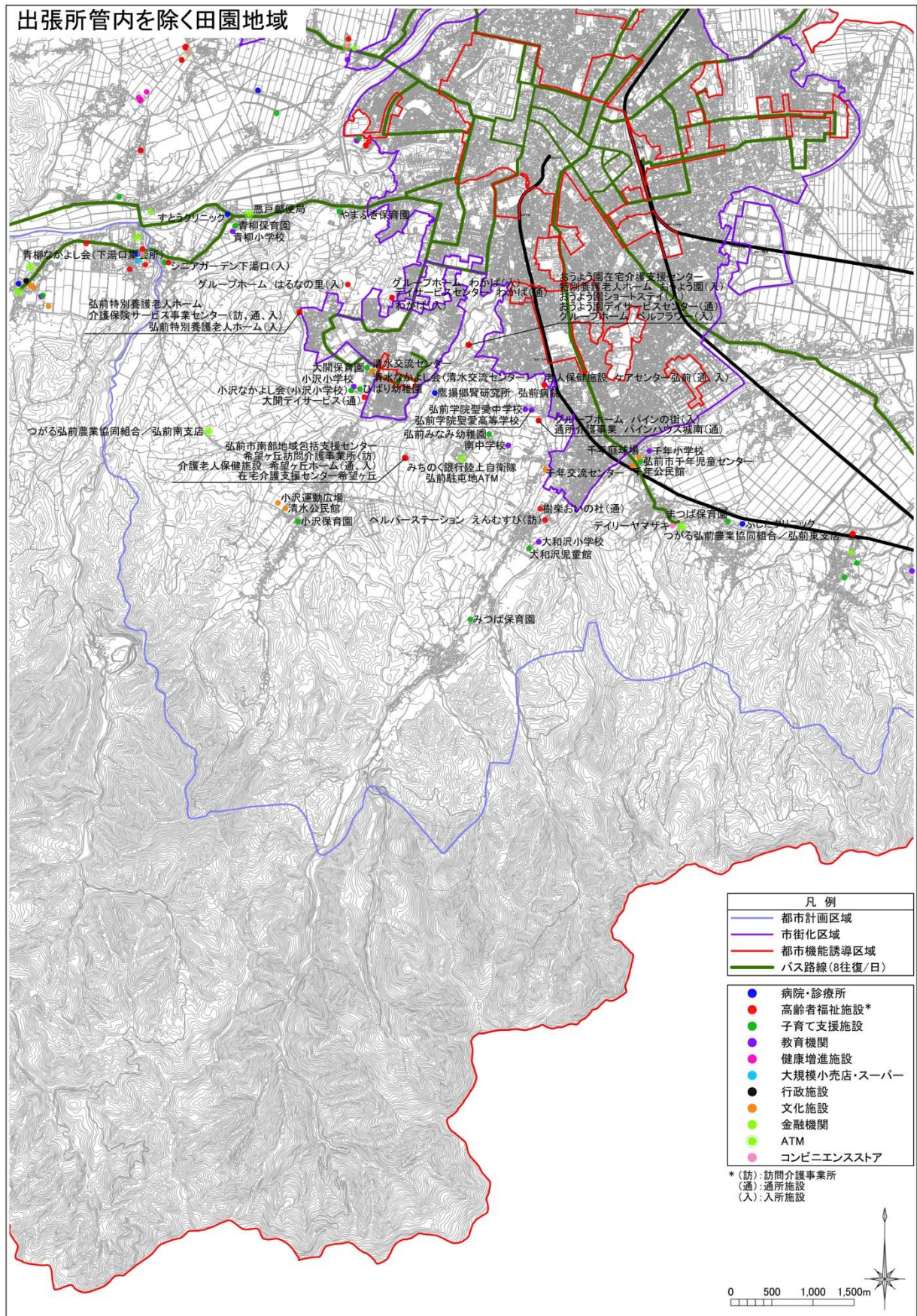
* 「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100mメッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-28 生活利便施設・公共交通 (1/2)



*「国土数値情報/国土交通省」「高齢者介護保健福祉ガイドブック 2015 (事業所等一覧) (平成 28 年 (2016) 2 月作成、弘前市)」他 を基に作成

図表 4-29 生活利便施設・公共交通 (2/2)



*「国土数値情報/国土交通省」「高齢者介護保健福祉ガイドブック 2015 (事業所等一覧) (平成 28 年 (2016) 2 月作成、弘前市)」他 を基に作成

2) 岩木地区を取り巻く現状と将来の見通し

①人口

- 人口の減少速度はほぼ変わらず、平成 17 年（2005）12,451 人から平成 28 年（2016）11,098 人までの間で約 1,300 人の減少が見られます。
- 世帯数は微増で推移していますが、世帯人員は平成 17 年（2005）3.15 人/世帯から平成 28 年（2016）2.58 人/世帯の間に 0.57 人/世帯減少と、市全体と比べても大きく減少しており、子どもの独立による親の二人暮らしや独居が増えたと推測されます。
- 年齢別人口の割合は、平成 22 年（2010）の岩木地区と平成 27 年（2015）の市全体がほぼ同等であることから、岩木地区の少子高齢化は市全体と比べて 5 年程早く進んでいると見込まれます。
- 人口分布は、居住誘導区域である一町田、高屋、賀田、五代に最も多く集中しており、居住誘導区域を中心として集落が周辺に放射状に点在しています。
- また、岩木山麓の百沢、常盤野にも人口が分布しています。
- 高齢化率は、平成 22 年（2010）で地区内全体が概ね 10～40%でしたが、令和 17 年（2035）には地区内全体で 30～60%以上となる見込みです。

②生活利便施設分布・公共交通

生活利便施設

- 賀田を中心とする都市機能誘導区域及びその周辺、バス路線沿いに多く立地しています。
- 都市機能誘導区域以外では、高齢者福祉施設や子育て支援施設、文化施設等が各集落に点在しています。
- スーパーは、都市機能誘導区域に比較的小規模な店舗が 1 件のみ立地しています。

公共交通

- 市中心部と当地区の間を運行する路線バスは、岩木庁舎まで 23.5 往復/日運行し、その他、富栄方面へ 6.5 往復/日、葛原方面へ 5.5 往復/日、岩木山神社方面へ 12 往復/日運行しています。岩木山神社以降はいわき荘方面まで 5 往復/日、岳温泉、枯木平方面まで 7 往復運行しています。
- 三本柳から義塾高校までのバスが朝 1 便のみ運行しています。

③課題

- 居住は広い範囲に分布していますが、日常の食料品を中心とした生活必需品を揃えるためには、都市機能誘導区域である賀田や樋の口まで移動する必要があります。
- 公共交通は、市中心部から都市機能誘導区域（賀田）まで比較的充実した本数が運行されていますが、都市機能誘導区域から各地域までの公共交通が少なく、都市機能誘導区域外に文化施設、健康増進施設が立地しているものの、公共交通が十分に確保されていません。

○医療施設は都市機能誘導区域周辺にしか立地しておらず、特に高齢化が進む地域には立地していません。

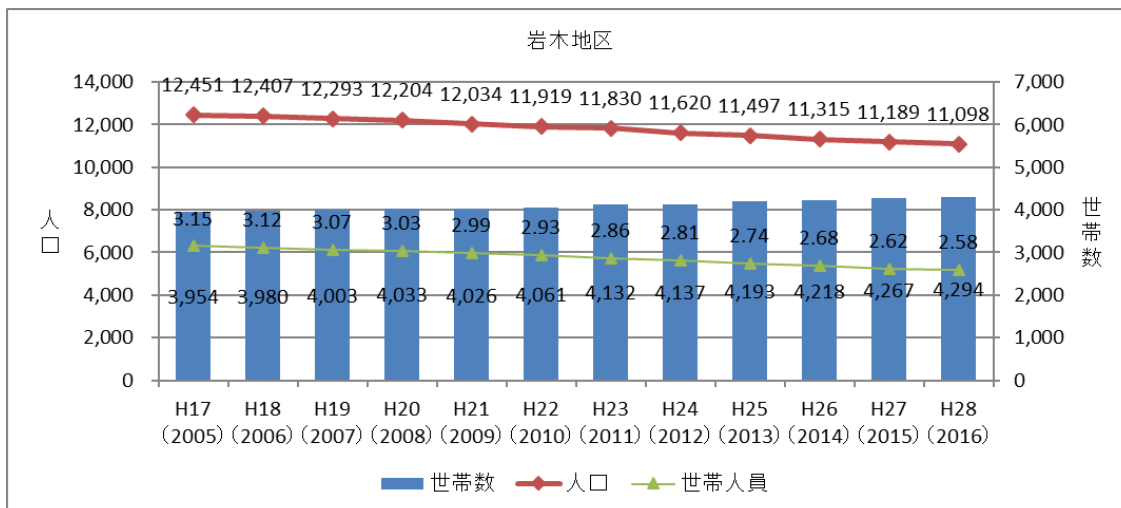
④展望

○都市機能誘導区域である賀田に立地する生活利便施設を維持するとともに、さらに都市機能を充実させ、人口分布の多い地域と他の集落の連携を図ることで、持続可能な地域づくりを考えていく必要があります。

○各集落における農業生産活動とコミュニティを持続的にするため、地域住民との協働により地域に合った小さな拠点づくり等による生活利便施設の維持と活性化を図る必要があります。

○自然が豊かであり、地域資源が豊富であることから、それらを生かした地域づくりを中心に、豊かな田園のライフスタイルの維持、向上を図ります。

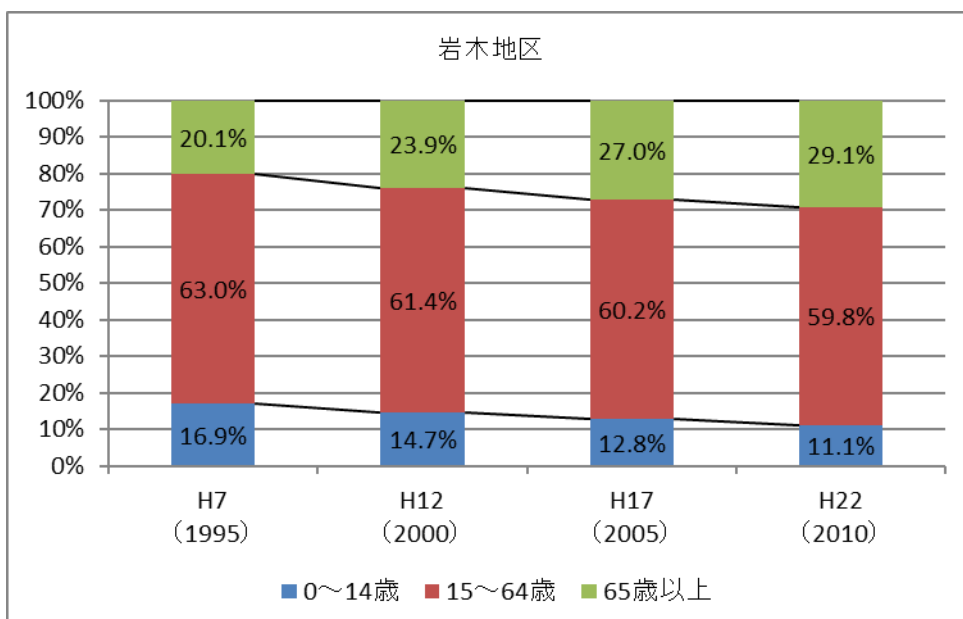
図表 4-30 人口・世帯数・世帯人員の推移



資料：「弘前市住民基本台帳（各年 4 月 1 日時点）」

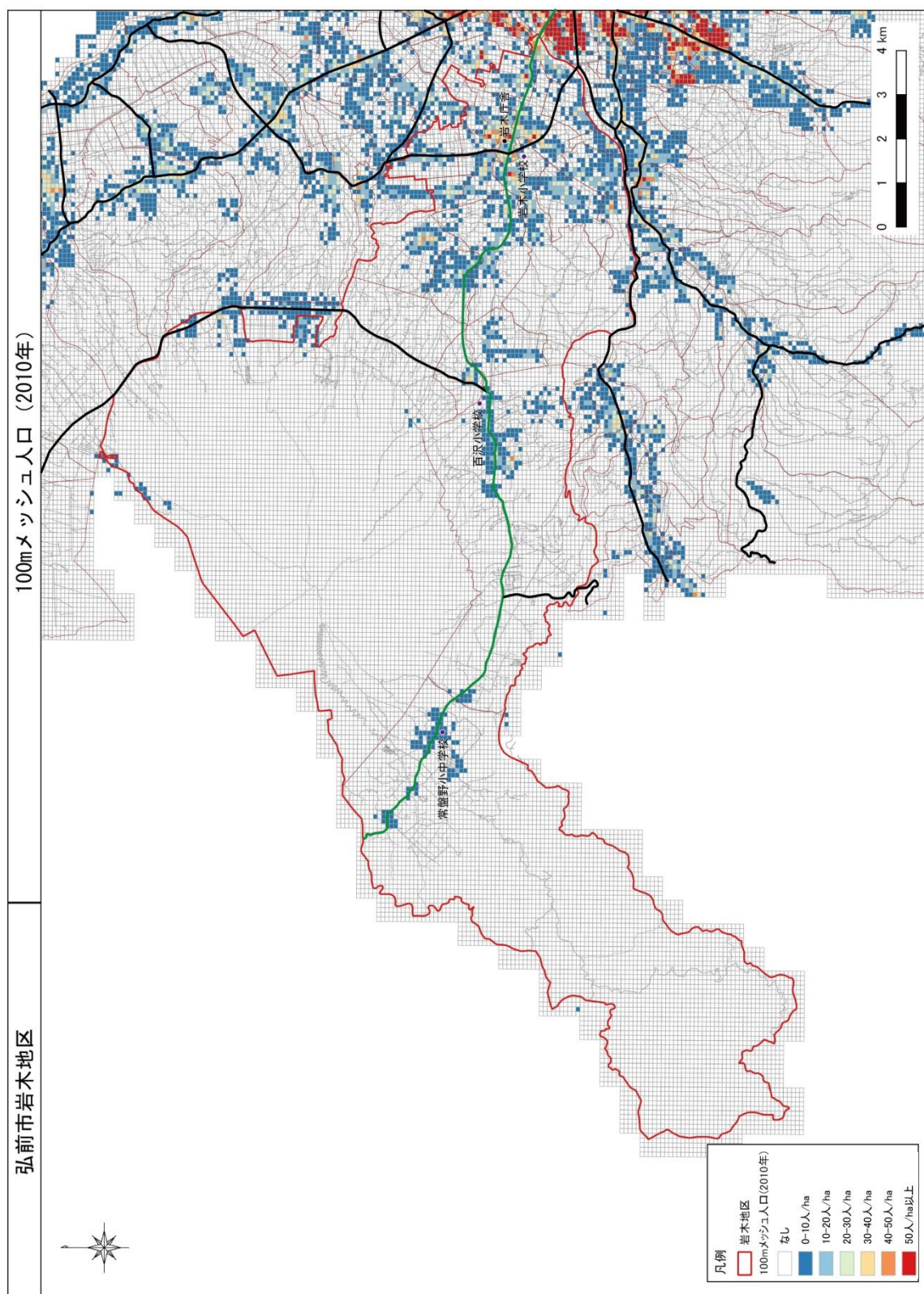
※平成 25 年（2013）以降は、外国人人口、世帯数を含む。

図表 4-31 年齢別人口割合の推移



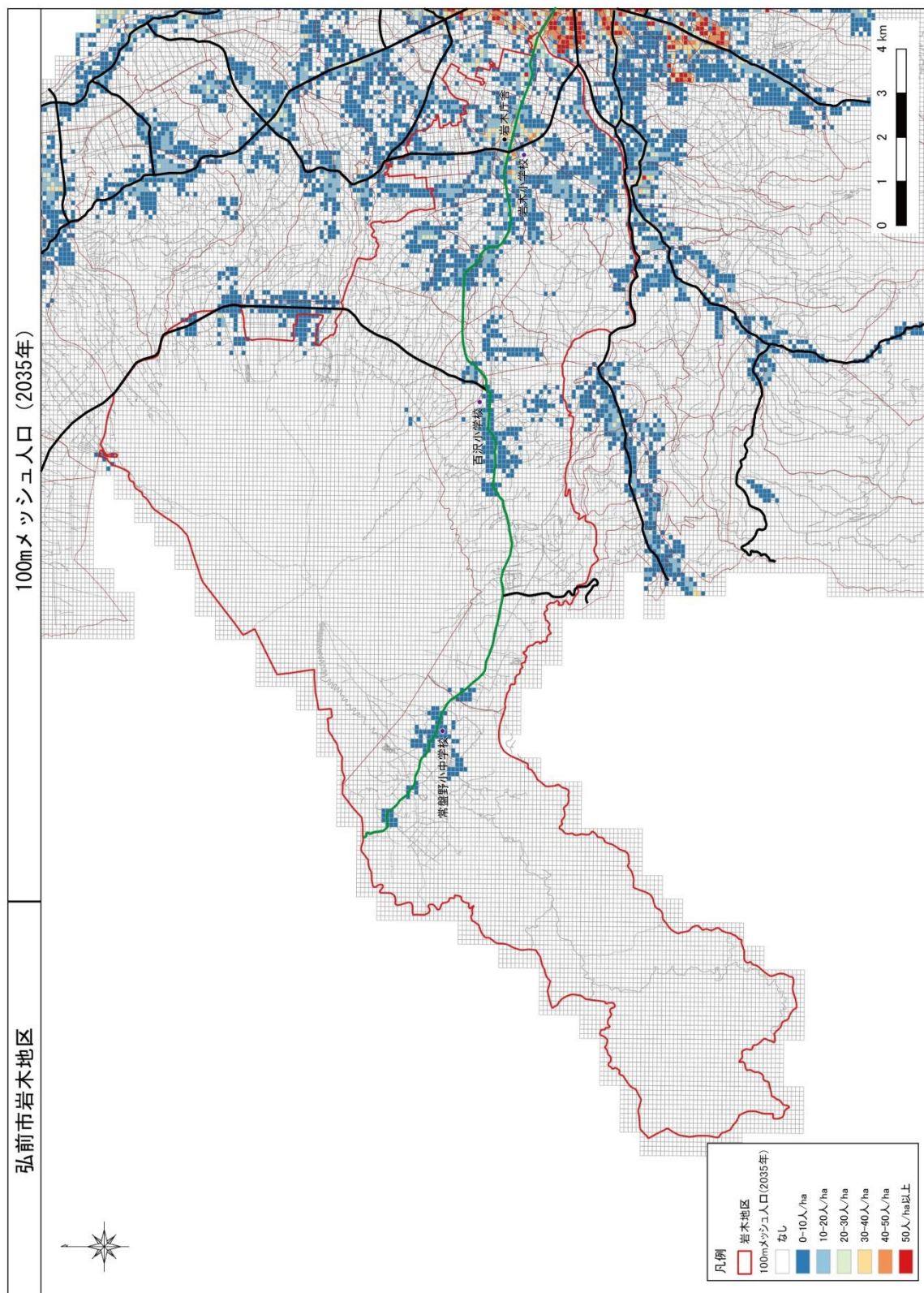
資料：「国勢調査」

図表 4-32 人口分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



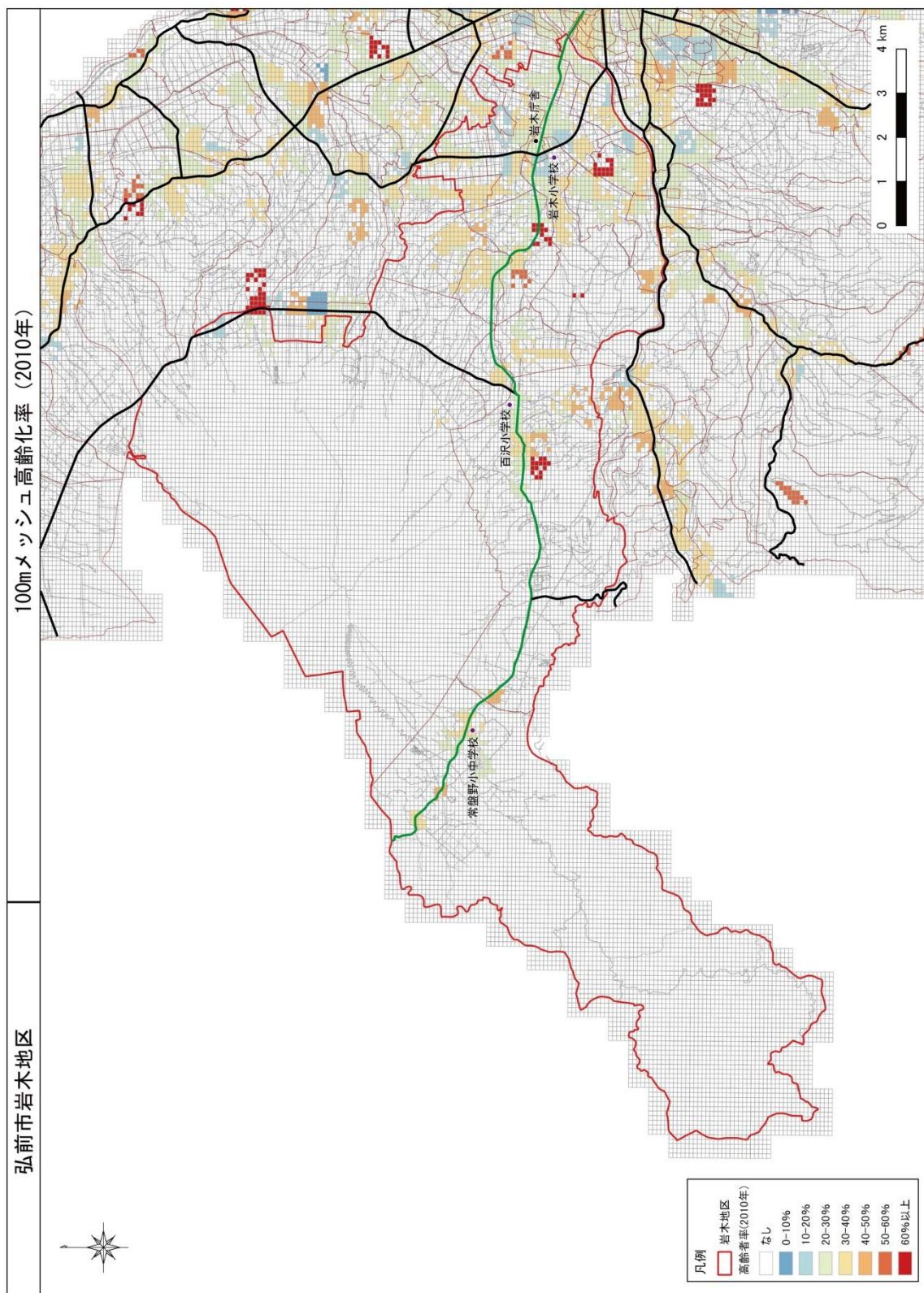
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-33 人口分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



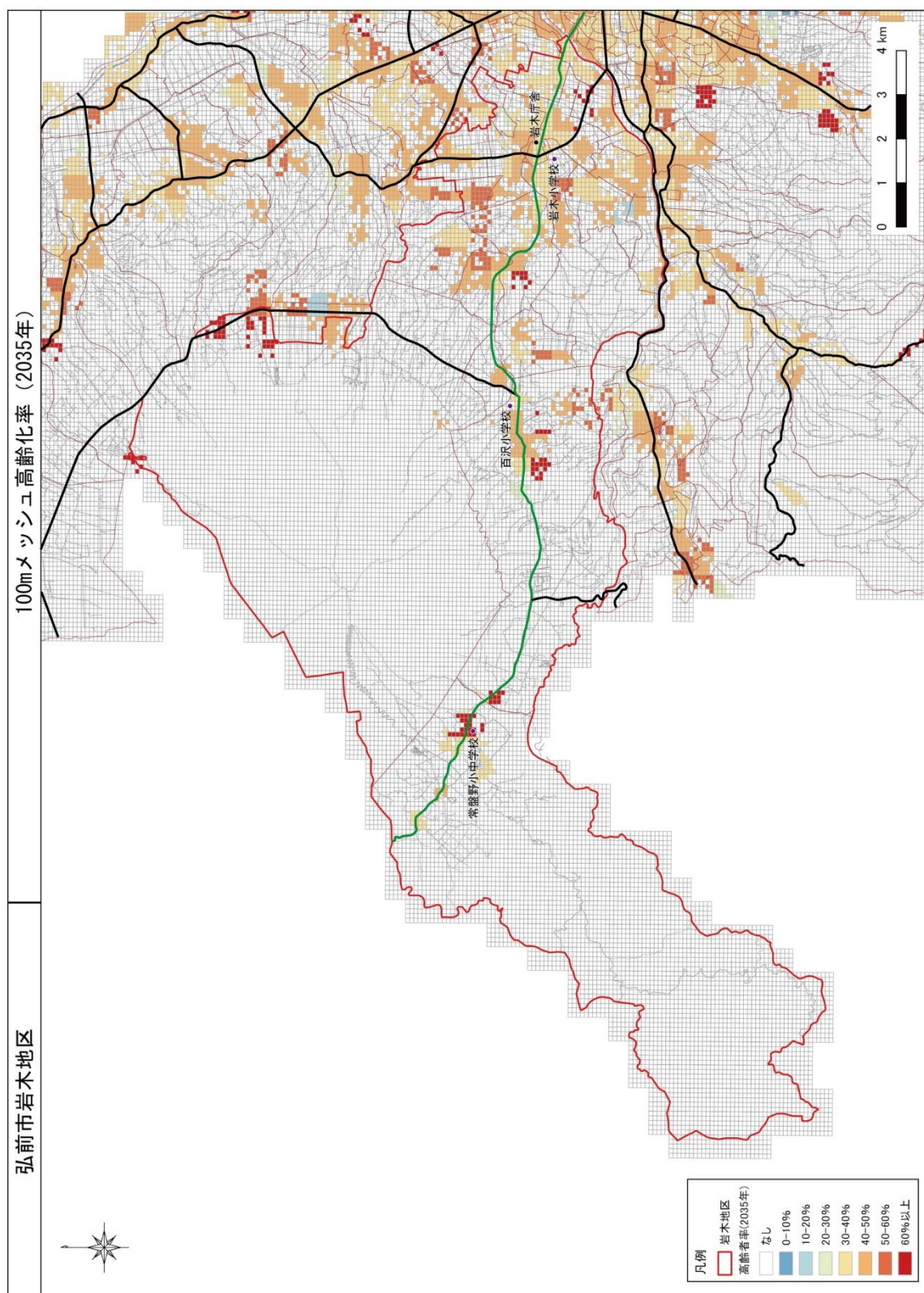
* 「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-34 高齢化率分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



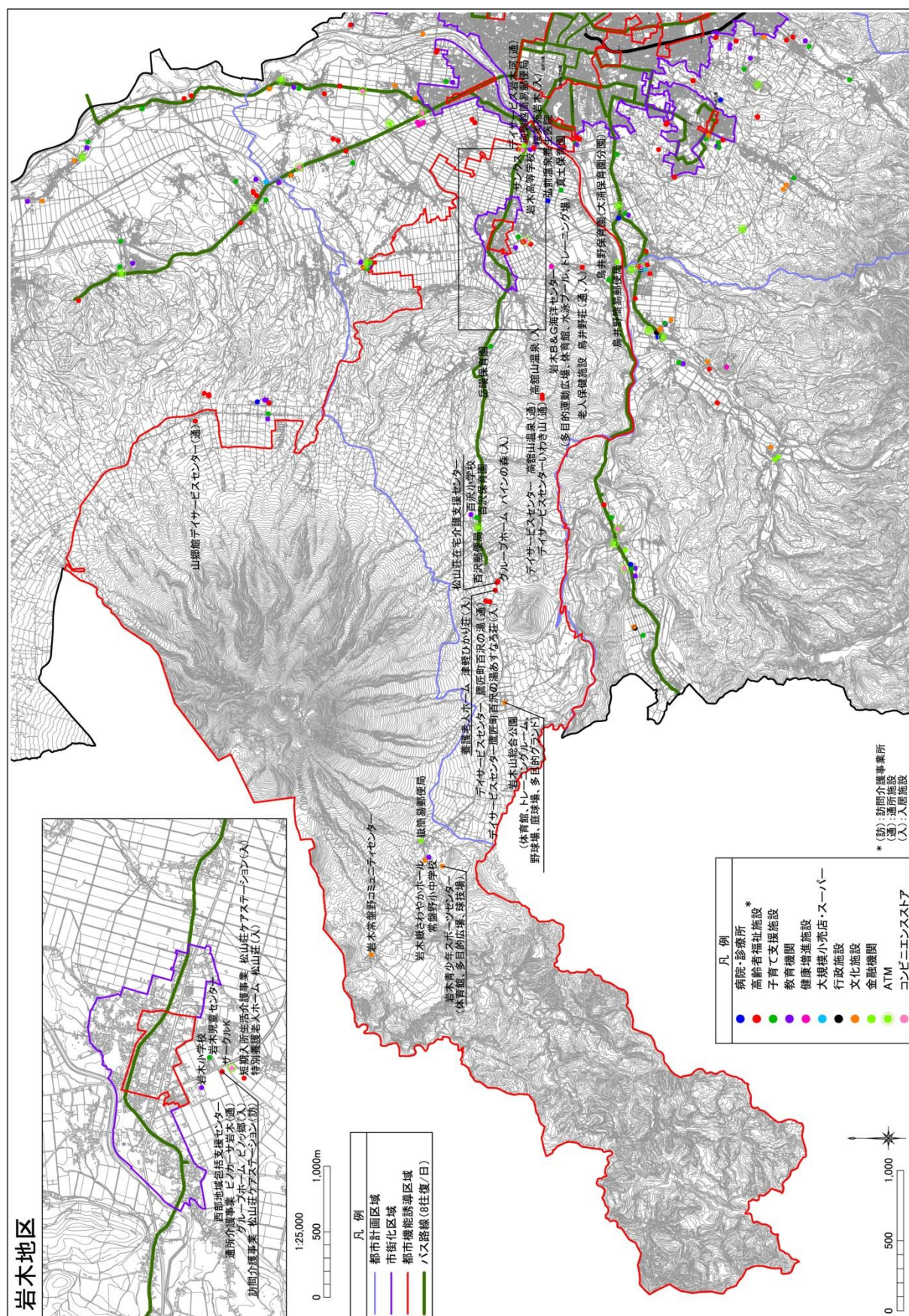
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100mメッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-35 高齢化率分布(100mメッシュ) 令和 17 年 (2035)



* 「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100mメッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-36 生活利便施設・公共交通



* 「国土数値情報/国土交通省」「高齢者介護保健福祉ガイドブック 2015（事業所等一覧）（平成 28 年（2016）2 月作成、弘前市）」他 を基に作成

3) 相馬地区を取り巻く現状と将来の見通し

①人口

- 人口は、平成 17 年（2005）3,917 人から平成 28 年（2016）3,426 人の間に微減が続
き、約 500 人減少しています。
- 人口減少の速度はほぼ変わらず、毎年およそ 30～40 人ずつ減少しています。
- 世帯数は増加し続け、世帯人員は平成 17 年（2005）3.52 人/世帯から平成 28 年（2016）
2.75 人/世帯の間に 0.77 人減少していることから、子どもが独立したことによる親
の二人暮らしや、独居が増えたと推測されます。
- 年齢別人口の中学生以下の年代の割合は、市全体とほぼ変わりませんが、高齢者の
割合は市全体の平成 17 年（2005）26.6%に対して平成 22 年（2010）28.5%と大き
く高齢化しています。
- 人口密度は地区内全体で 10 人/ha 以下の地域が多く、人口分布としては相馬庁舎の
近郊よりも湯口や安田団地に多く分布していますが、高齢化は他の地域と同様に早
く進む見込みです。

②生活利便施設分布・公共交通

生活利便施設

- バス路線の沿線に生活利便施設が多く立地しており、特に相馬庁舎がある五所と湯
口に多く立地しています。
- スーパーは人口分布の多い湯口に 1 件立地しています。
- 病院・診療所は、地区北東側の五所と湯口に 1 件ずつ立地しています。
- 農業協同組合は五所に本所、湯口と相馬に支所が立地しています。
- 相馬庁舎の周辺には農業協同組合や郵便局、診療所、公民館、図書館、小学校など
が立地しており、五所が相馬地区の地域拠点になっています。

公共交通

- 持続可能な公共交通を確保するため、平成 26 年（2014）2 月からの実証運行を経て従来
のバス路線を再編しており、市中心部と相馬庁舎前までの間を 10.5 往復/日の路線バスが
運行し、相馬庁舎を交通結節点（乗り継ぎ場所）として、相馬地区内を予約型乗合タクシ
ーが 2 方面（相馬・藍内・沢田、水木在家）へ計 15.5 往復/日運行しています。
- 地区内の文化施設など生活利便施設までの移動にも低料金で予約型乗合タクシーの
利用ができ、地域特性や需要に合った移動手段の確保が図られています。

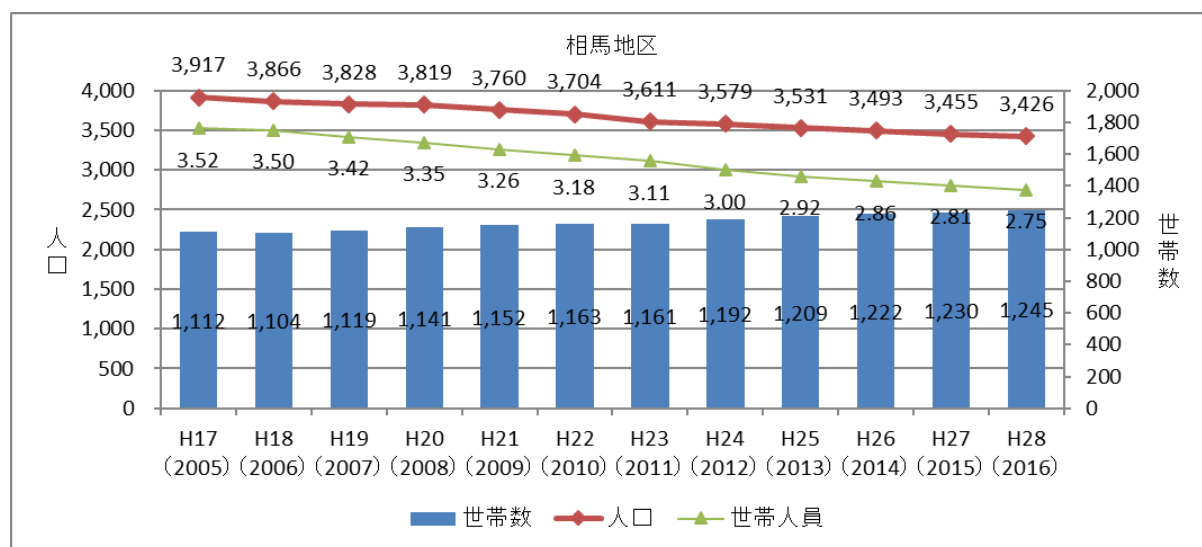
③課題

- 人口の減少や高齢化、世帯人員の減少に伴い、コミュニティや生活利便施設の維持が徐々に困難になる可能性があります。
- 日常の食料品を中心とした生活必需品に関しては地区内で揃えられますが、その他の買い物に関しては中心部をはじめとした都市機能誘導区域に頼る必要があります。
- 人口減少等により、医療など生活利便施設の確保が将来的な課題となり得るため、地区内への立地に限らず持続的にサービスを受けられる対策が求められる可能性があります。

④展望

- バス路線は人口や生活利便施設が集中している五所までとなっているものの、予約型乗合タクシーによって連続した交通手段は確保できているため、今後も様々な工夫をしながら地域住民に利用してもらうことで持続可能な公共交通を維持していく必要があります。
- 人口の地域分布は大きく変わらないものの、人口密度は全体的に低くなっていくと見込まれるため、地域にあった小さな拠点づくり等により生活利便施設の維持と活性化を図るとともに、生活に必要なサービスを受けられるよう、これまで以上に都市機能誘導区域と連携していく必要があります。
- 地域への関心と意識が高く、まちづくりの活動が盛んな地域であるため、地域住民や関係者と共に、地域ぐるみで地域の施設を使用するといった持続可能な地域づくりに関する取組を行っていく必要があります。

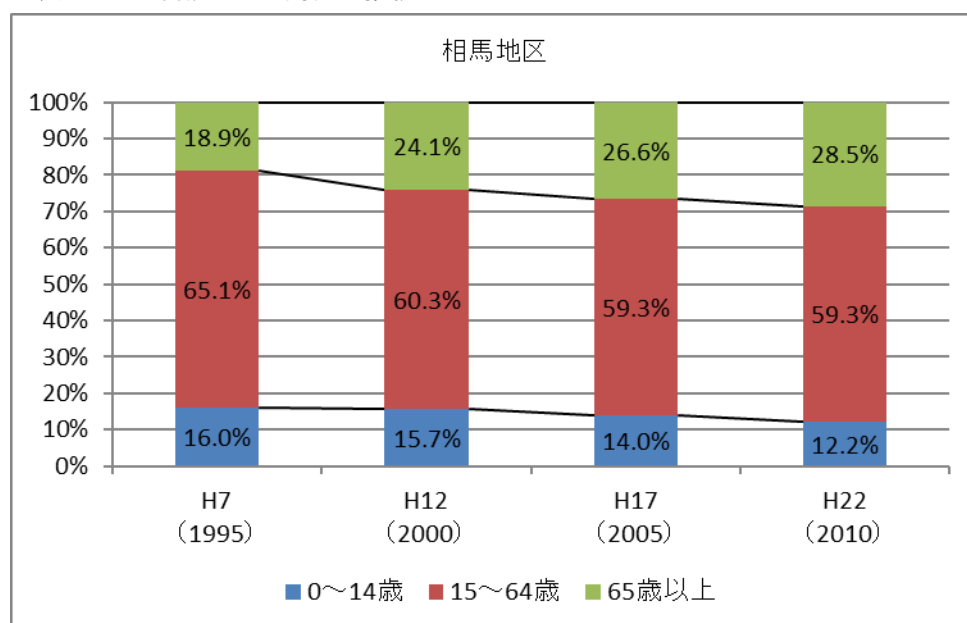
図表 4-37 人口・世帯数・世帯人員の推移



資料：「弘前市住民基本台帳（各年4月1日時点）」

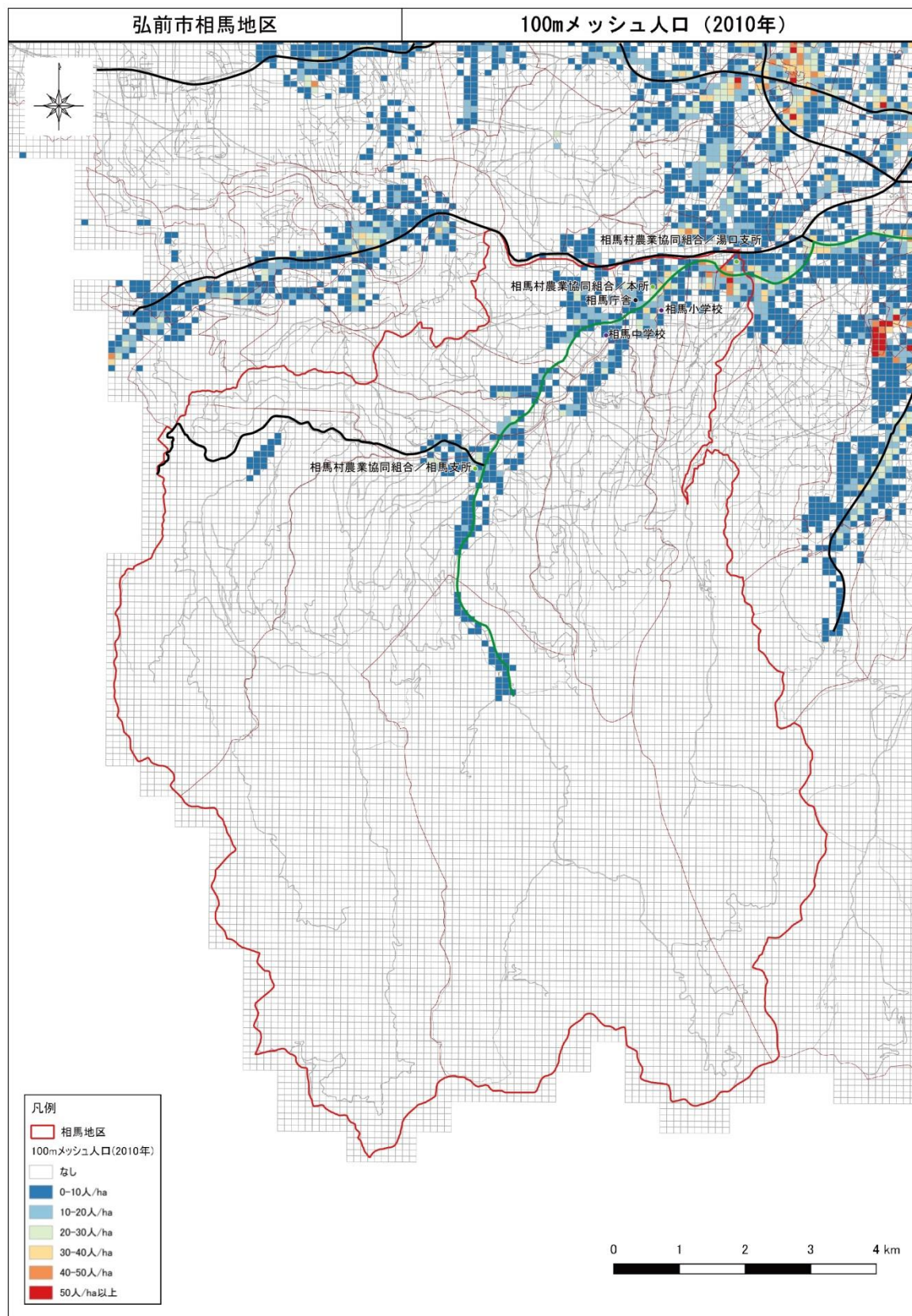
※平成25年（2013）以降は、外国人人口、世帯数を含む。

図表 4-38 年齢別人口割合の推移



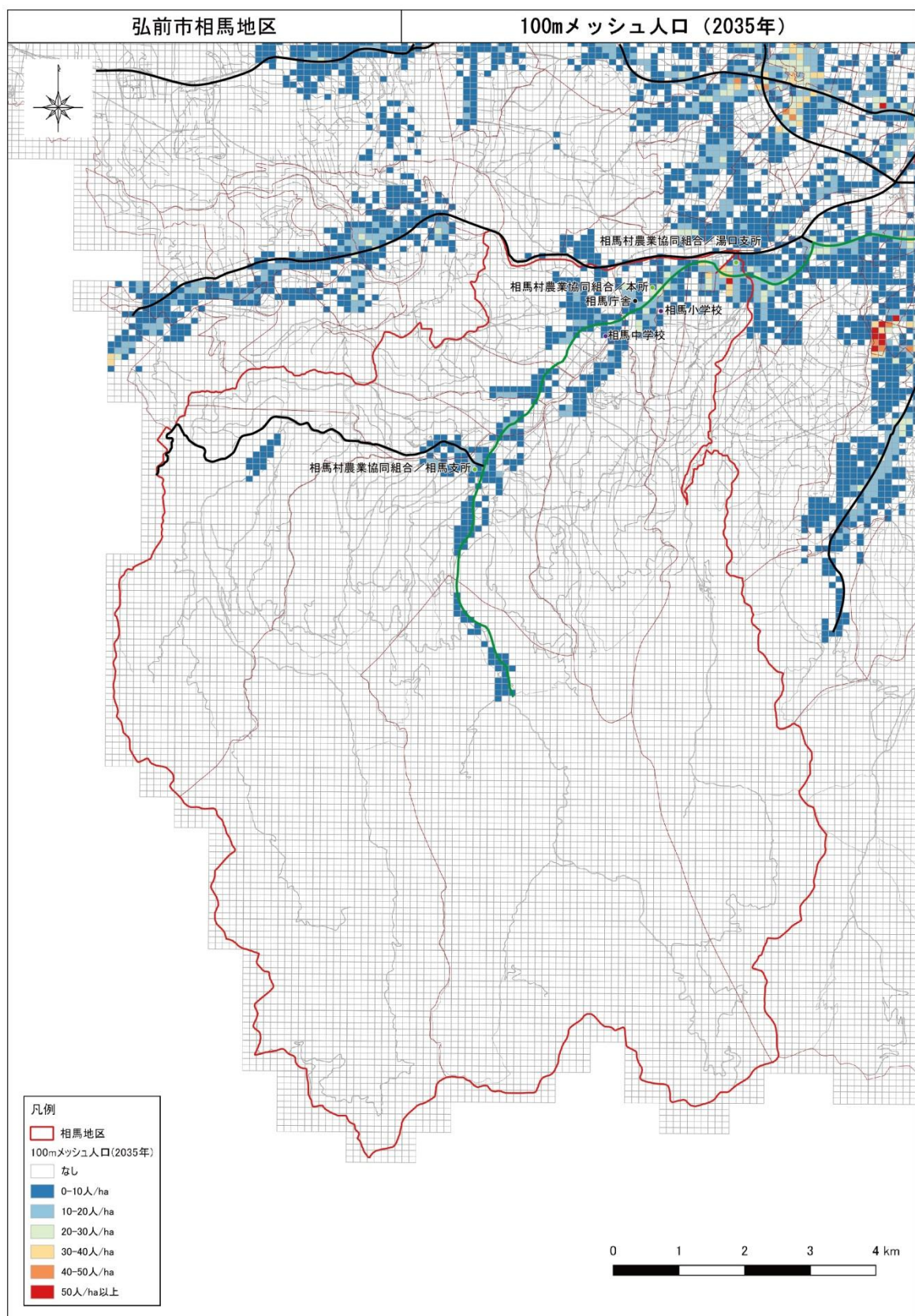
資料：「国勢調査」

図表 4-39 人口分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



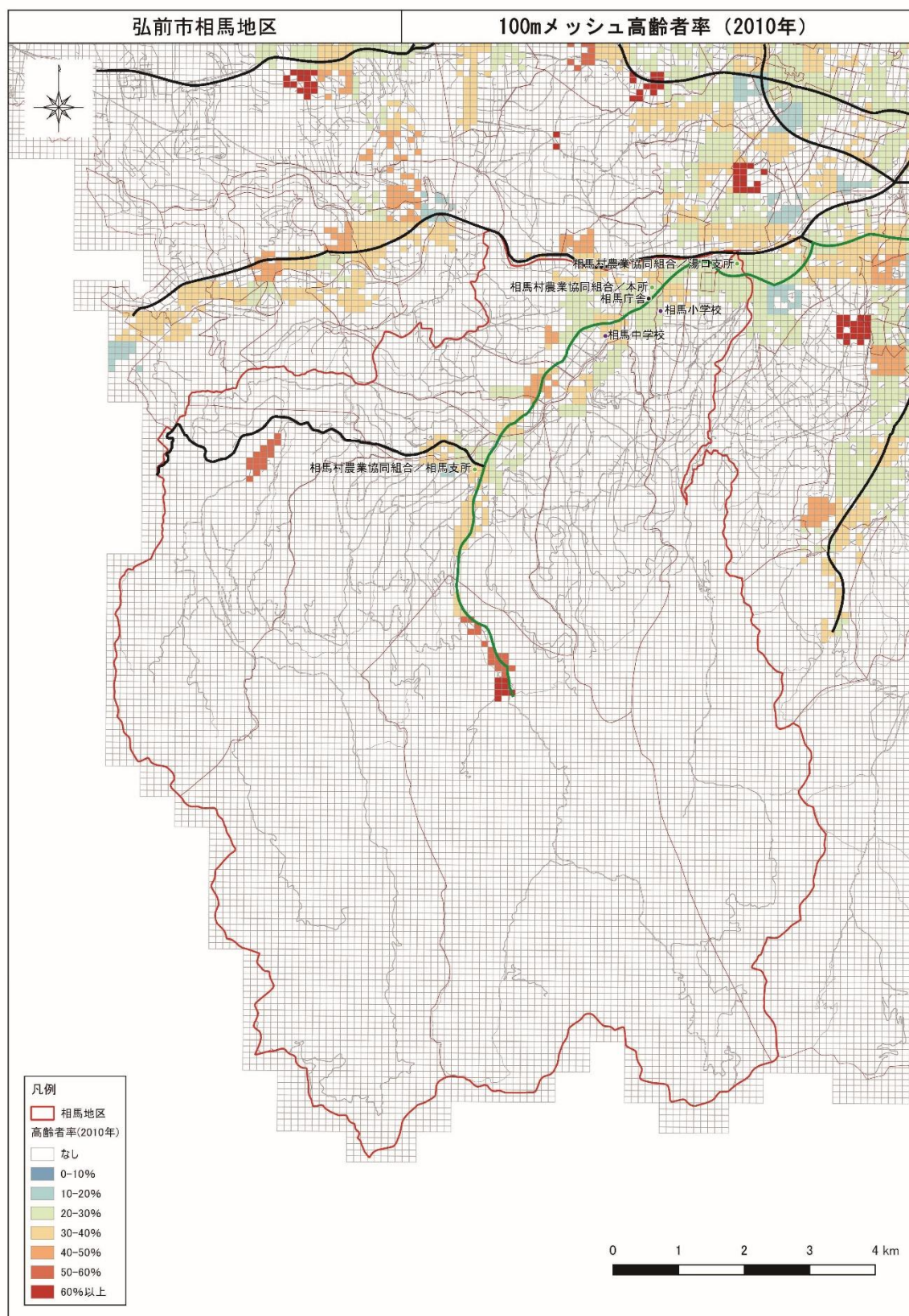
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-40 人口分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



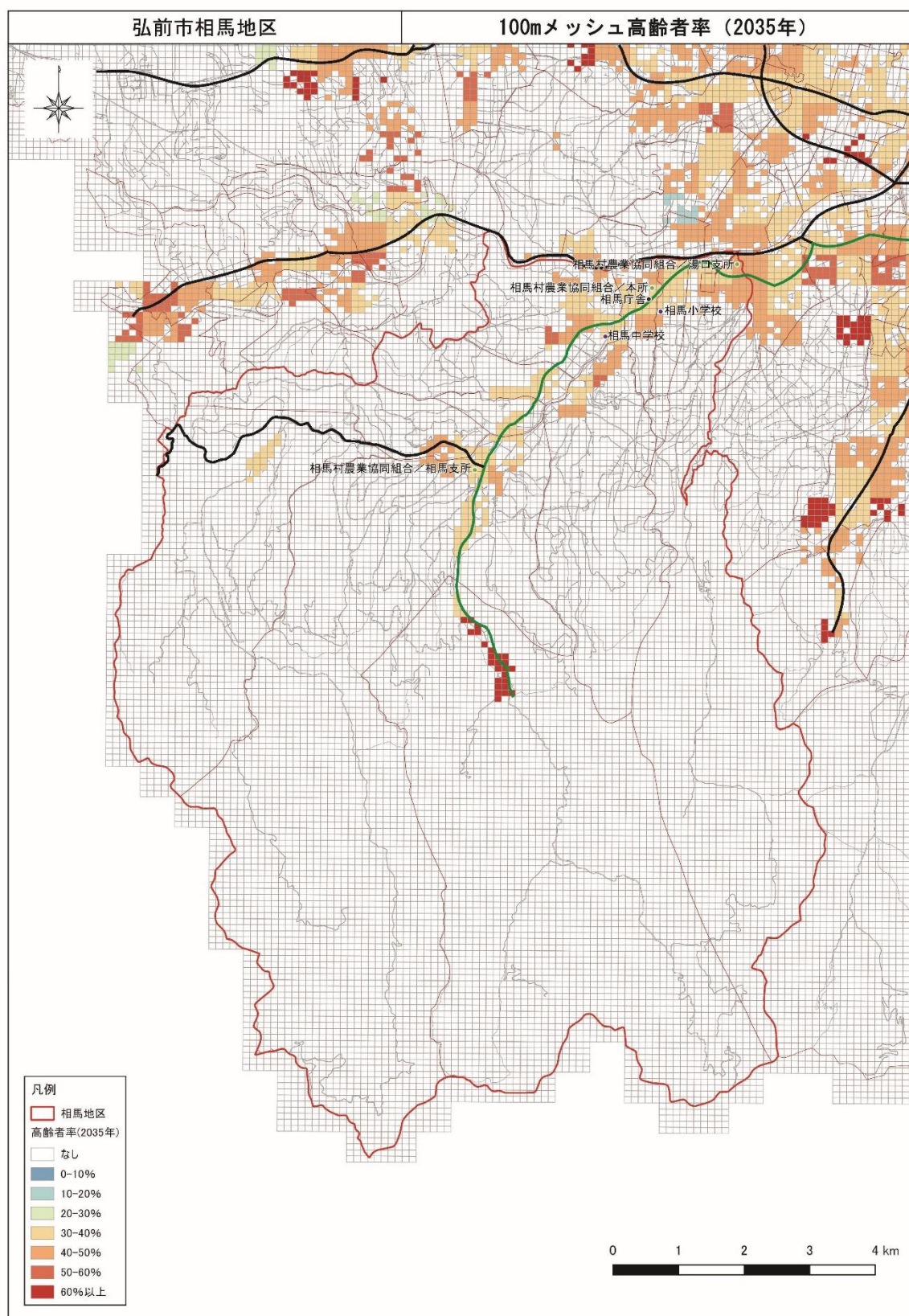
* 「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-41 高齢化率分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



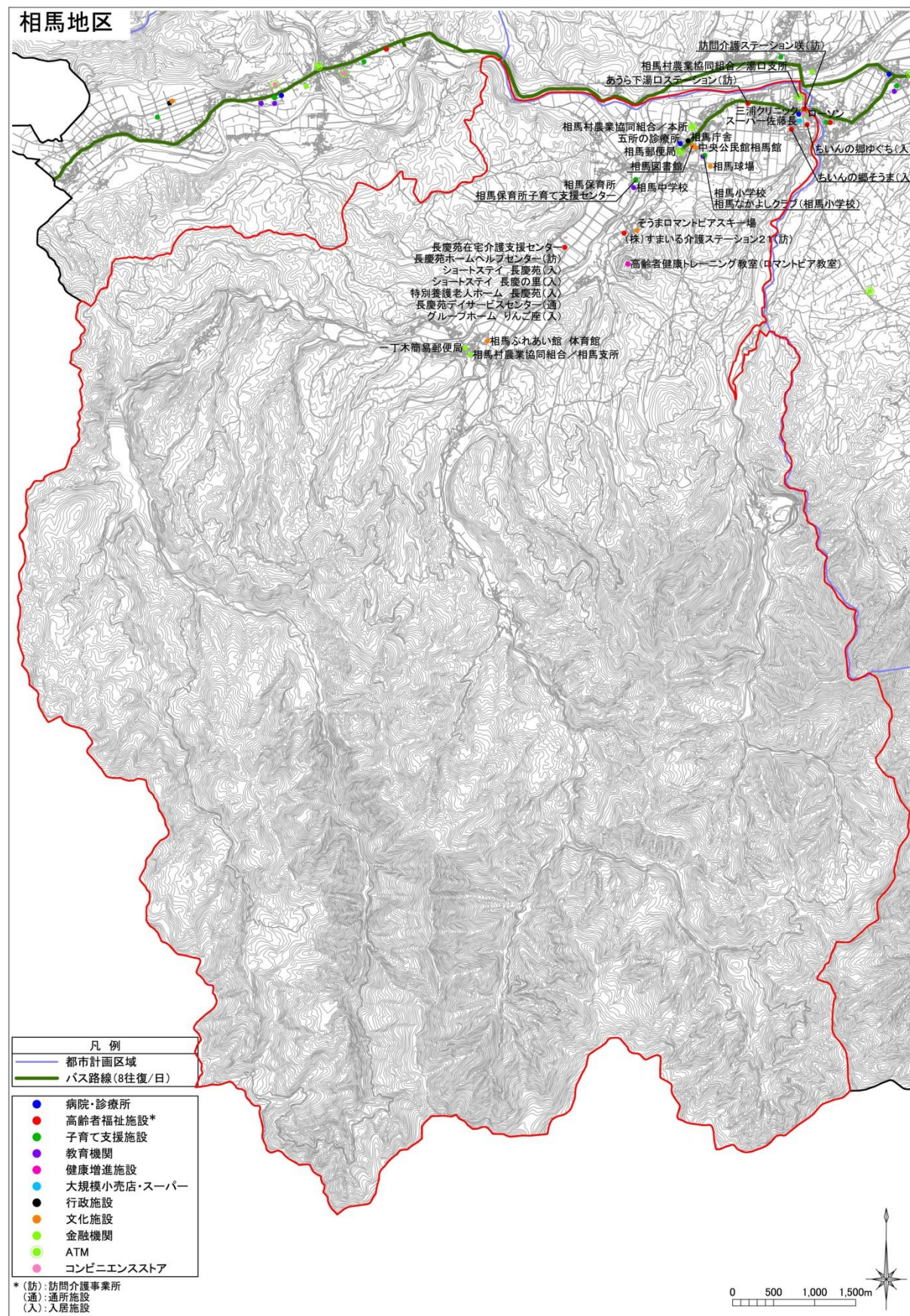
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-42 高齢化率分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



* 「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-43 生活利便施設・公共交通



* 「国土数値情報/国土交通省」「高齢者介護保健福祉ガイドブック 2015 (事業所等一覧) (平成 28 年 (2016) 2 月作成、弘前市)」他 を基に作成

4) 東目屋地区を取り巻く現状と将来の見通し

①人口

- 人口は、平成 17 年（2005）2,569 人から平成 28 年（2016）1,986 人まで急速に減少しています。
- 世帯数は、平成 17 年（2005）734 世帯から平成 28 年（2016）772 世帯までの間に微増しており、世帯人員は、平成 17 年（2005）3.5 人/世帯から平成 28 年（2016）2.57 人/世帯までの間で約 1.0 人減少しています。
- 高齢者の割合は平成 7 年（1995）からの平成 22 年（2010）の間で 13%増加し、34.5%となっています。
- 人口は、バス路線沿いに带状に広く分布しており、国吉、桜庭、中畑には特に多く分布しています。
- 人口密度は、全体的に低くなり、令和 17 年（2035）には 30 人/ha 以上の地域がほとんどなくなります。
- 高齢化も全体的に進む見込みで、令和 17 年（2035）にはほとんどの地域が 30%以上で、40%の地域も目立ってきます。

②生活利便施設分布・公共交通

生活利便施設

- 生活利便施設はバス路線沿いに集中していますが、出張所、ふれあいセンターと保育園が集落から少し離れた県道 28 号線沿いに立地しています。
- 文化施設や医療機関、子育て支援施設、高齢者福祉施設、コンビニエンスストア等は立地していますが、スーパーは立地していません。

公共交通

- 市中心部と当地区の間を運行する路線バスは、西目屋村方面まで 14.5 往復/日運行しています。
- 西目屋村から聖愛高校までのバスが朝 1 便のみ運行しています。

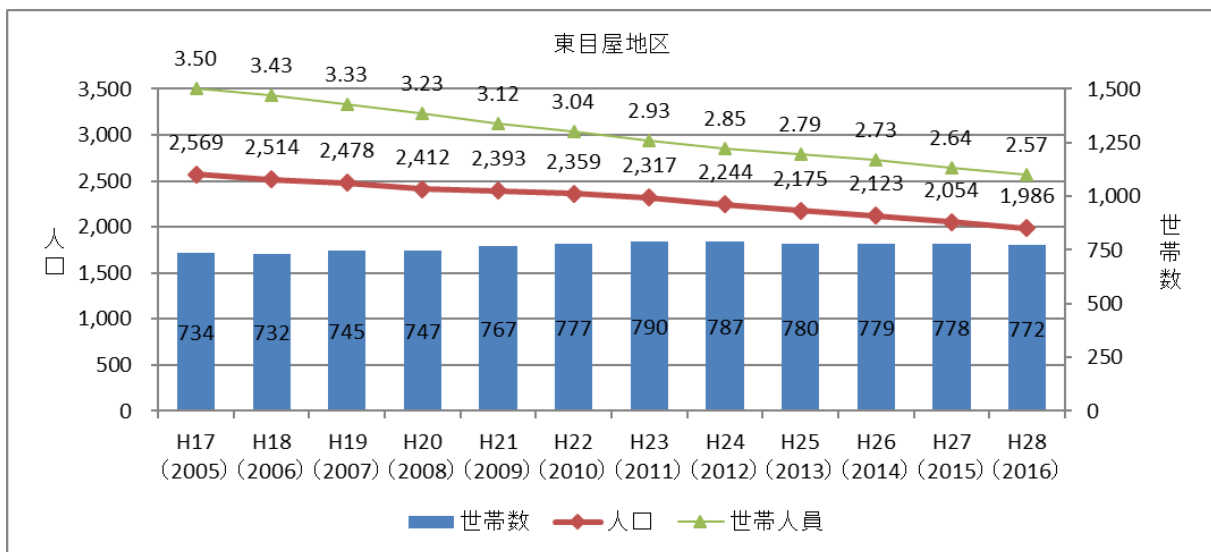
③課題

- 人口減少、少子高齢化が急速に進むため、地域コミュニティや既存の生活利便施設、公共交通の維持が困難になる可能性があります。
- 生活必需品が地区内で揃えられず、医療機関も診療所 1 件の立地のみのため、樋の口や中心地区の都市機能誘導区域の施設に頼る必要があり、移動手段の確保も重要となります。
- 現存の小・中学校の立地に対して居住は広がって分布しているため、学校を中心とした地域コミュニティの維持が困難になる可能性があります。

④展望

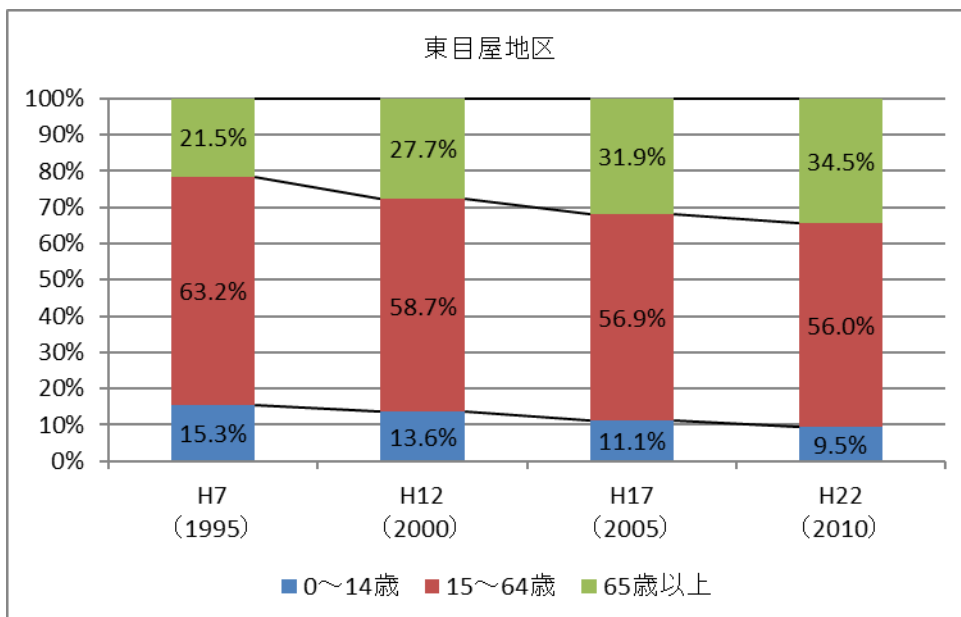
- 居住が広く分布していますが、出張所や小・中学校がある地域を機能分担した拠点とし、住民主体の様々な工夫した活動により若者の定住やUターンにつなげ、持続的な農業生産と地域コミュニティを維持していきます。
- 地区に現在立地している生活利便施設を住民が積極的に利用し維持していける気運や環境づくり等を、地域住民と共に検討し実施していきます。
- 生活に必要なサービスを受けられるよう、樋の口や中心地区の都市機能誘導区域と連携を図りながら、地域の特性を生かした農業を軸とした田園特有の豊かな暮らしを持続させていきます。

図表 4-44 人口・世帯数・世帯人員の推移



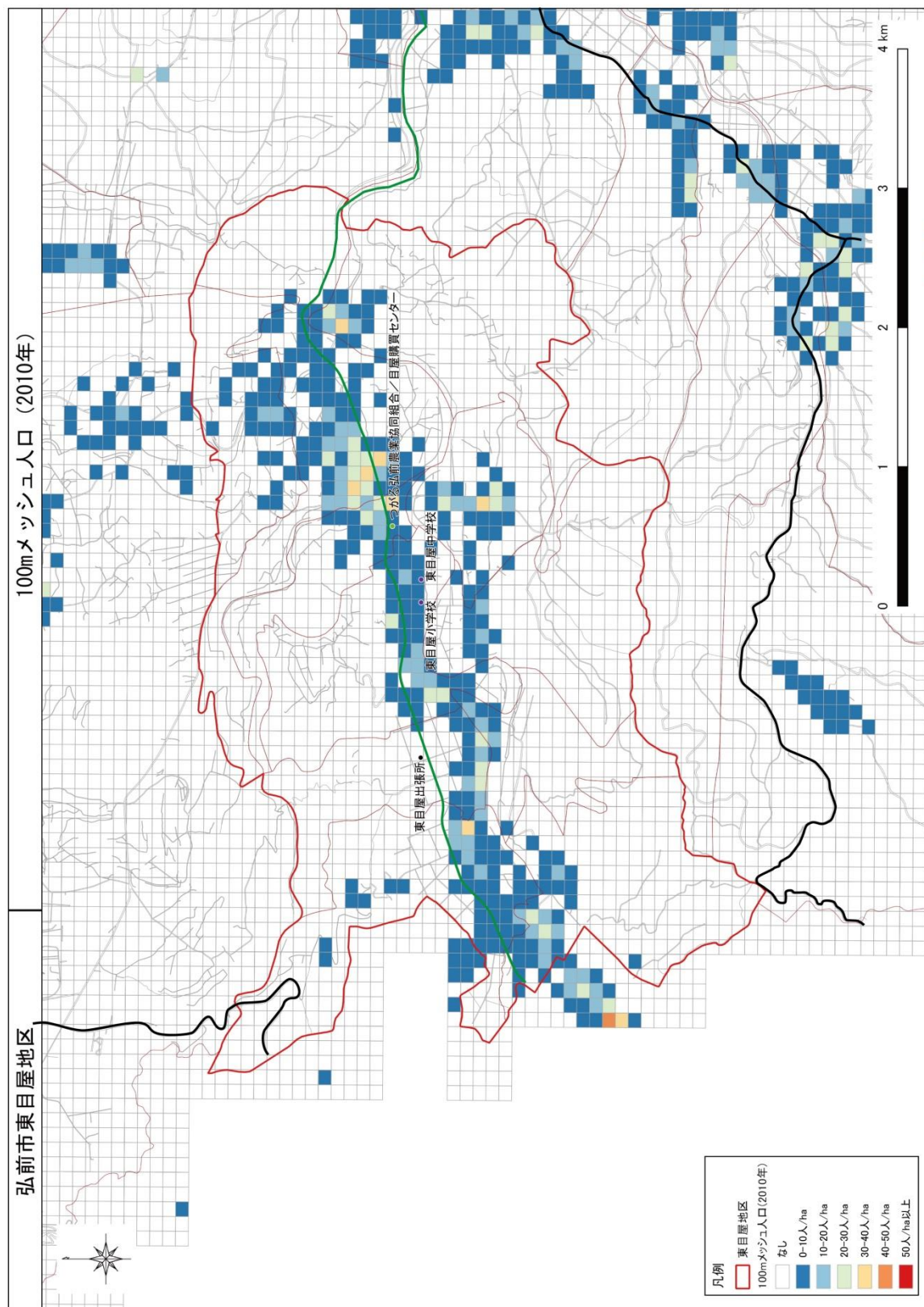
資料：「弘前市住民基本台帳（各年4月1日時点）」
 ※平成25年（2013）以降は、外国人人口、世帯数を含む。

図表 4-45 年齢別人口割合の推移



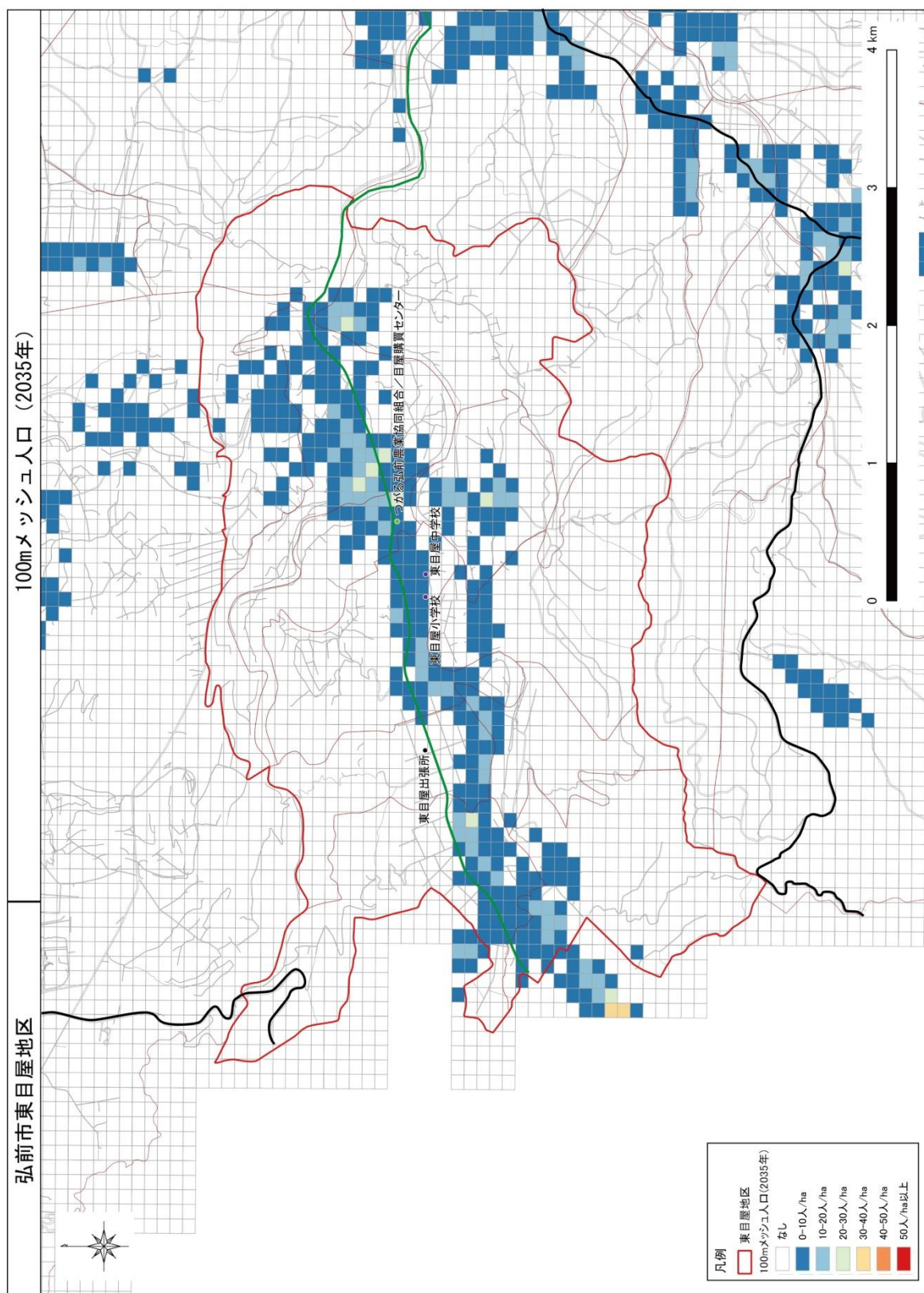
資料：「国勢調査」

図表 4-46 人口分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



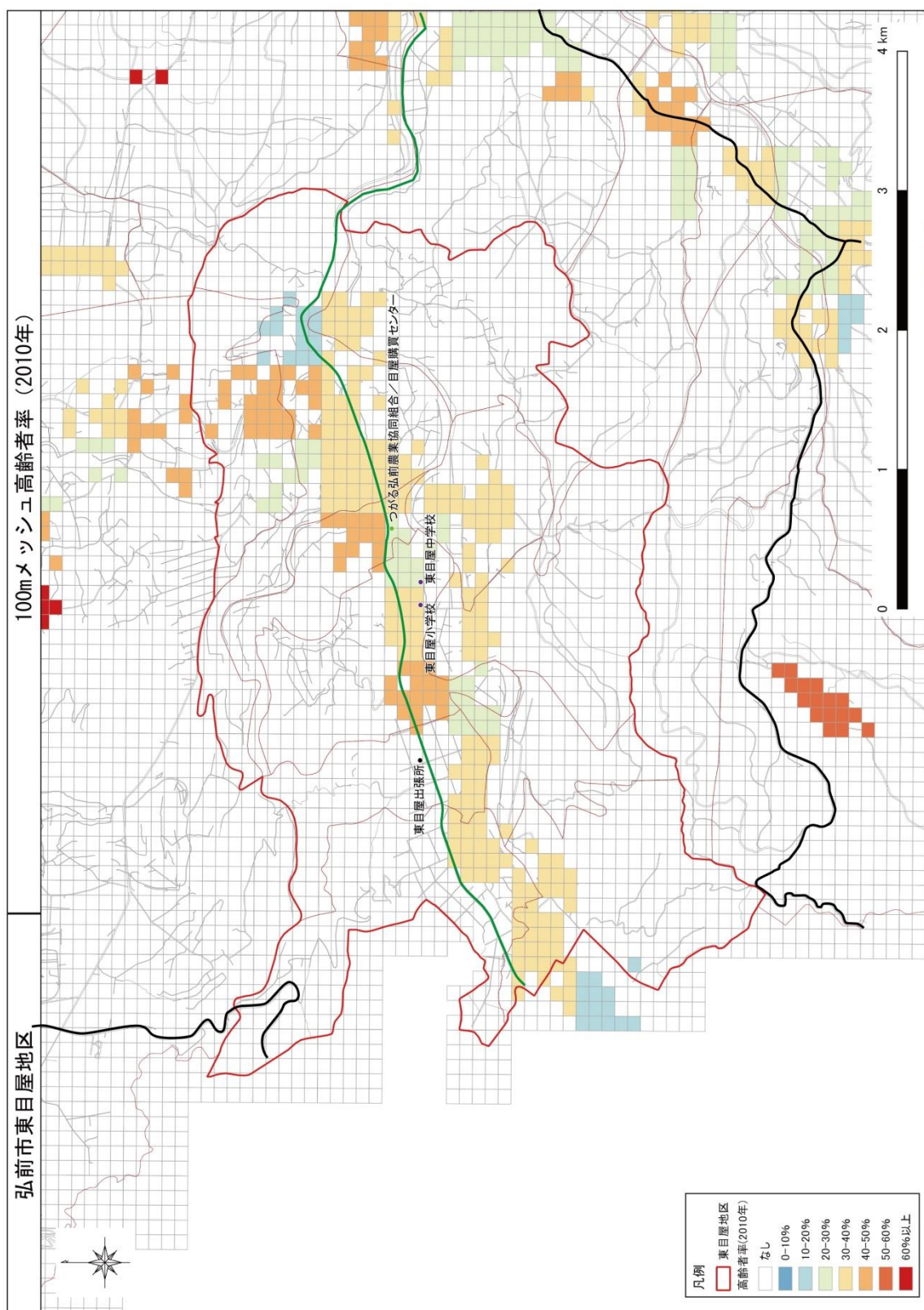
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-47 人口分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



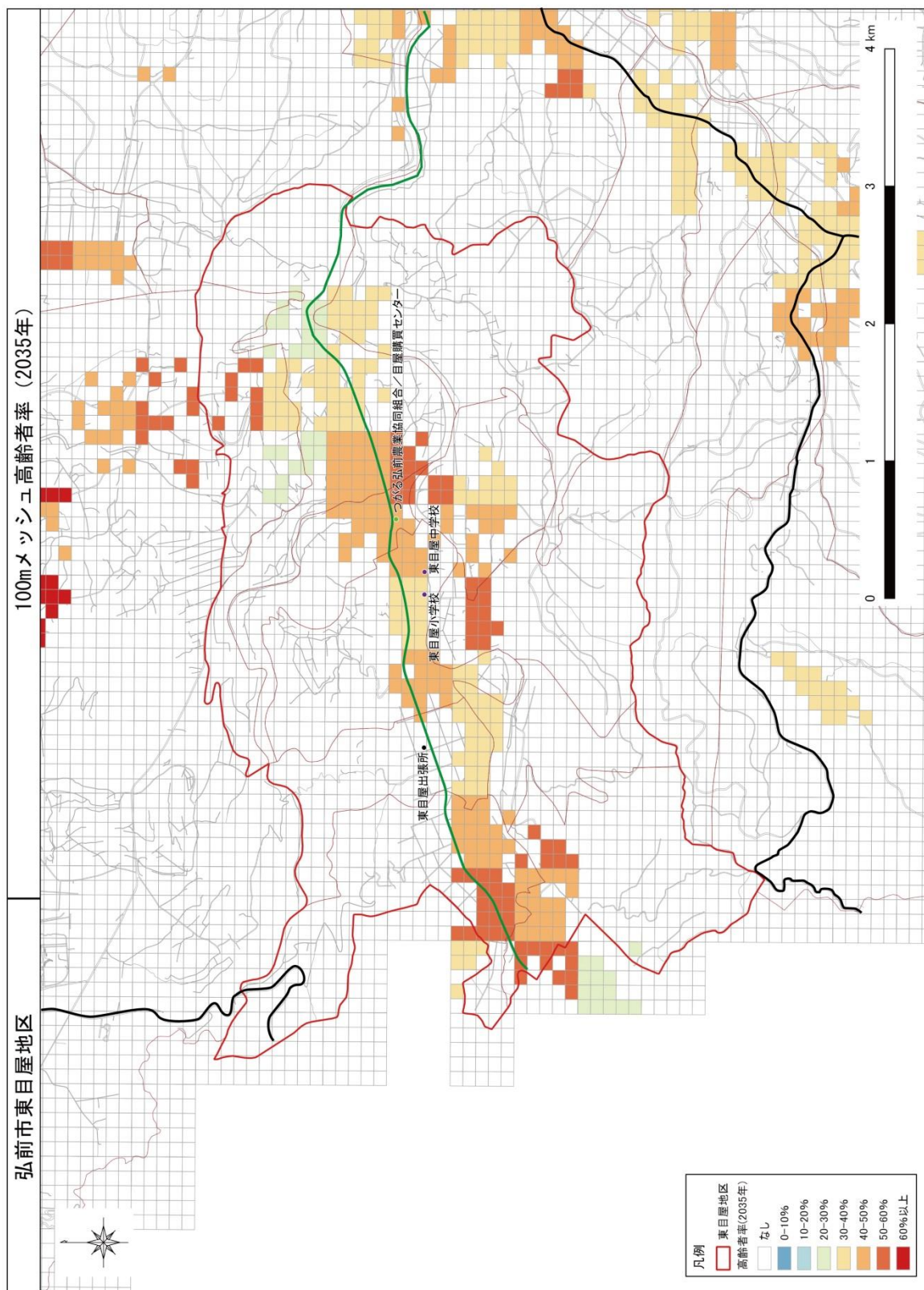
* 「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100mメッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-48 高齢化率分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



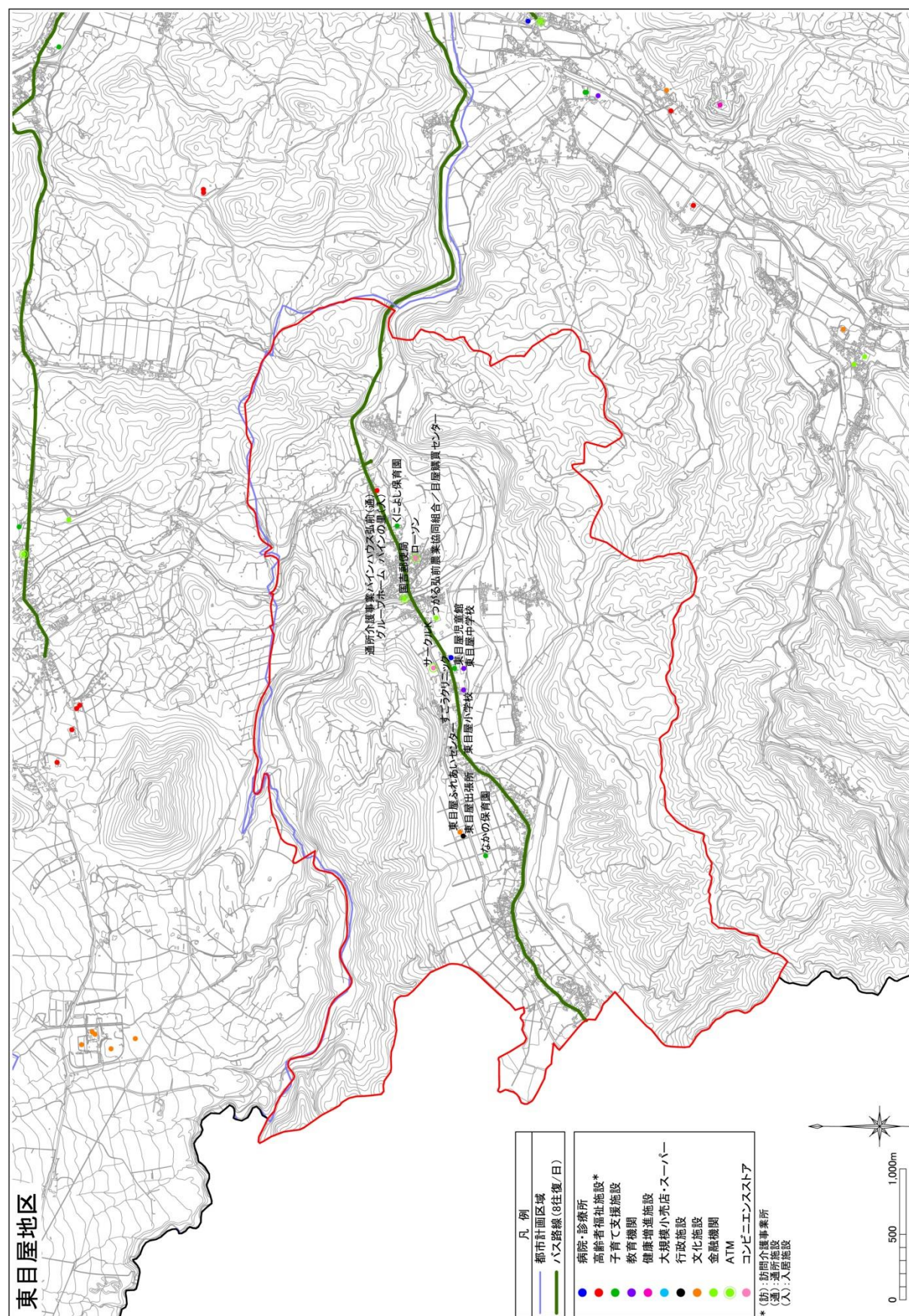
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-49 高齢化率分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-50 生活利便施設・公共交通



*「国土数値情報/国土交通省」「高齢者介護保健福祉ガイドブック 2015（事業所等一覧）（平成 28 年（2016）2 月作成、弘前市）」他 を基に作成

5) 船沢地区を取り巻く現状と将来の見通し

①人口

- 人口は、平成 17 年 (2005) 3,205 人から平成 28 年 (2016) 2,728 人までの間で約 500 人減少しています。
- 世帯数は、平成 17 年 (2005) 957 世帯から平成 28 年 (2016) 1,024 世帯まで微増し、世帯人員は、0.69 人/世帯減少し、2.66 人/世帯となっています。
- 高齢化が進んでおり、65 歳以上の人口割合は、平成 17 年 (2005) から平成 22 年 (2010) で約 10%増加し 29.1%となっています。
- 人口分布は地区内に拡散しており、県道 41 号線沿いの蒔苗、富栄、県道 35 号線沿いの折笠、中別所、宮館に広く分布し、少し離れた細越、弥生の集落があります。
- 人口密度は、全体的に低くなり、令和 17 年 (2035) には 30 人/ha 以上の地域がほとんどなくなります。
- 高齢化も全体的に進む見込みで、令和 17 年 (2035) にはほとんどの地域が 30%以上で、40%の地域も目立ってきます。

②生活利便施設分布・公共交通

生活利便施設

- 人口が集中している地域に生活利便施設が立地していません。
- 出張所周辺に生活利便施設が集中して立地して地区の拠点となっており、教育機関や行政・文化施設、子育て支援施設、金融機関があります。
- 弥生には、教育機関等が立地しています。

公共交通

- 市中心部と当地区の間を運行する路線バスは、岩木庁舎を経由した富栄、弥生方面へ 6.5 往復/日、石渡を経由した船沢方面へ 6.5 往復/日運行していますが、三ツ森には 2 往復/日、細越は近くの愛宕か富栄まで移動しなければ公共交通を利用できない状況です。

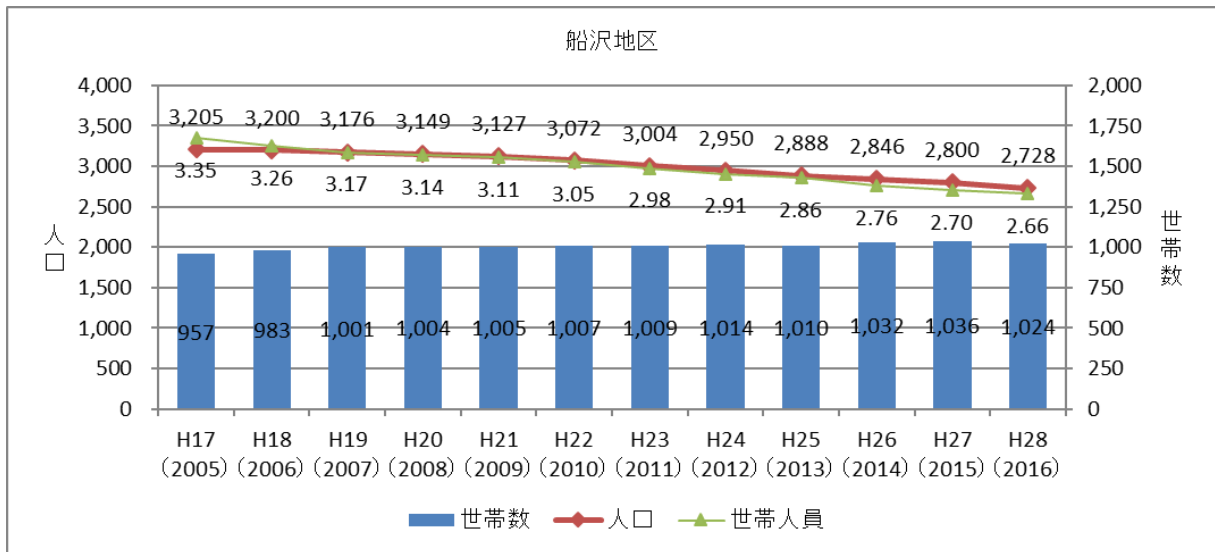
③課題

- 人口は他の田園地域に比べて少なく、人口分布が広く拡散しているため、人口減少や少子高齢化が進むと、農業生産活動や地域コミュニティ、生活利便施設の維持が困難になる可能性があります。
- 中心地区や地域拠点の都市機能誘導区域と当地区を結ぶ公共交通が少ないため、需要に合った効率的な移動手段など当地区住民の生活の利便性を考える必要があります。

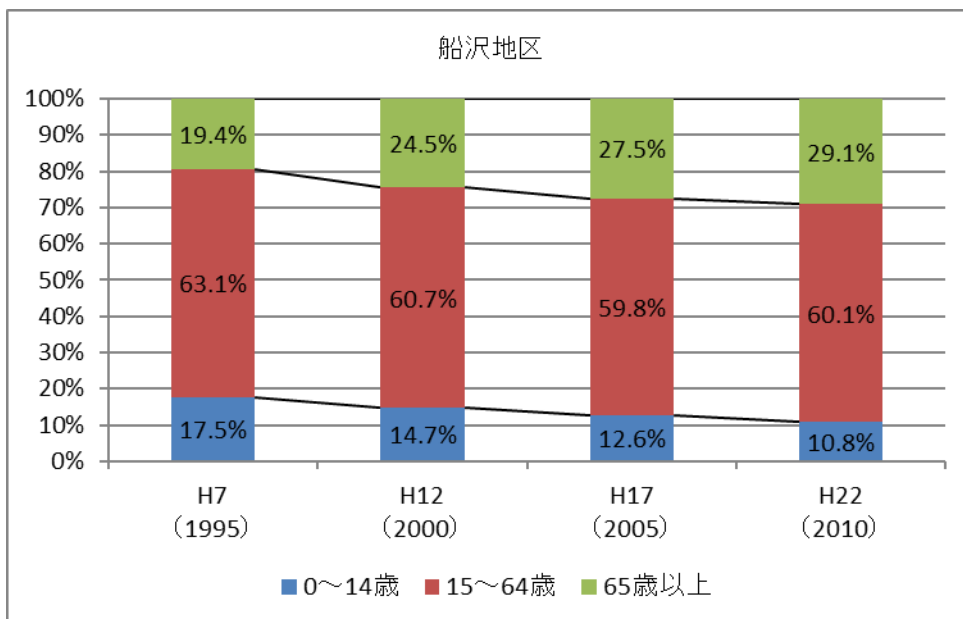
④展望

- 生活利便施設が集中する出張所周辺を拠点とした地域づくりを行い、住民が積極的に利用し維持していける気運や環境づくり等を、地域住民と共に検討し実施していきます。
- 田園の生活に必要なサービスを受けられるよう、中心地区や地域拠点とソフト面での連携の充実を図ります。
- 将来の地域のビジョンを地域住民と一緒に考え、住みやすい生活環境と地域コミュニティの維持を図ります。

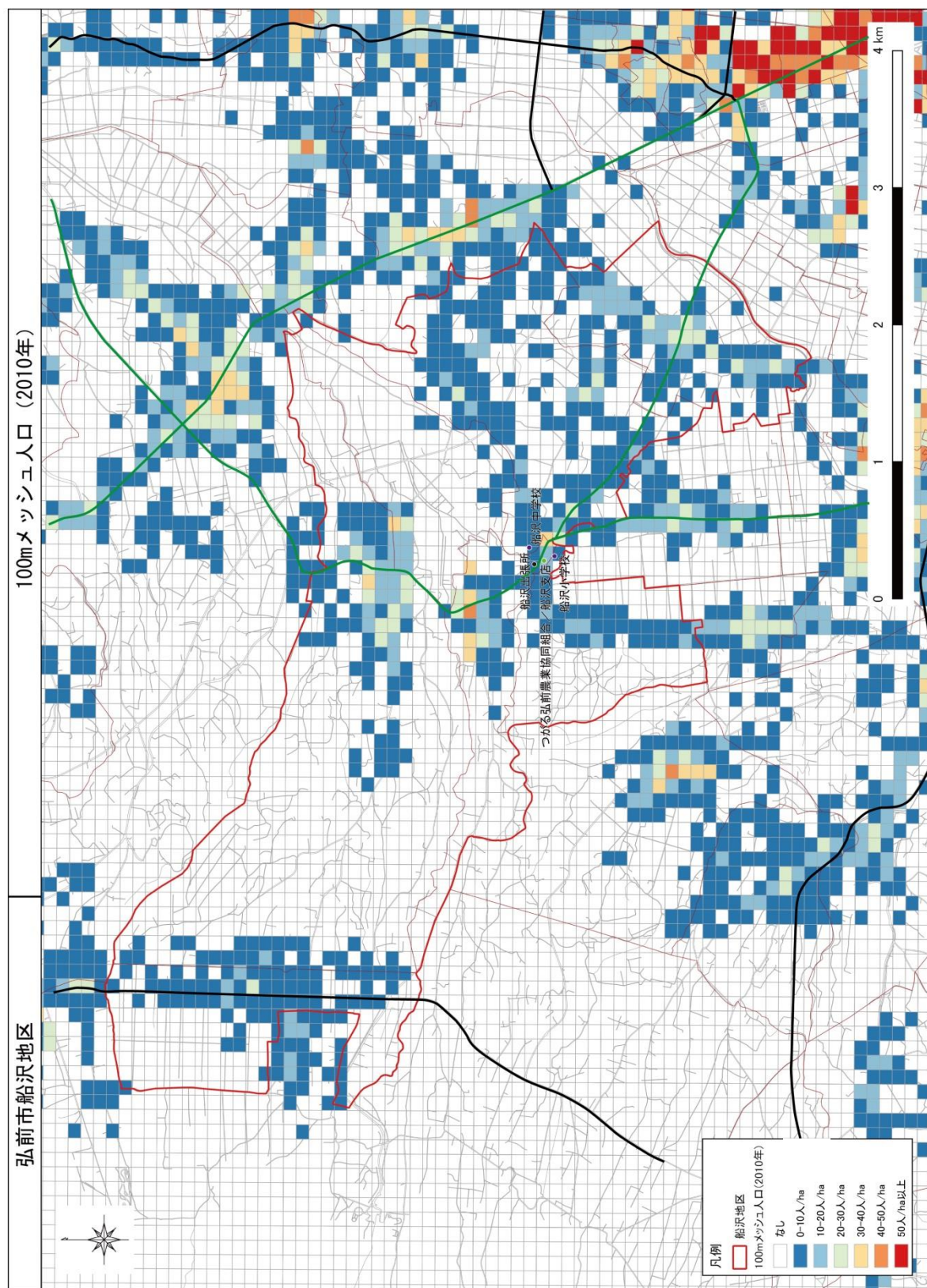
図表 4-51 人口・世帯数・世帯人員の推移



図表 4-52 年齢別人口割合の推移

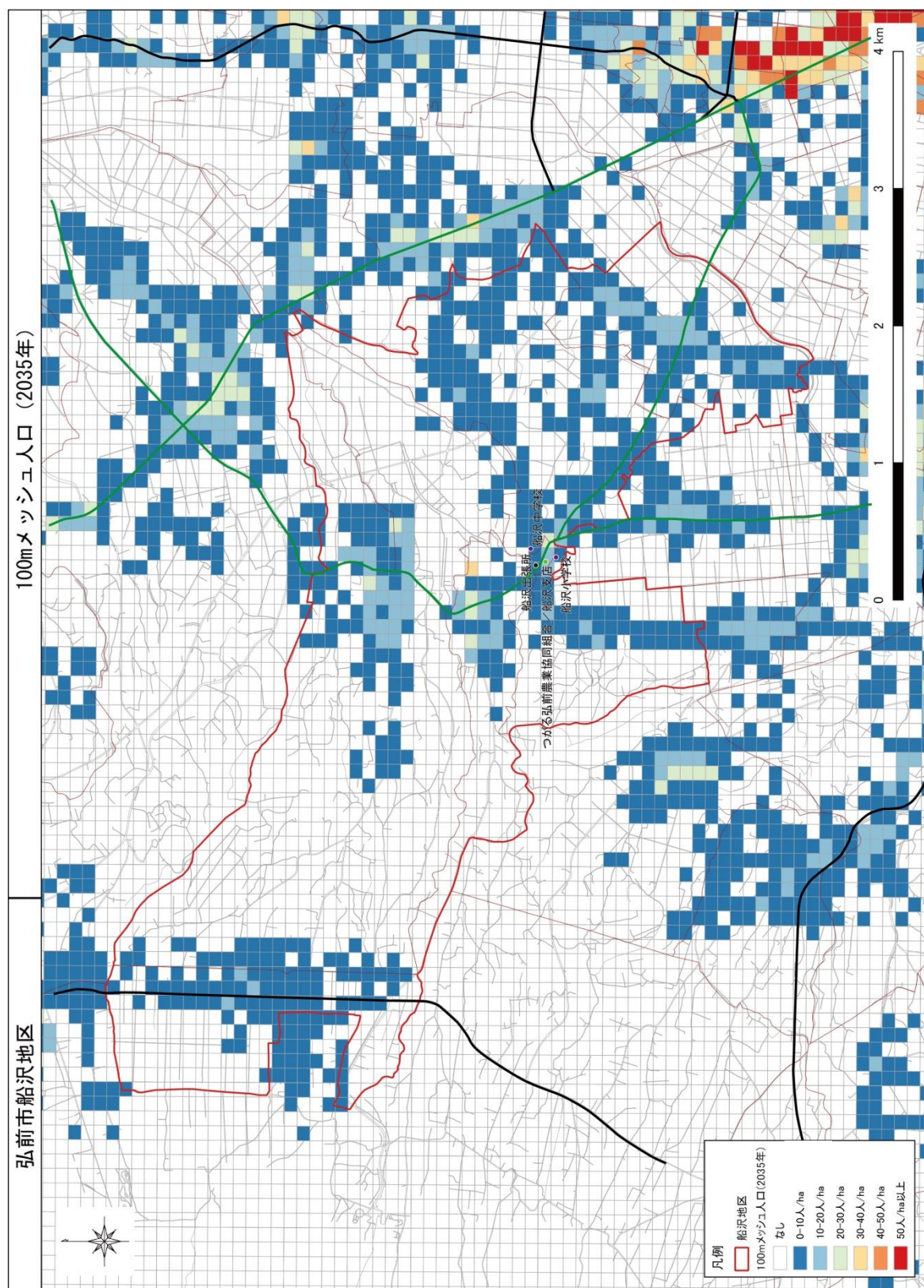


図表 4-53 人口分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



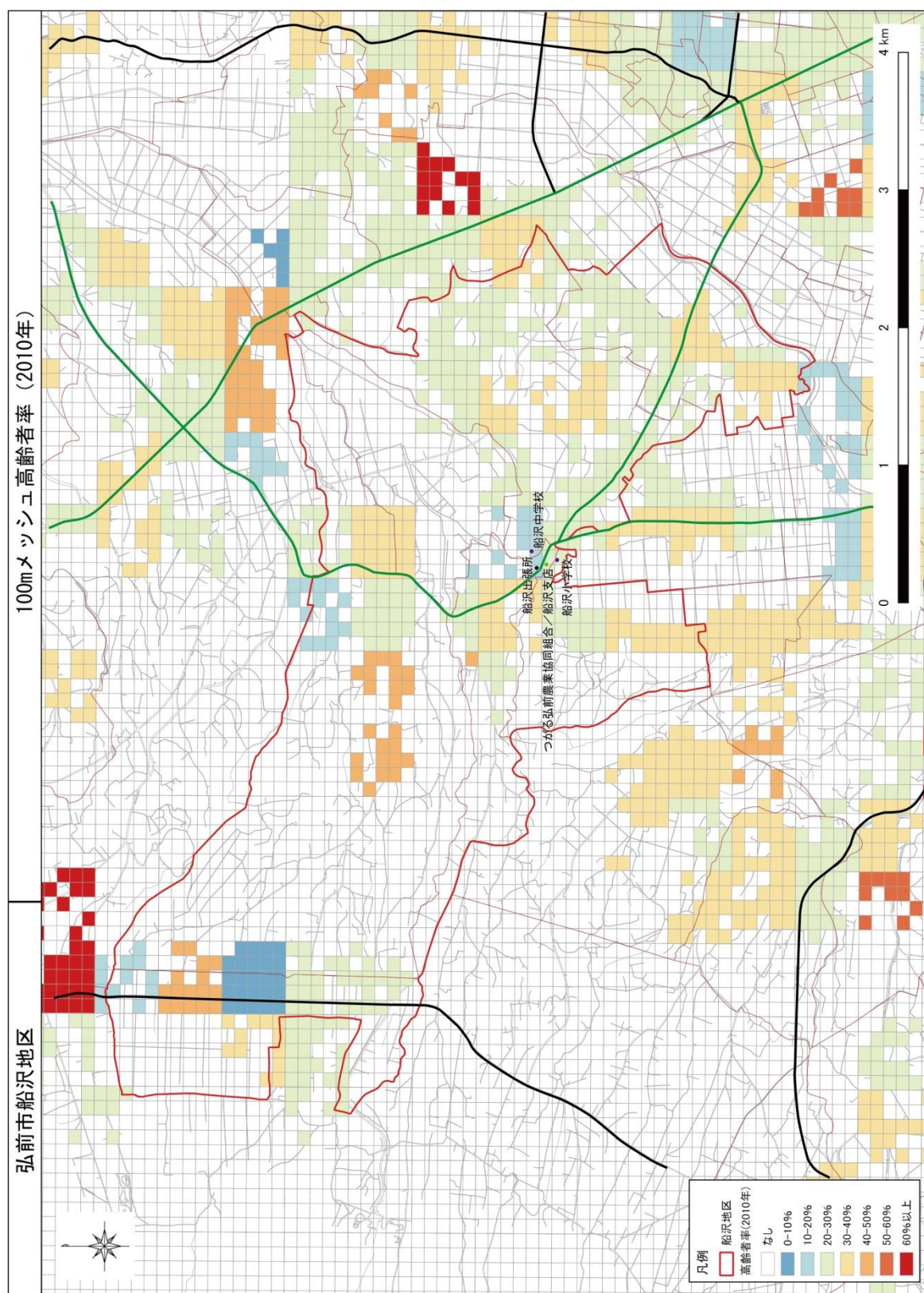
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-54 人口分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



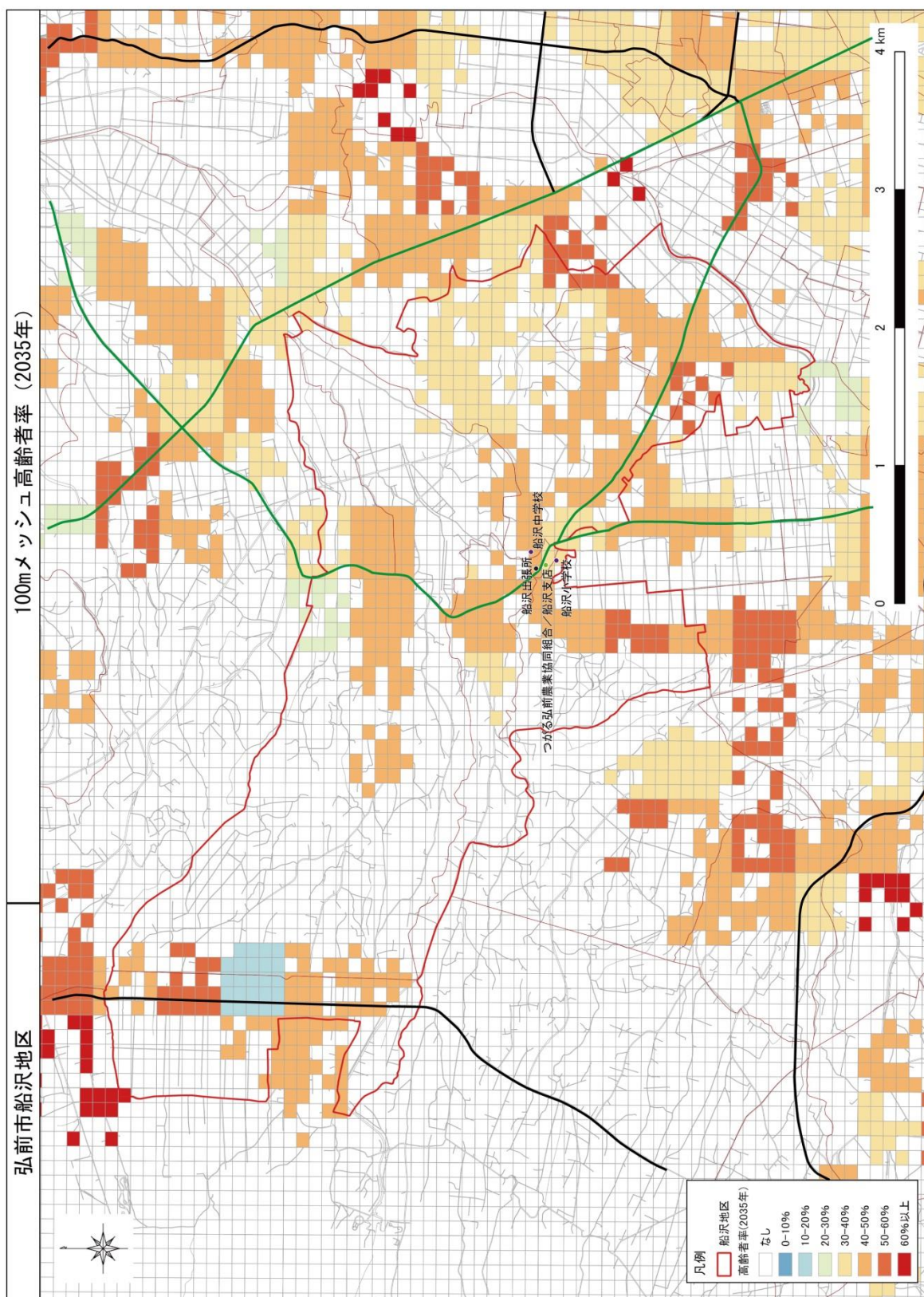
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-55 高齢化率分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



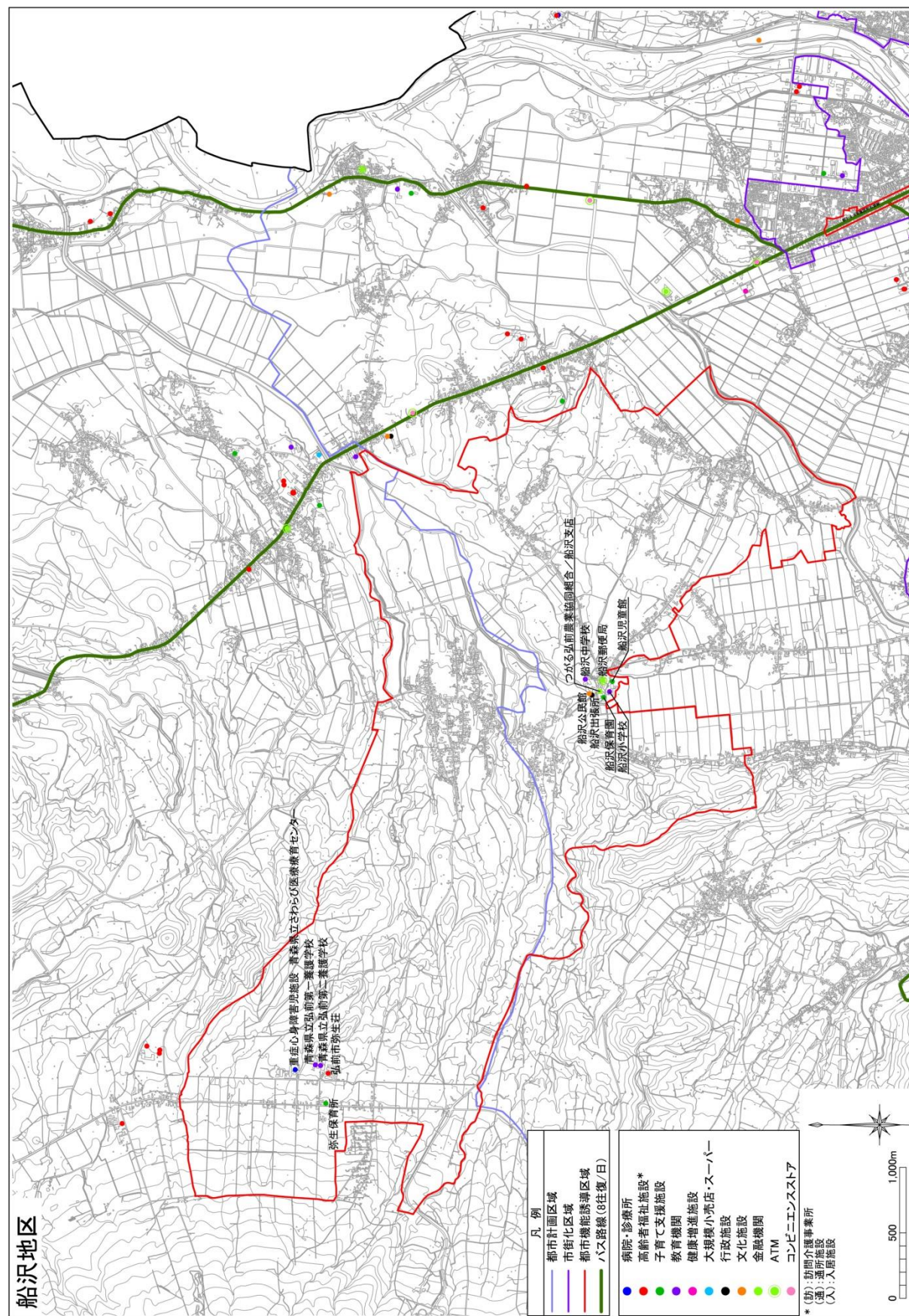
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-56 高齢化率分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-57 生活利便施設・公共交通



*「国土数値情報/国土交通省」「高齢者介護保健福祉ガイドブック 2015（事業所等一覧）（平成 28 年（2016）2 月作成、弘前市）」他 を基に作成

6) 高杉地区を取り巻く現状と将来の見通し

①人口

- 人口は、平成 17 年（2005）3,983 人から平成 28 年（2016）3,518 人までの間で約 400 人減少しています。
- 世帯数は、平成 17 年（2005）から平成 28 年（2016）の間に 145 世帯増加して 1,418 世帯となっており、世帯人員は 0.65 人/世帯減少して 2.48 人/世帯となっています。
- 高齢者の割合は、平成 7 年度（1995 年度）（22.4%）から平成 22 年度（2010 年度）（34.0%）までの間に約 12%増加しています。
- 人口は、主要な道路沿いの独狐、前坂、高杉に集中していますが、元薬師堂や糠坪のように少し離れた地域に点在した集落もあります。
- 人口密度は全体的に低くなり、令和 17 年（2035）には 30 人/ha 以上のところがほとんどなくなります。
- 高齢化も全体的に進む見込みで、令和 17 年（2035）にはほとんどの地域が 30%以上で、40%以上の地域も目立ってきます。

②生活利便施設分布・公共交通

生活利便施設

- 主要な県道 31 号線沿いに多く立地しています。
- 高齢者福祉施設が多く立地しているほか、スーパーやコンビニエンスストアも立地しています。
- 病院・診療所は立地していません。

公共交通

- 市中心部と当地区の間を運行する路線バスは、前坂、高杉南口まで 14 往復/日運行し、その後、鬼沢経由の堂ヶ沢方面が 9.5 往復/日、糠坪経由の堂ヶ沢方面が 5 往復/日運行しています。
- 鰯ヶ沢から聖愛高校までのバスが朝 1 便のみ運行しています。

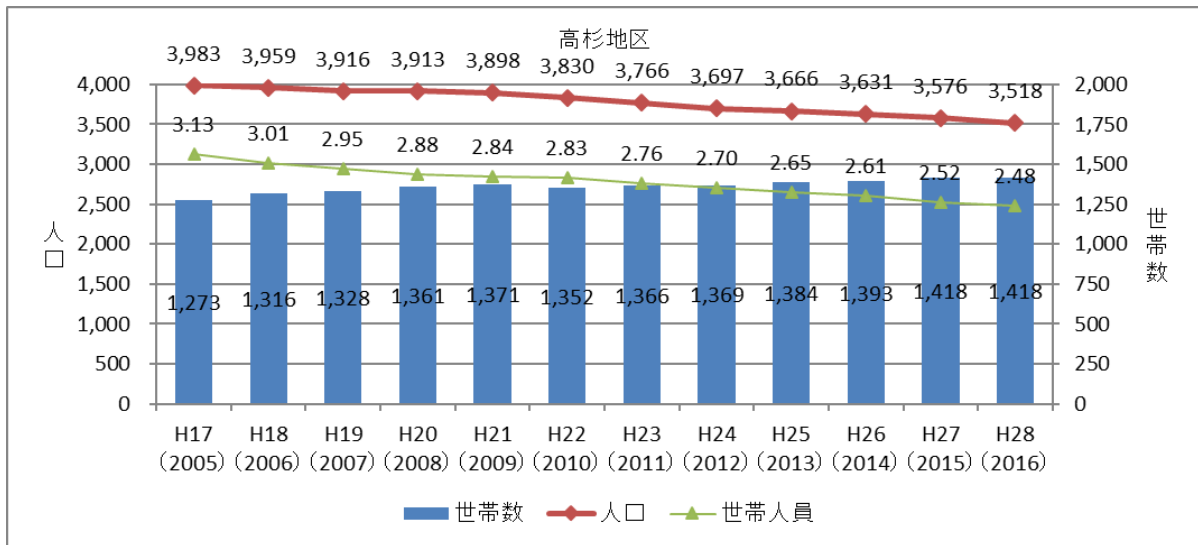
③課題

- 人口の分布は比較的まとまっていますが、全体的に人口減少や高齢化が進み、コミュニティや生活利便施設の維持、移動手段の確保等が困難になる可能性があります。
- 高齢化に対応した医療機関等の確保はますます困難になります。

④展望

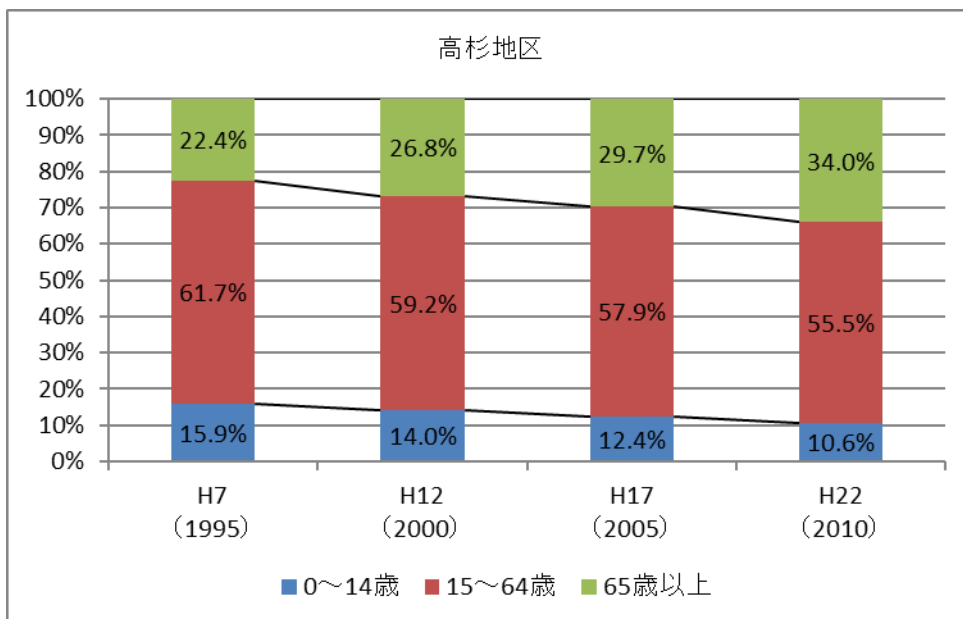
- 住民主体の取組を、地域の住民と一緒に考え実施することで、若者の定住とＵターンにつなぎ、魅力ある地域づくりと地域コミュニティの維持を図ります。
- 地域住民が既存の生活利便施設を積極的に利用し、維持していけるような気運と環境づくりを行う必要があります。
- 生活に必要なサービスを受けられるよう、浜の町や中心部をはじめとする都市機能誘導区域へ移動できる持続可能な公共交通を維持し、都市機能誘導区域との連携を図ります。

図表 4-58 人口・世帯数・世帯人員の推移



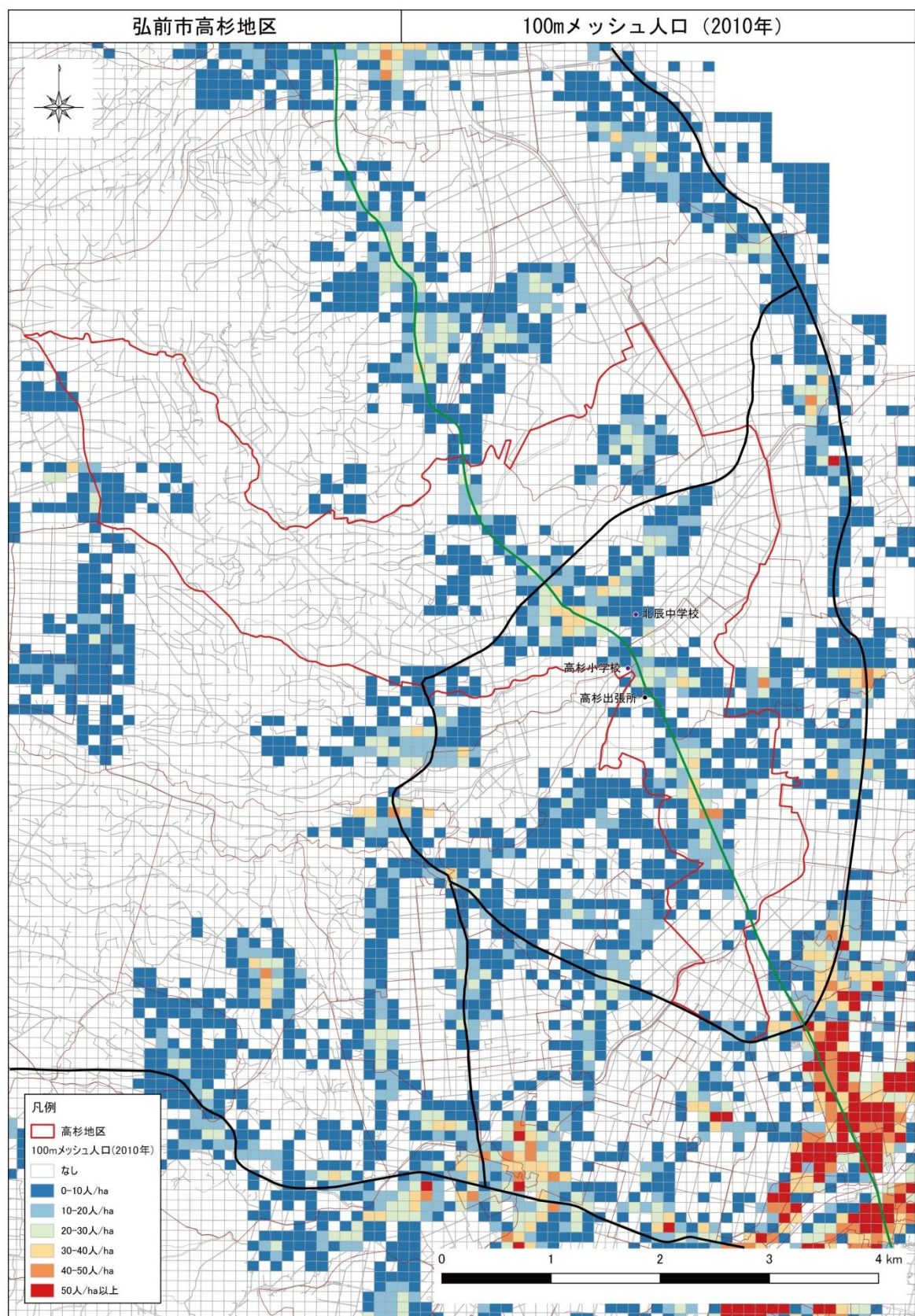
資料：「弘前市住民基本台帳（各年４月１日時点）」
 ※平成 25 年（2013）以降は、外国人人口、世帯数を含む。

図表 4-59 年齢別人口割合の推移



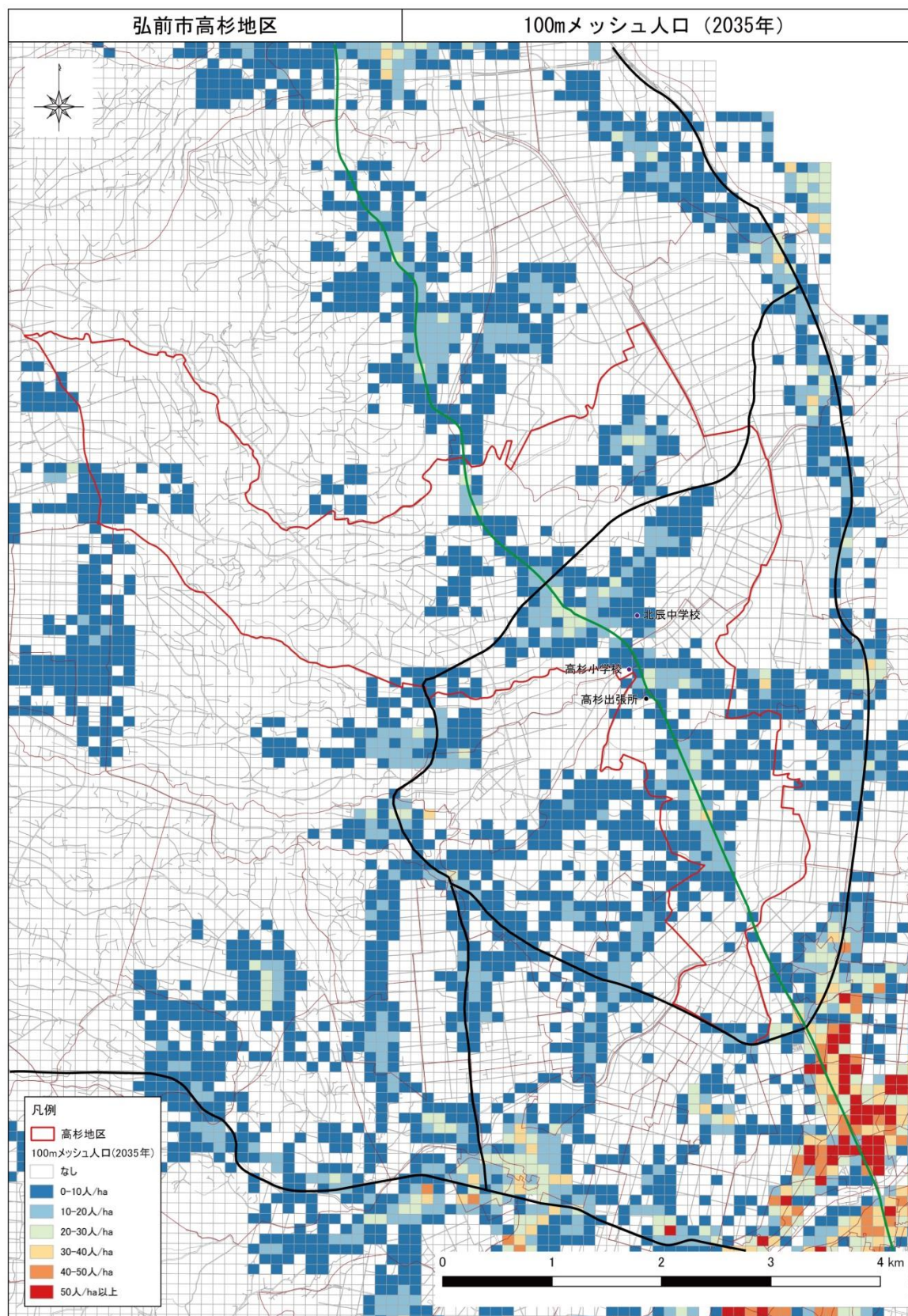
資料：「国勢調査」

図表 4-60 人口分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



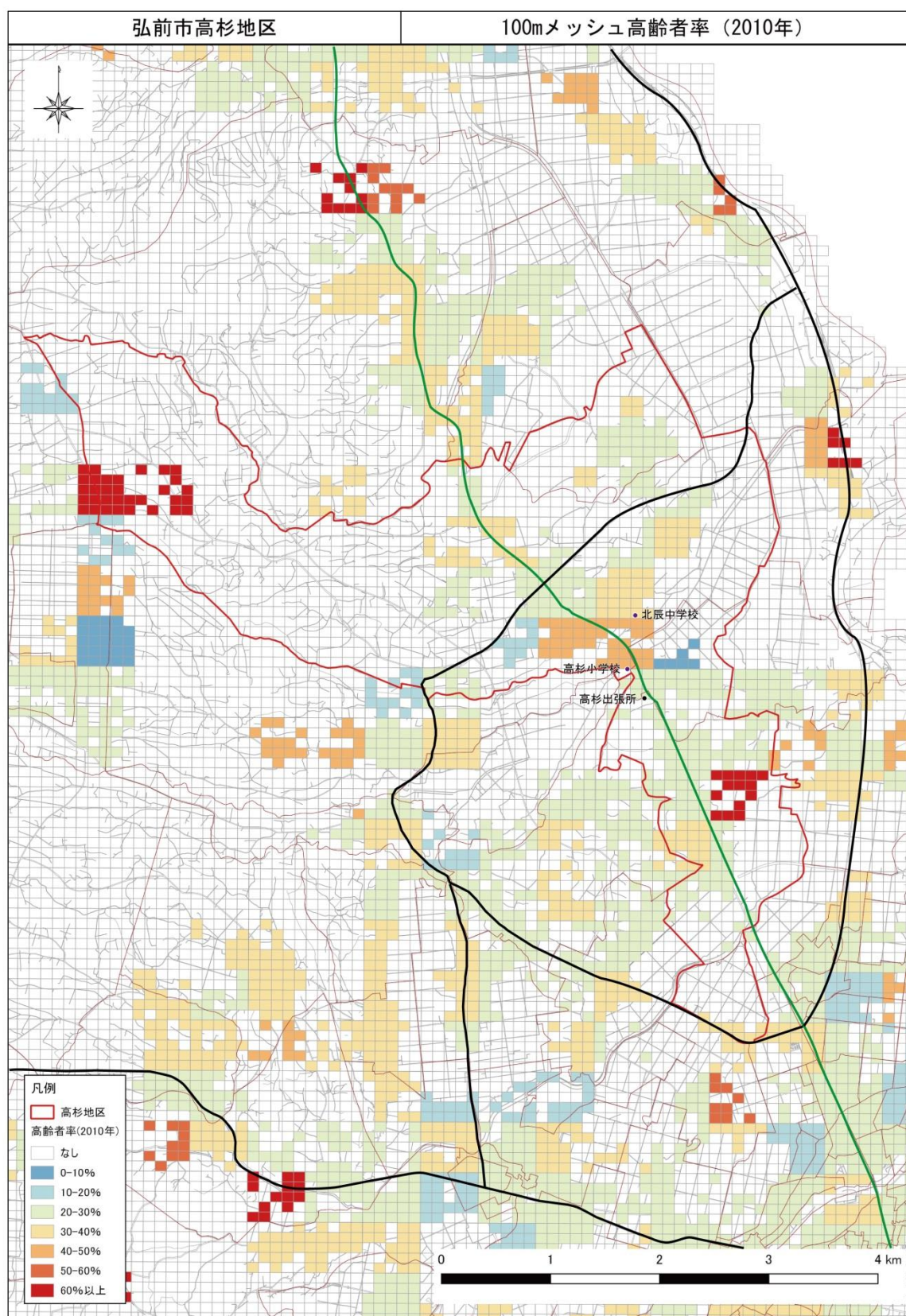
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100mメッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-61 人口分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



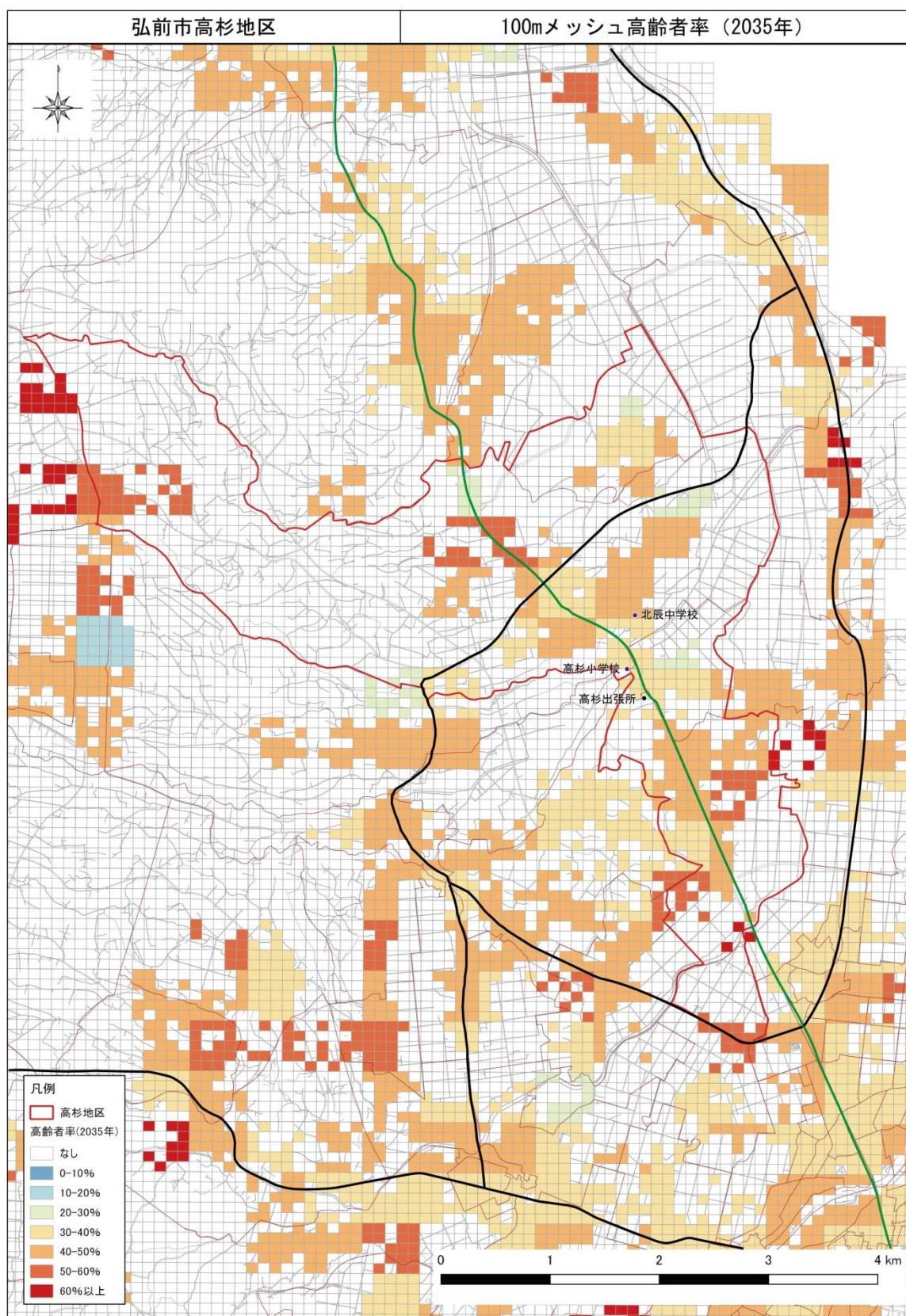
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-62 高齢化率分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



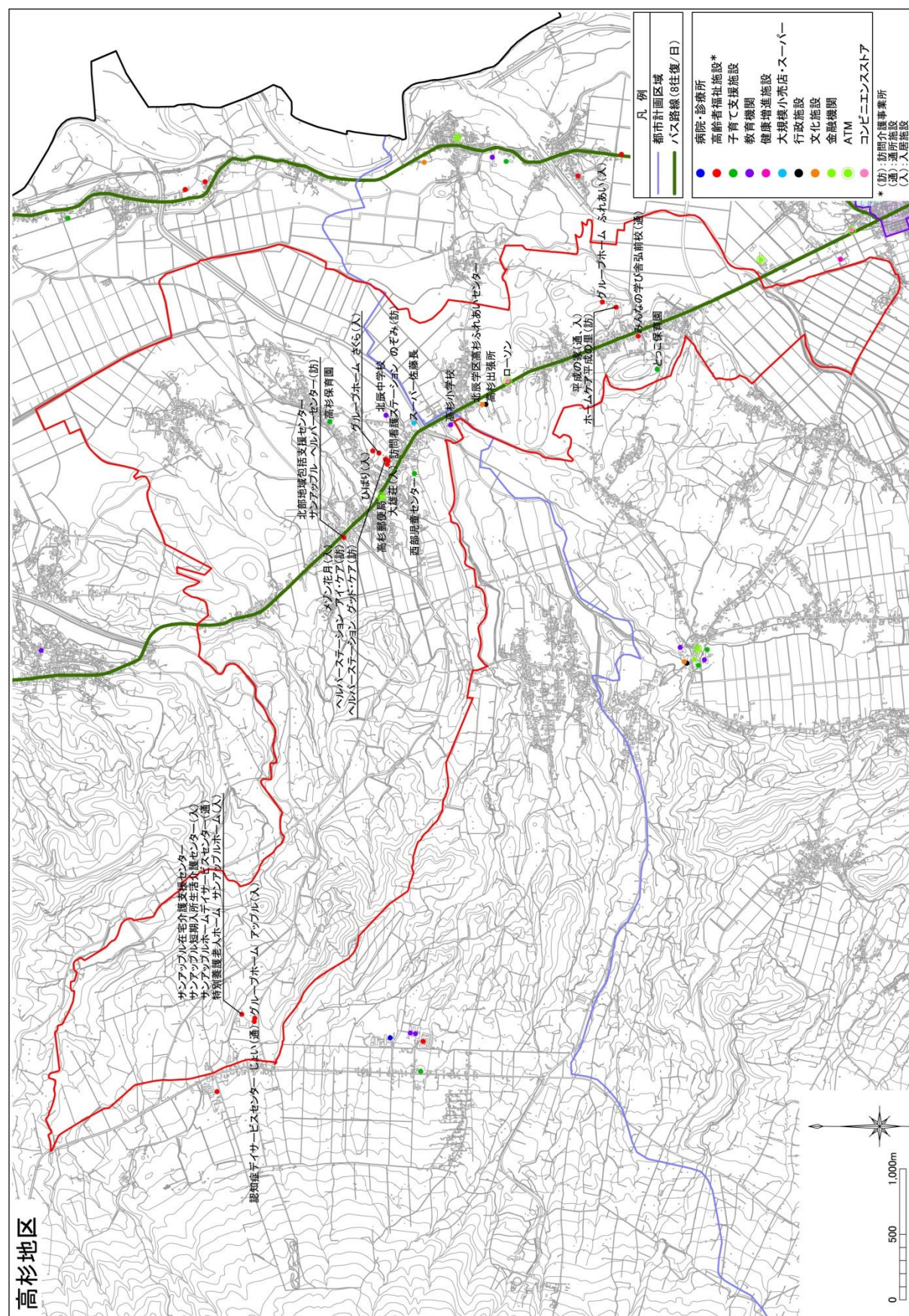
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-63 高齢化率分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



* 「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-64 生活利便施設・公共交通



* 「国土数値情報/国土交通省」「高齢者介護保健福祉ガイドブック 2015（事業所等一覧）（平成 28 年（2016）2 月作成、弘前市）」他 を基に作成

7) 裾野地区を取り巻く現状と将来の見通し

①人口

- 人口は、平成 17 年（2005）4,934 人から平成 28 年（2016）4,047 人までの間で約 900 人減少しています。
- 世帯数はほぼ横ばいで推移していますが、世帯人員は弘前市全体と比べて大きく減少しており、子どもの独立による親の二人暮らしや独居が増えたと推測されます。
- 高齢化率は、平成 7 年（1995）の 18.0%から平成 22 年（2010）の 30.4%まで急激に増加しており、市全体と比べてやや早く進んでいます。
- 人口は県道 31 号線沿いに带状に分布しており、鬼沢に最も多く分布しています。
- 人口密度は全体的に低くなり、令和 17 年（2035）には 30 人/ha 以上のところがほとんどなくなります。
- 高齢化も全体的に進む見込みで、令和 17 年（2035）にはほとんどの地域が 30%以上で、40%以上の地域も目立ってきます。

②生活利便施設分布・公共交通

生活利便施設

- 生活利便施設の立地は、鬼沢、大森、十腰内の集落付近に分散して立地しています。
- 高齢者福祉施設は地区内に 8 件点在しています。
- 商業機能や医療機能は立地していません。
- 大森と十腰内の間の人口分布が少ない地域に裾野小・中学校が立地しており、自得小学校は高杉地区の中学校学区となっています。

公共交通

- 市中心部と当地区の間を運行する路線バスは、堂ヶ沢までは 14 往復/日運行し、その後、十腰内方面が 5.5 往復/日運行しています。
- 新和地区と当地区を横断するバスは、2 往復/日運行しています。
- 鰯ヶ沢から聖愛高校までのバスが朝 1 便のみ運行しています。

③課題

裾野地区の課題を次のようにまとめます。

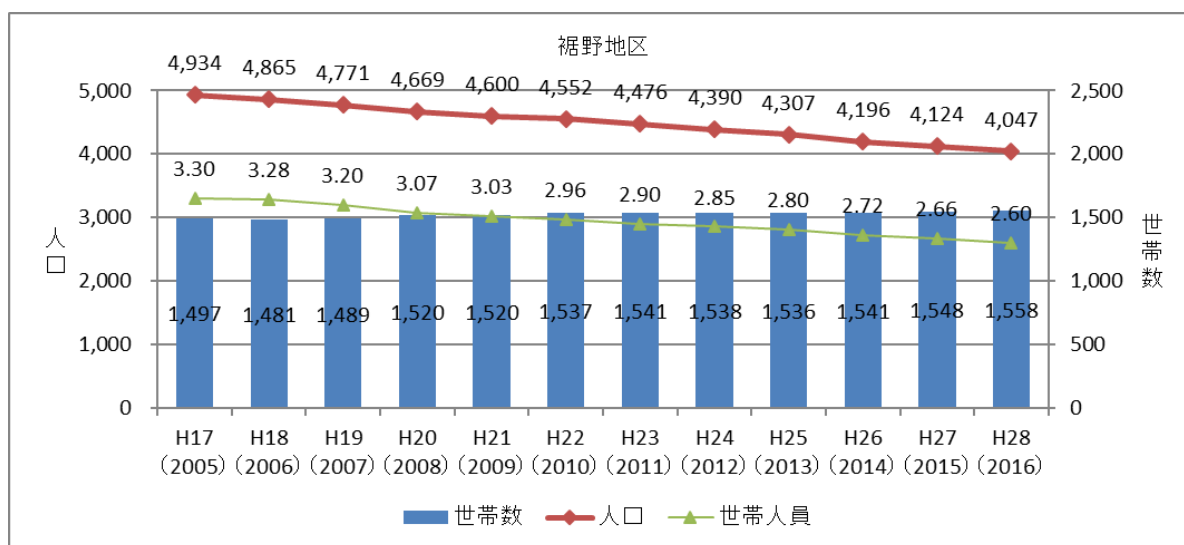
- 人口が広く分布していることに加えて、地区内で裾野中学校と北辰中学校の学区に分かれているため、人口の減少等に伴い農業生産活動や地域コミュニティ、公共交通の維持が困難になる可能性があります。
- 商業機能や医療機能が立地していないため、中心地区や地域拠点との連携が必要となります。

④展望

裾野地区の今後のまちづくりの方向性を次のようにまとめます。

- 生活利便施設が分散して立地しているため、機能に応じた拠点として維持し、農業生産活動や地域コミュニティ、公共交通の持続を図ります。
- 不足している生活利便施設は、中心地区や地域拠点に頼る必要があるため、地域性や需要に応じた持続的な公共交通により移動手段を確保をし、持続可能な田園地域を形成します。

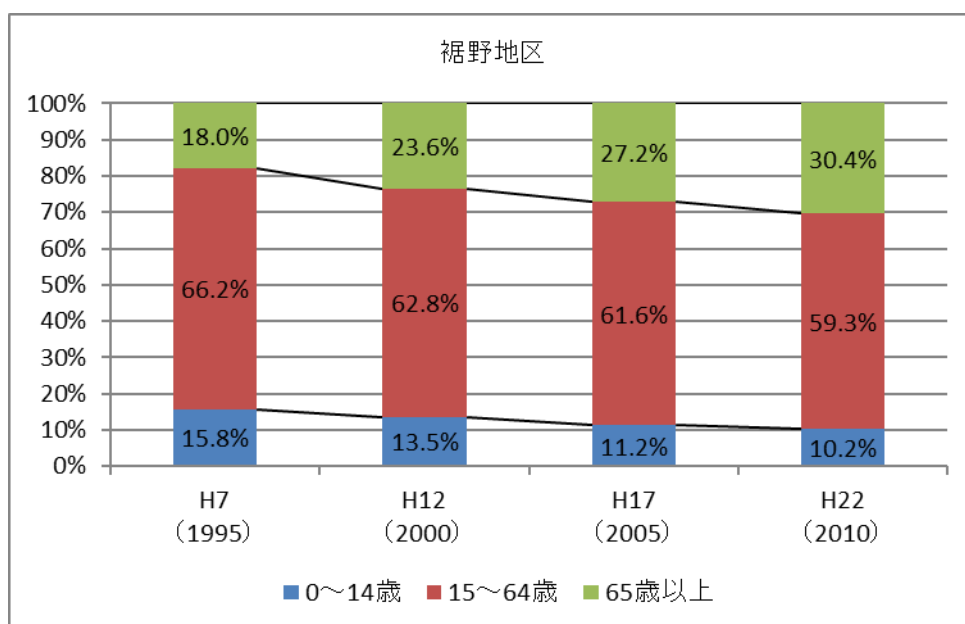
図表 4-65 人口・世帯数・世帯人員の推移



資料：「弘前市住民基本台帳（各年4月1日時点）」

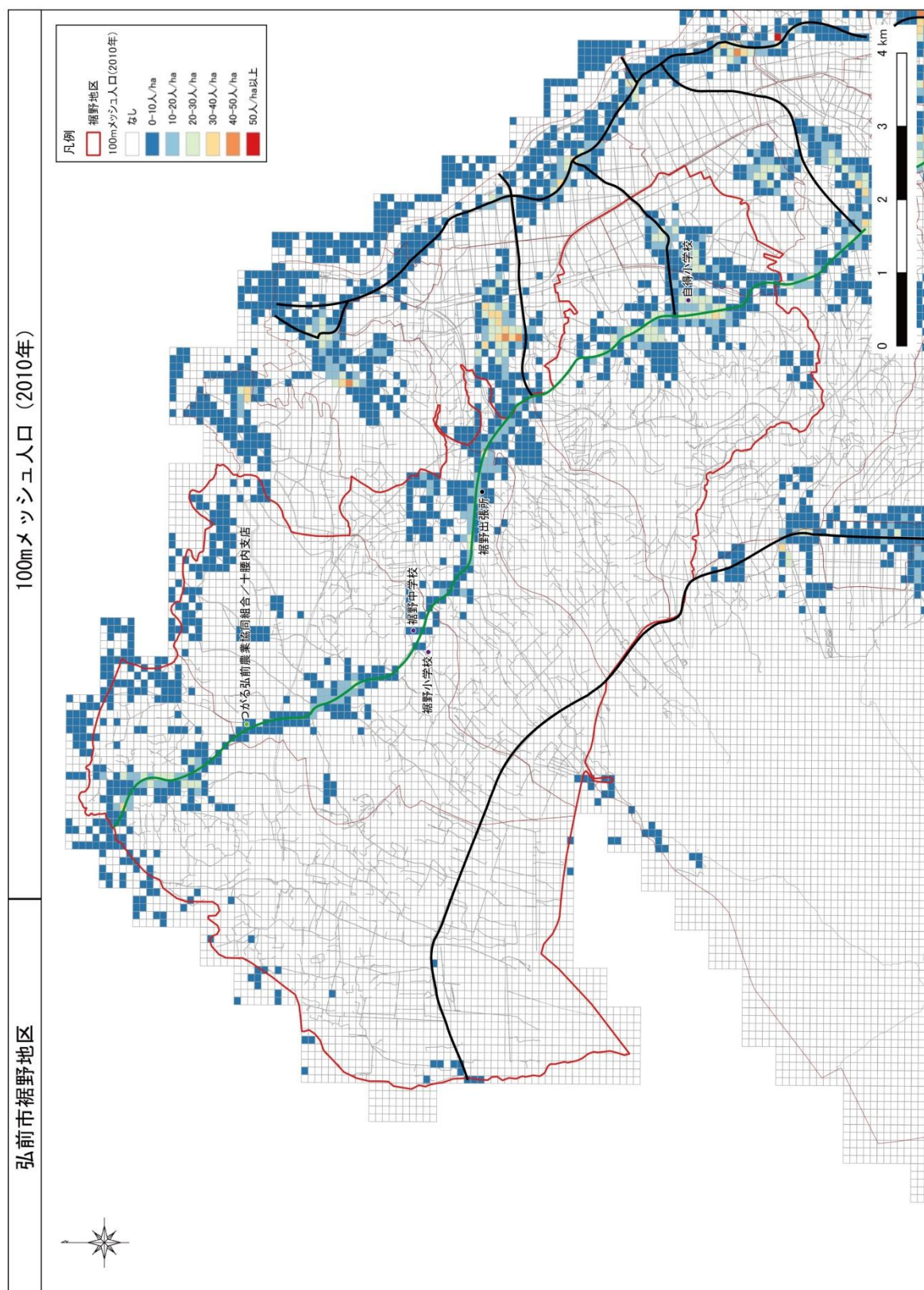
※平成25年（2013）以降は、外国人人口、世帯数を含む。

図表 4-66 年齢別人口割合の推移



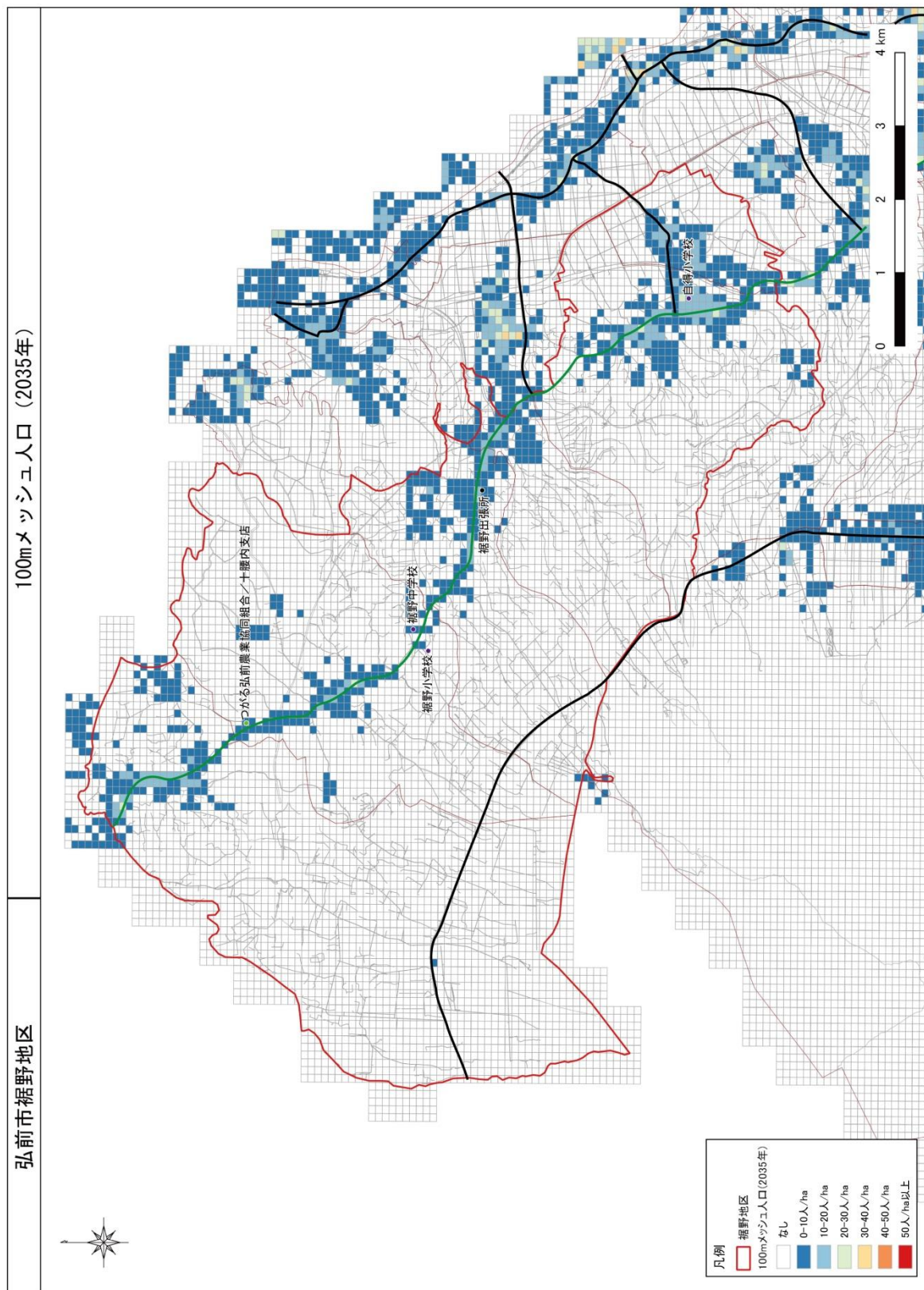
資料：「国勢調査」

図表 4-67 人口分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



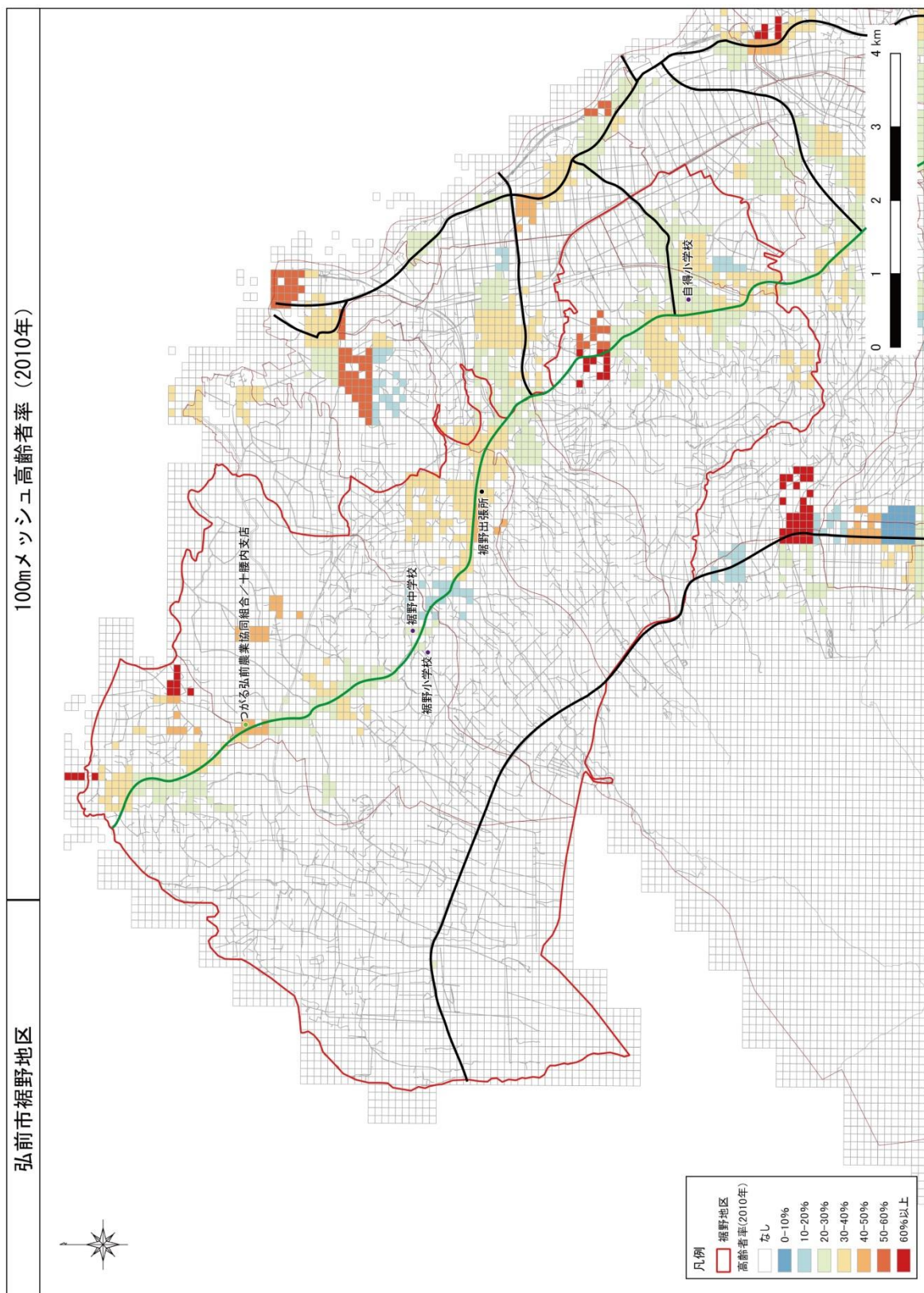
* 「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-68 人口分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



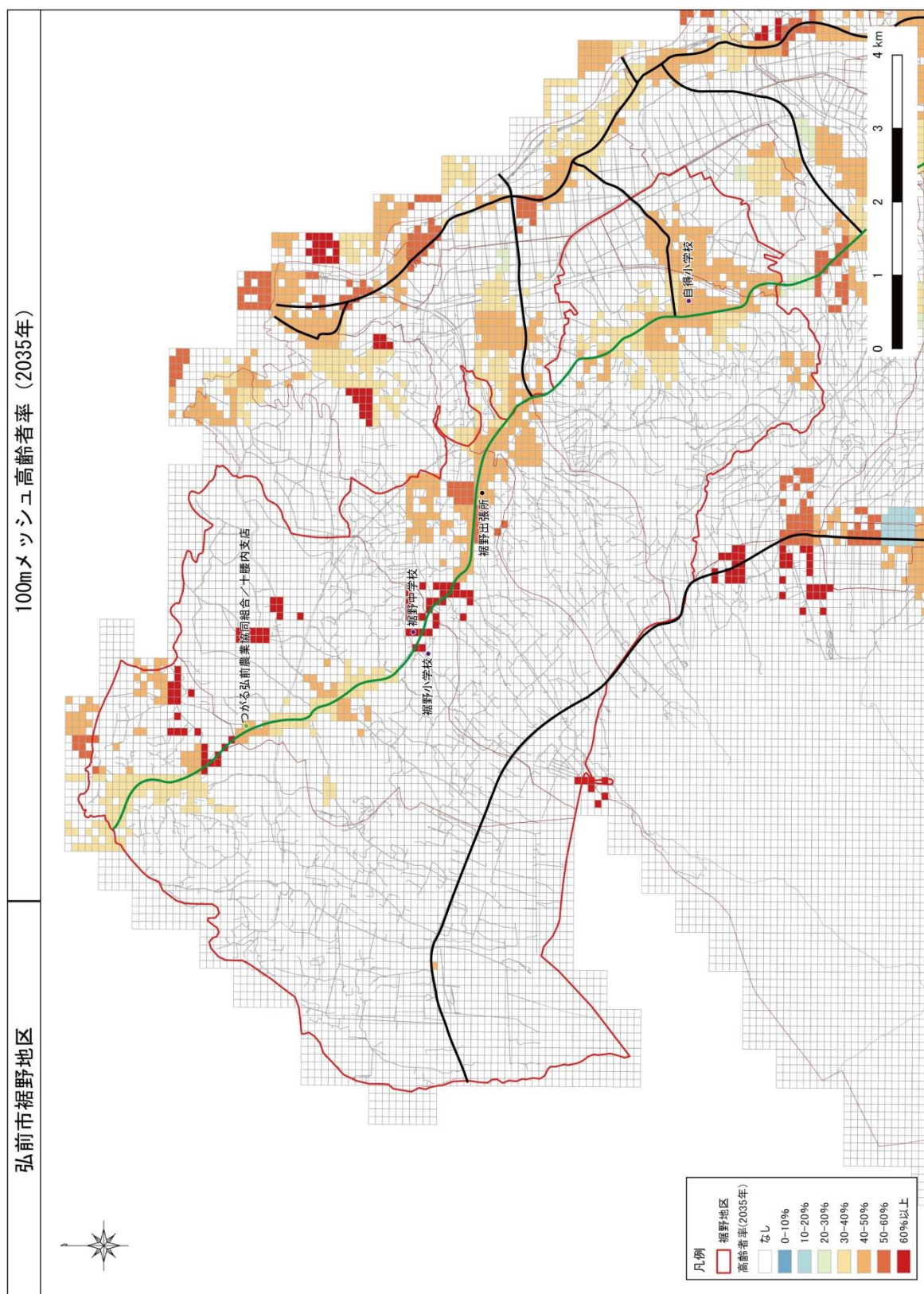
* 「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100mメッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-69 高齢化率分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



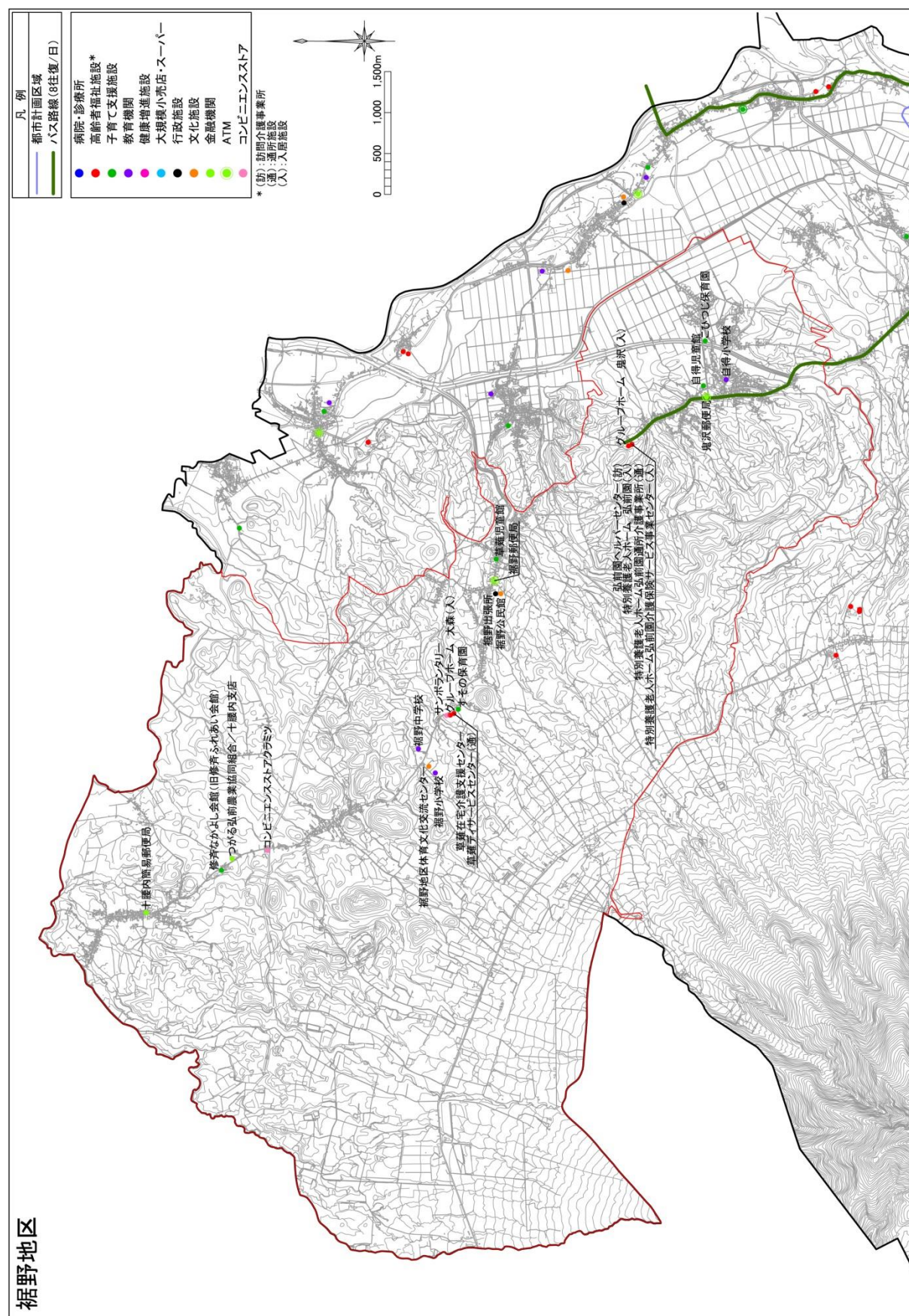
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-70 高齢化率分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



* 「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-71 生活利便施設・公共交通



* 「国土数値情報/国土交通省」「高齢者介護保健福祉ガイドブック 2015（事業所等一覧）（平成 28 年（2016）2 月作成、弘前市）」他 を基に作成

8) 新和地区を取り巻く現状と将来の見通し

①人口

- 人口は、平成 17 年（2005）4,910 人から平成 28 年（2016）4,113 人の間で毎年約 60 人ずつ減少していますが、他の田園地域に比べると減少率はゆるやかです。
- 世帯数に増減はあるものの、平成 17 年（2005）からほぼ変化はありません。
- 世帯人員は、平成 17 年（2005）3.22 人/世帯から平成 28 年（2016）2.59 人/世帯の間で 0.63 人/世帯減少しており、子どもが独立した親の二人暮らしや独居が増加していると見込まれます。
- 高齢化率は、平成 7 年（1995）21.4%から平成 22 年（2010）31.2%までの間に 10% 近く増加しています。
- 人口は南北に広範囲に分布しており、特に道路沿いに多く新和や小友、三和小学校を中心として分布しています。
- 人口密度は全体的に低くなり、令和 17 年（2035）には 30 人/ha 以上のところがほとんどなくなります。
- 高齢化も全体的に進む見込みで、令和 17 年（2035）にはほとんどの地域が 30%以上で、40%以上の地域も目立ってきます

②生活利便施設分布・公共交通

生活利便施設

- 生活利便施設は出張所が立地している種市と三和に立地しています。
- 高齢者福祉施設、子育て支援施設は共に各集落に立地しています。
- 商業機能や医療機能は立地していませんが、板柳町も生活圏となっています。

公共交通

- 市中心部と当地区の間を運行する路線バスは、青女子を經由し板柳まで 13 往復/日運行その後、板柳を經由し笹館方面へ 6.5 往復/日、小友経由の十腰内方面へ 2 往復/日運行しています。
- 小友から聖愛高校までのバスが朝 1 便のみ運行しています。

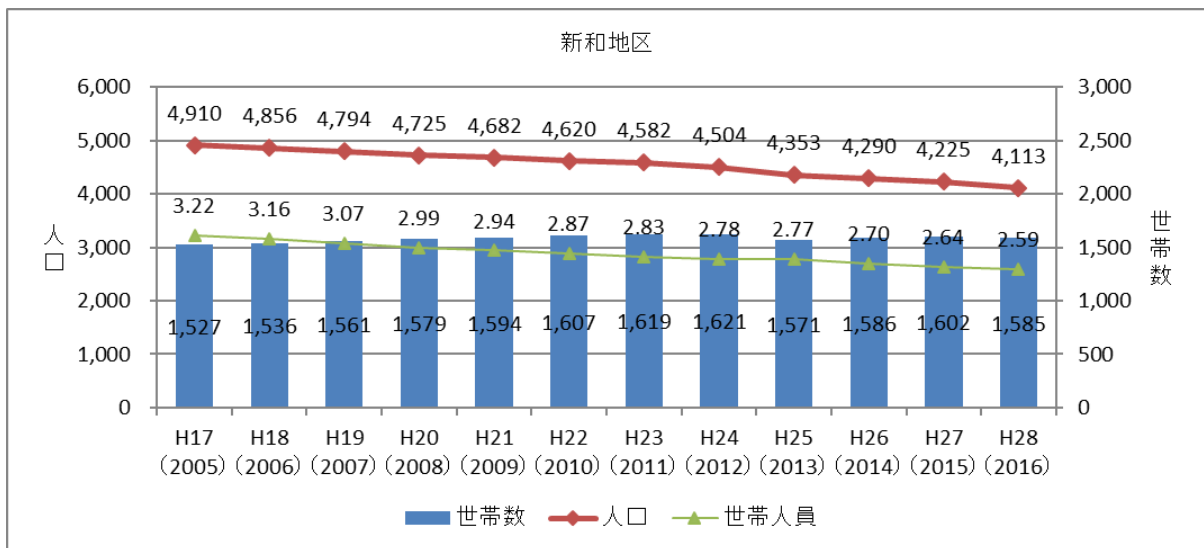
③課題

- 人口分布が点在しており、さらに高齢化が急速に進むことにより、地区内での生活利便施設や農業生産活動、地域コミュニティの維持が問題となる可能性があります。
- 商業機能や医療機能など、地区に立地していない生活利便施設は、中心地区や浜の町といった都市機能誘導区域との連携により確保する必要があります。

④展望

- 小学校を中心として集落がまとまっているため、既存のコミュニティに加え小学校区を単位とした地域コミュニティでの地域住民による取組により、高齢化が急速に進む当地区の持続性を図っていきます。
- 商業機能や医療機能などが立地していないため、中心地区や浜の町といった都市機能誘導区域との連携により、恵まれた資源の多い田園地域としての、さらに暮らしやすい地域のあり方を地域住民と考えていきます。

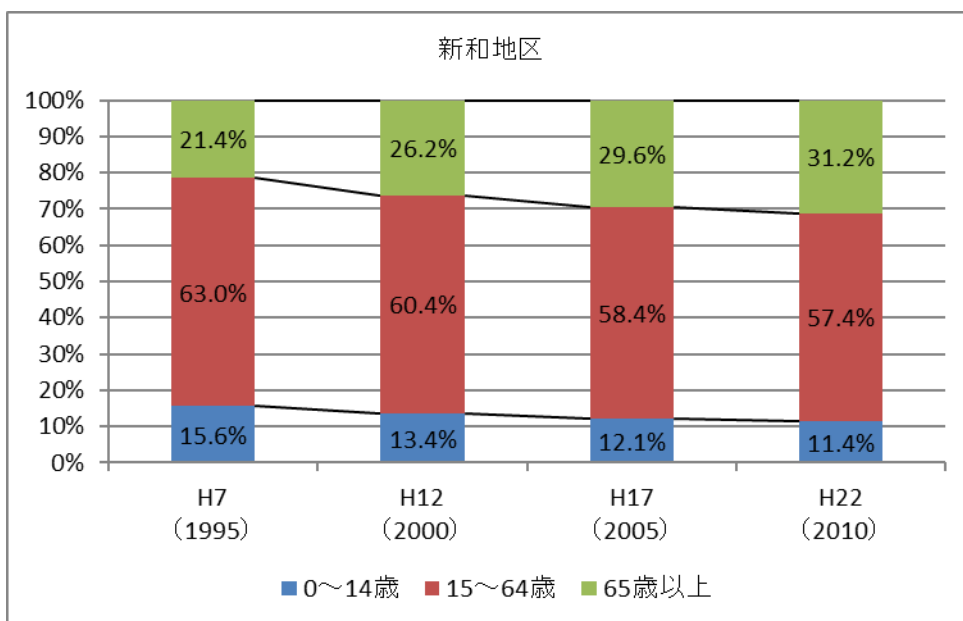
図表 4-72 人口・世帯数・世帯人員の推移



資料：「弘前市住民基本台帳（各年4月1日時点）」

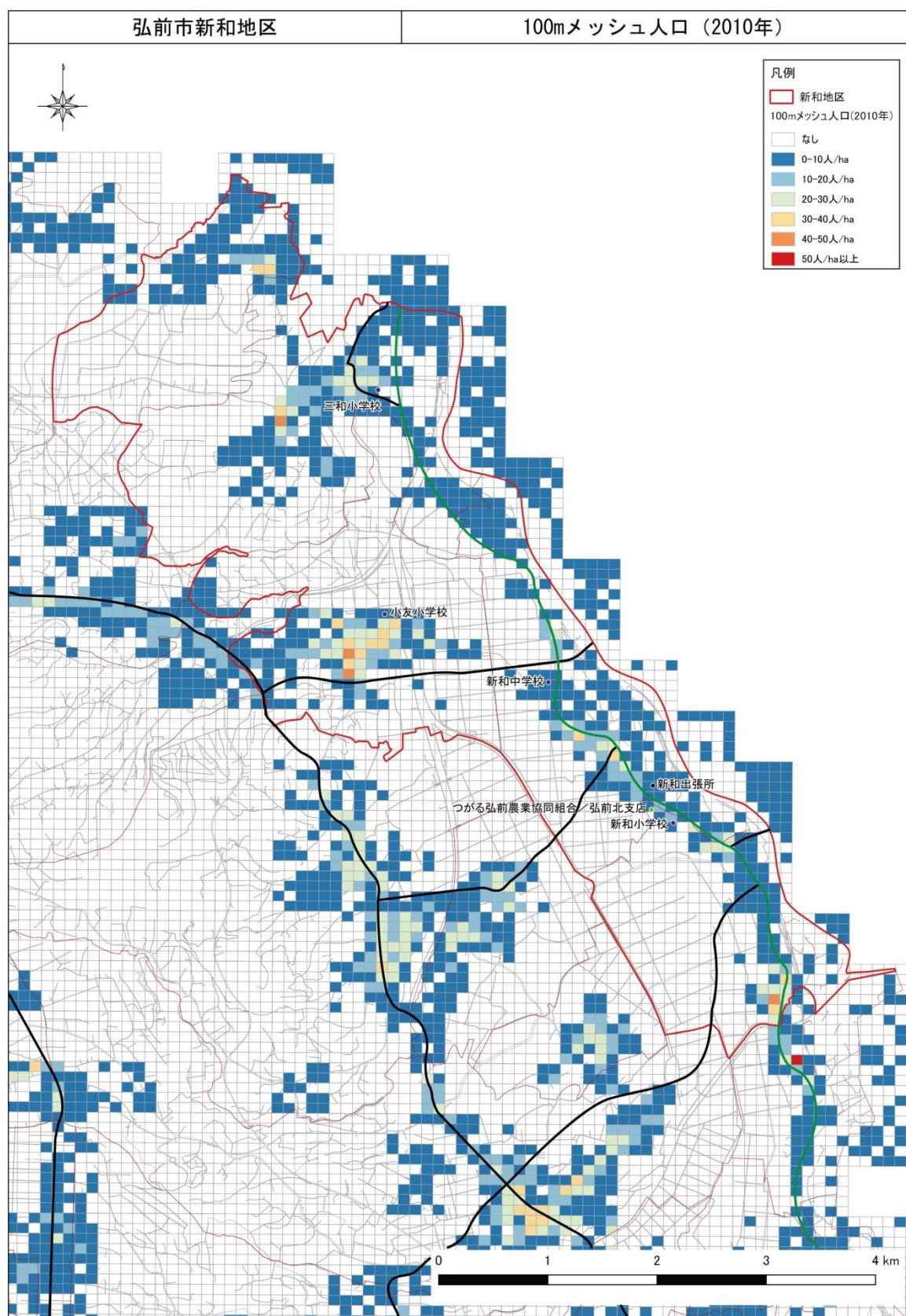
※平成25年（2013）以降は、外国人人口、世帯数を含む。

図表 4-73 年齢別人口割合の推移



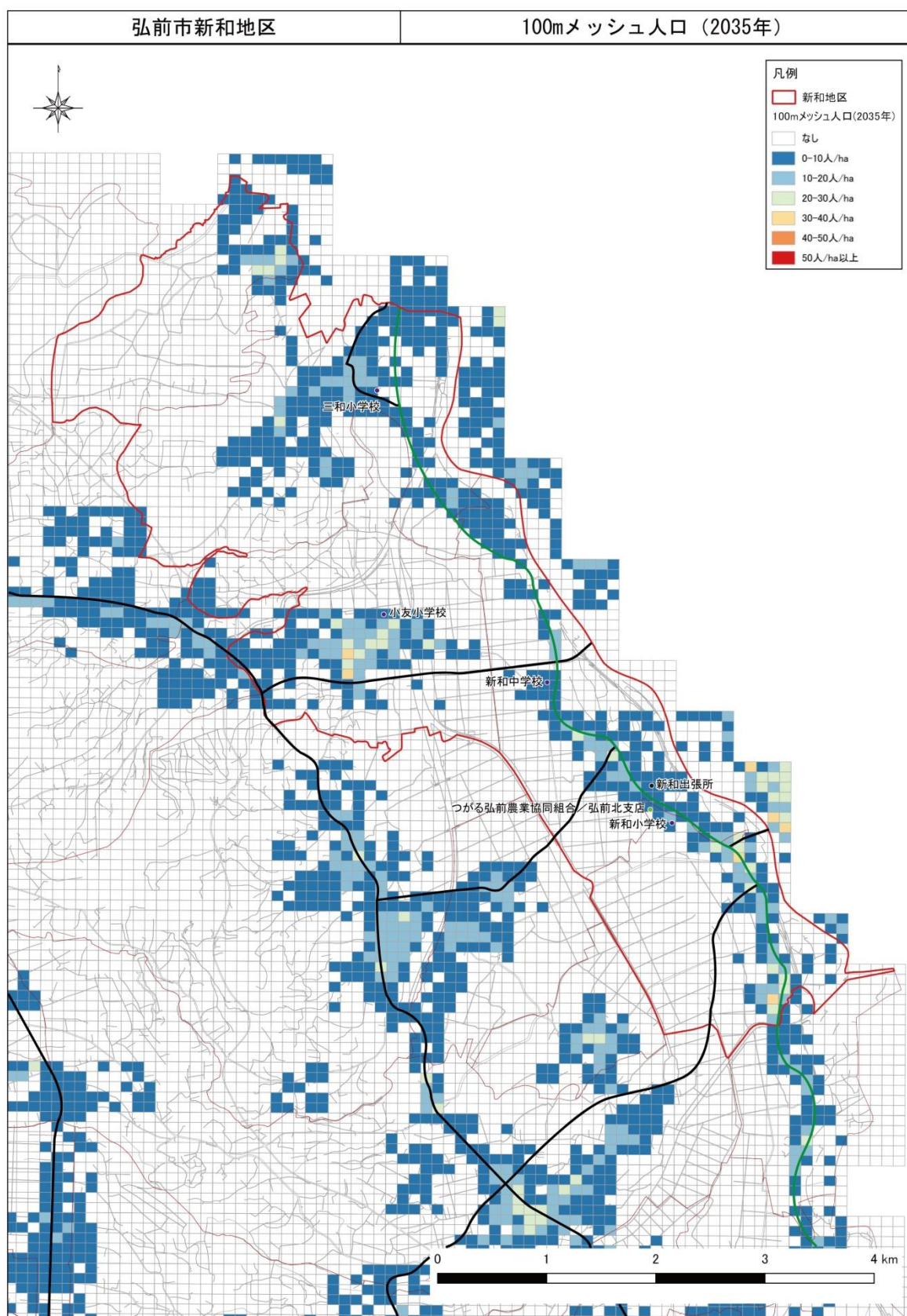
資料：「国勢調査」

図表 4-74 人口分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



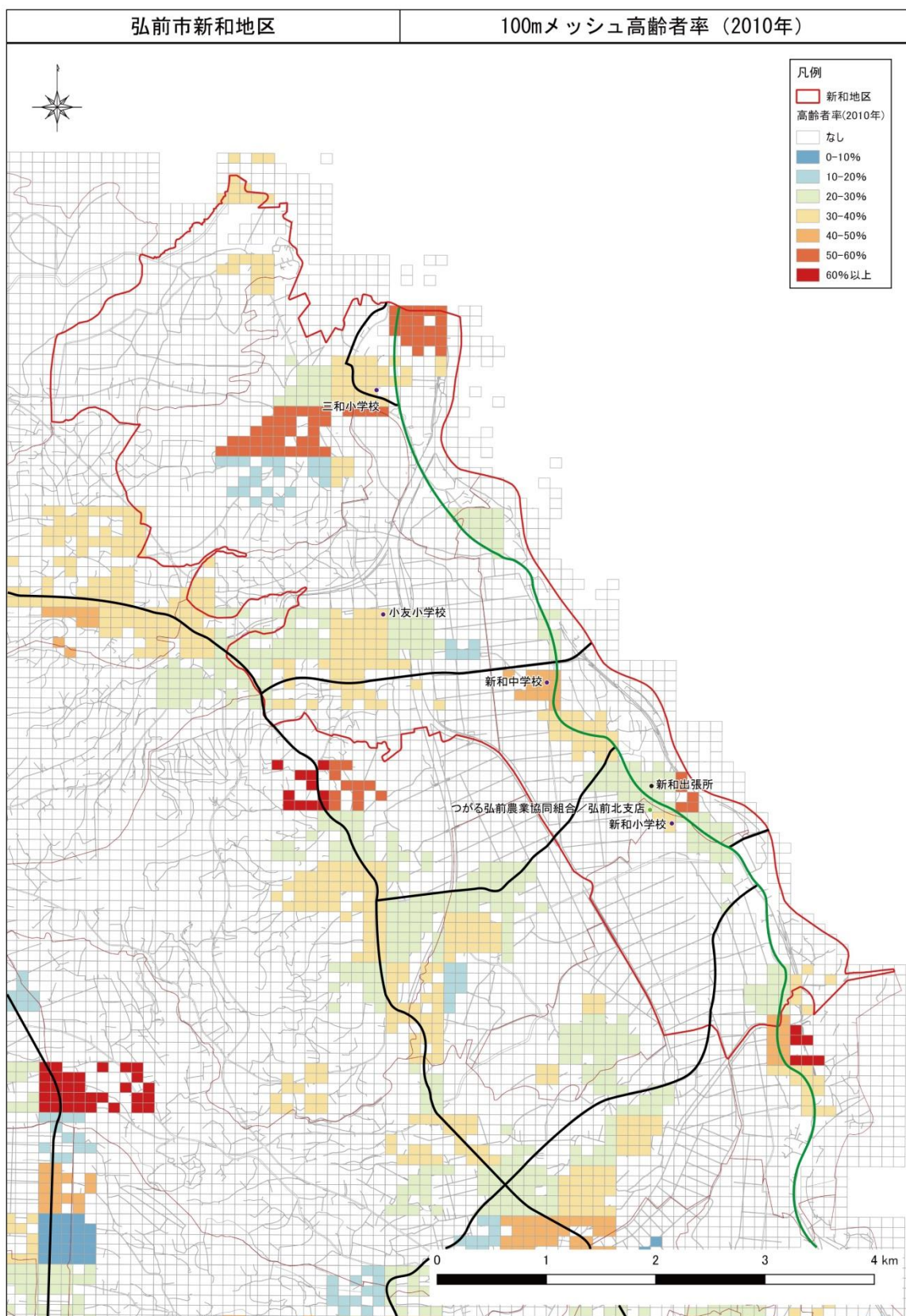
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100mメッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-75 人口分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



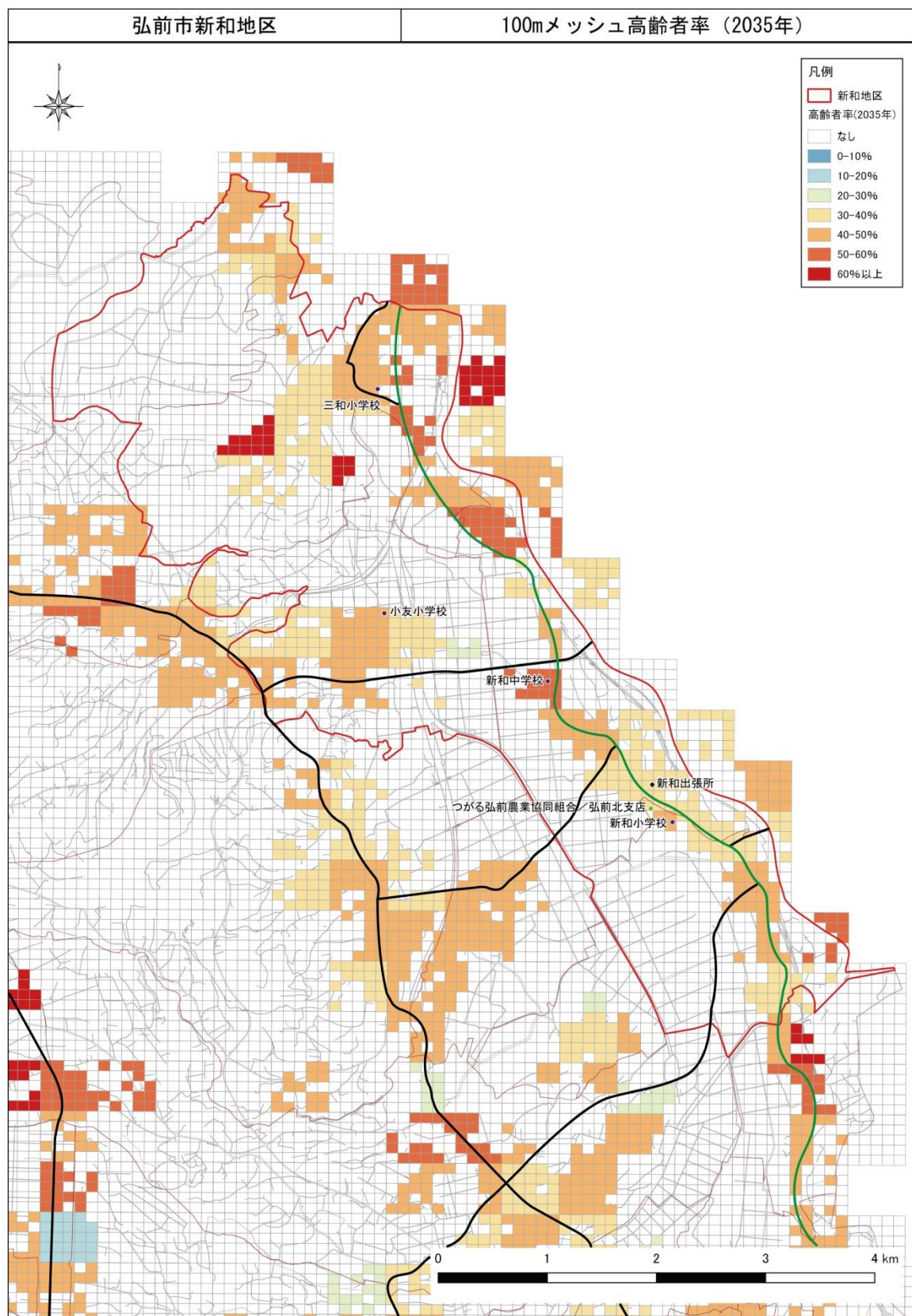
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-76 高齢化率分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



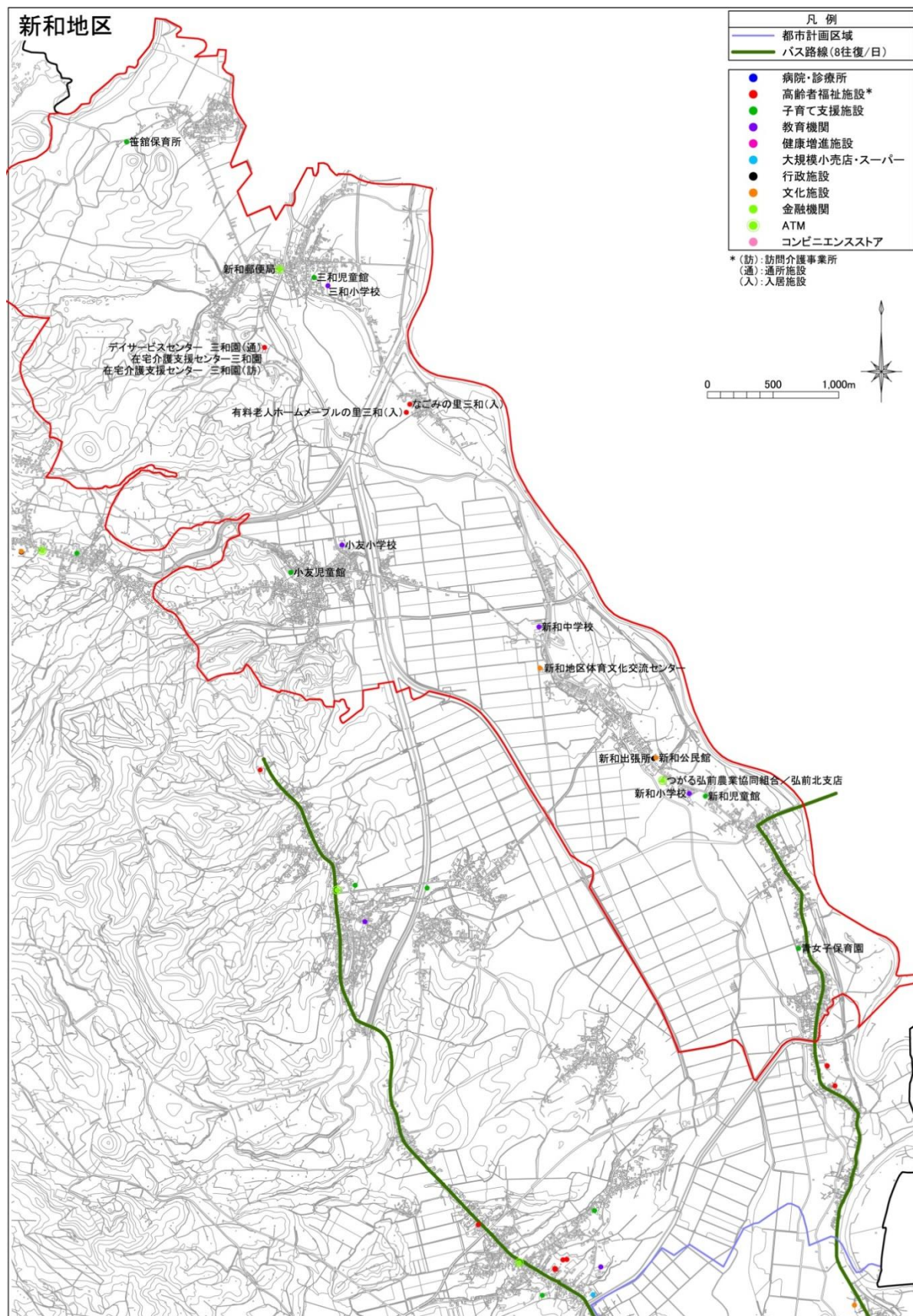
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-77 高齢化率分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



* 「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-78 生活利便施設・公共交通



*「国土数値情報/国土交通省」「高齢者介護保健福祉ガイドブック 2015（事業所等一覧）（平成 28 年（2016）2 月作成、弘前市）」他 を基に作成

9) 石川地区を取り巻く現状と将来の見通し

①人口

- 人口は、平成 17 年（2005） 5,219 人から平成 28 年（2016） 4,438 人の間で約 15%減少しています。
- 世帯数は、平成 17 年（2005） から 120 世帯増えており、世帯人員は平成 17 年（2005）から平成 28 年（2016）までで 3.32 人/世帯から 2.63 人/世帯まで減少しています。
- 高齢者の割合は、平成 7 年（1995） から平成 22 年（2010）までの間に約 11%増加し、14 歳以下の子どもの数の割合は約 5%減少し 10%となっており、少子高齢化が弘前市全体より早く進んでいます。
- 県道 26 号線沿いの石川に人口が集中しており、その他 2 箇所（大沢、乳井・薬師堂周辺）にまとまった集落があり、石川の南側に小金崎が分布しています。
- 人口密度は全体的に低くなり、令和 17 年（2035）には 30 人/ha 以上のところがほとんどなくなります。
- 高齢化も全体的に進む見込みで、令和 17 年（2035）にはほとんどの地域が 30%以上で、40%以上の地域も目立ってきます

②生活利便施設分布・公共交通

生活利便施設

- 地区内に商業施設以外の生活利便施設がおおよそ充足しており、特に石川に密集しています。
- 大沢、乳井・薬師堂には子育て支援機能と金融機能が立地しています。
- 石川と大沢の中間地点に東奥義塾高等学校が立地しており、弘南鉄道大鰐線や JR を利用し、生徒が様々な地域から通学しています。
- また、大沢の子どもたちは弘南鉄道大鰐線を利用して石川の学校に通学しています。

公共交通

- 市中心部と当地区の間を運行する路線バスは、14.5 往復運行しているほか、弘南鉄道大鰐線が 20 往復/日や J R 奥羽本線が 14.5 往復運行しており、他の地区に比べて中心部への移動が容易ですが、乳井や薬師堂は便数が少ない状況です。
- 国道 7 号線や東北自動車道の弘前大鰐 IC に近く、交通の便は比較的よい地域です。

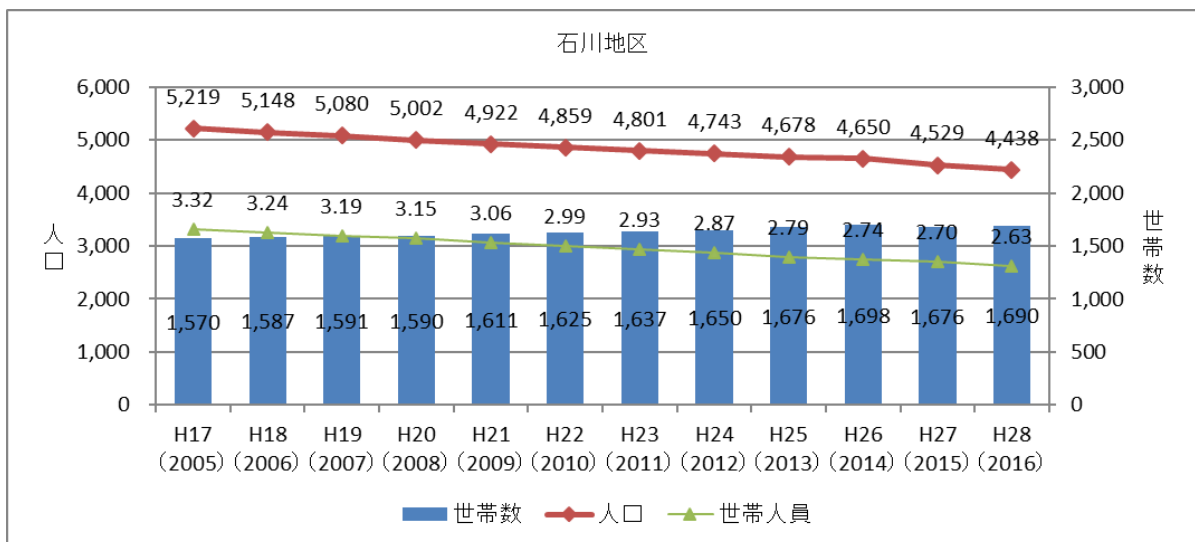
③課題

- 少子高齢化が急速に進むため、農業生産活動や地域コミュニティ、地域の需要にあった移動手段の確保が必要となります。
- 商業施設が立地していないため、中心地区や泉野といった都市機能誘導区域との連携が必要となります。

④展望

- 生活利便施設が集積している石川を地区の拠点とし位置づけ、地域住民が地区内の生活利便施設積極的に利用する気運や環境づくりによって、生活に必要なサービスを受けられる環境を維持していきます。
- 少子高齢化が進む中で、地域住民のニーズに合った取組等を住民が主体となって行うことで、世代を超えた交流ができ、安心して生活できる地域として維持していきます。
- 生活に必要なサービスを受けられるよう、泉野や中心部をはじめとする都市機能誘導区域へ移動できる持続可能な公共交通を維持し、都市機能誘導区域との連携を図ります。

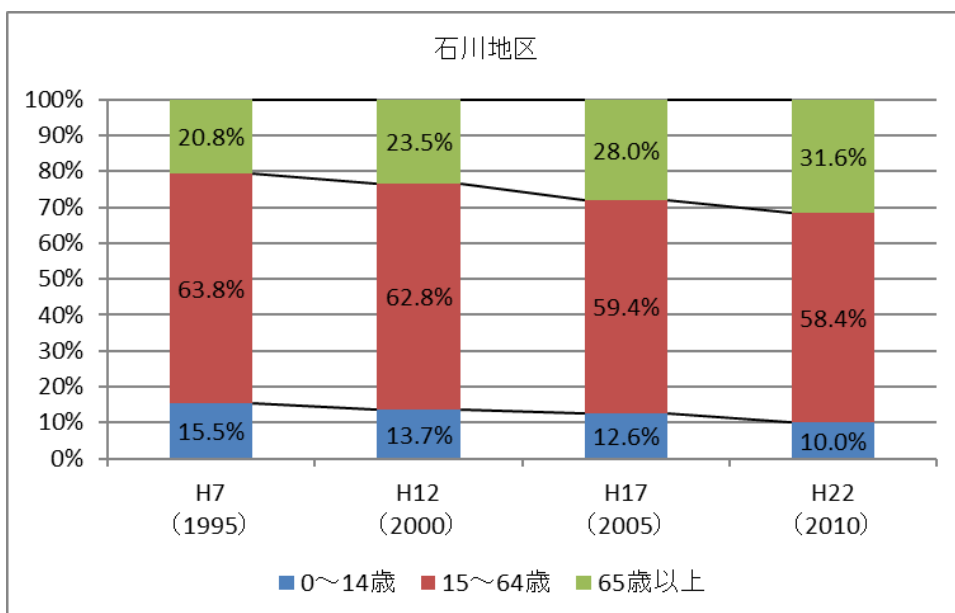
図表 4-79 人口・世帯数・世帯人員の推移



資料：「弘前市住民基本台帳（各年 4 月 1 日時点）」

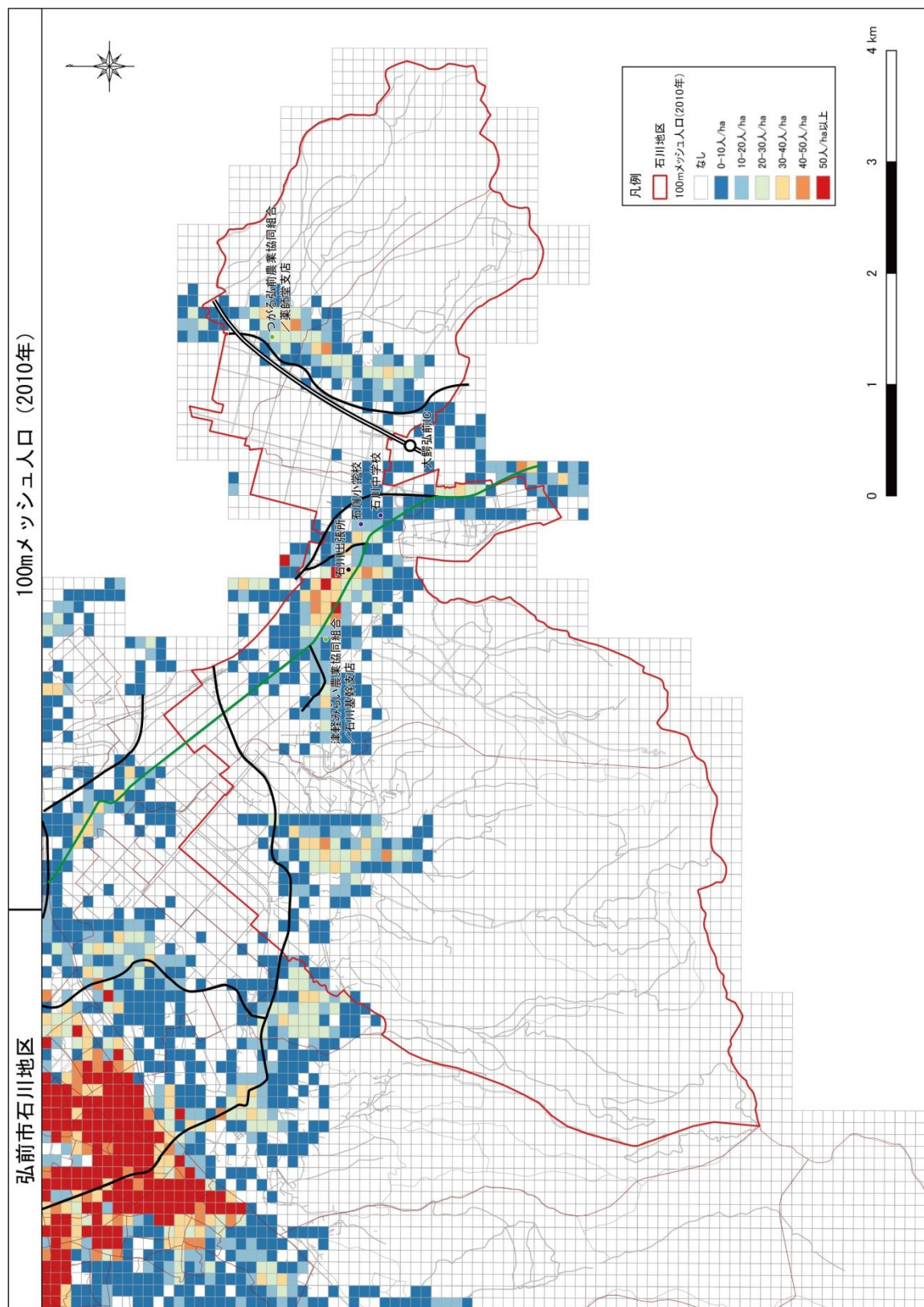
※平成 25 年（2013）以降は、外国人人口、世帯数を含む。

図表 4-80 年齢別人口割合の推移



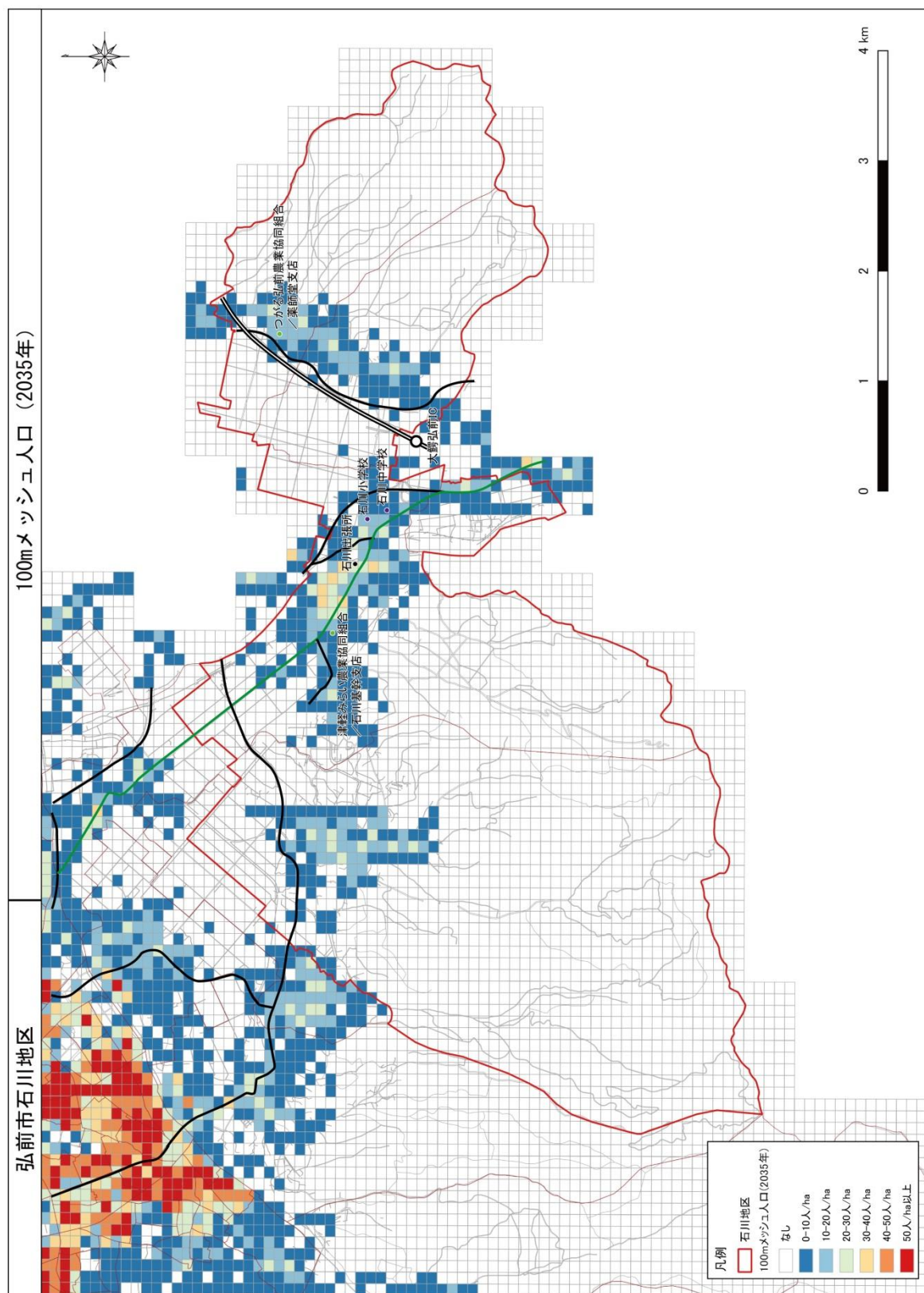
資料：「国勢調査」

図表 4-81 人口分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



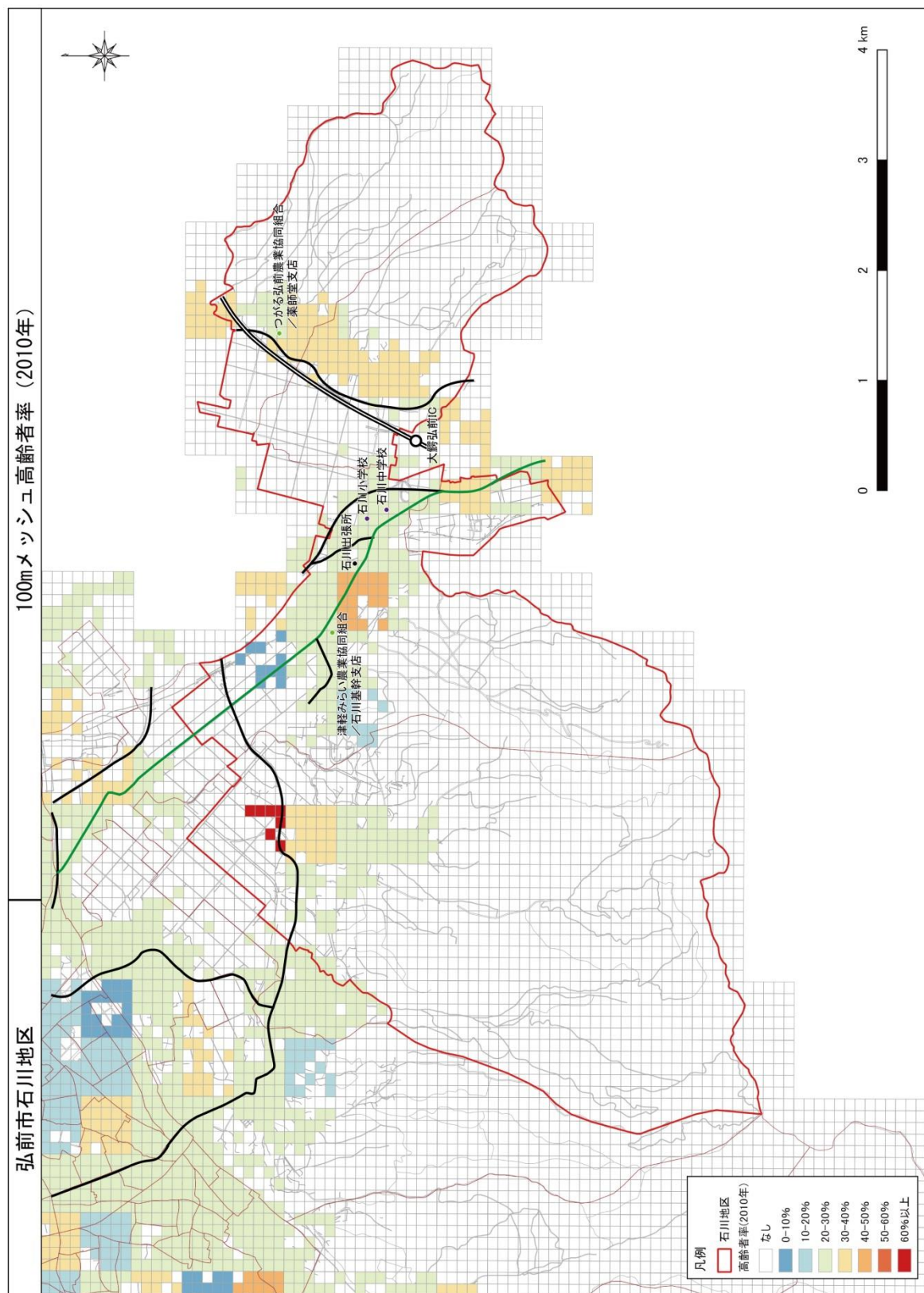
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100mメッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-82 人口分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



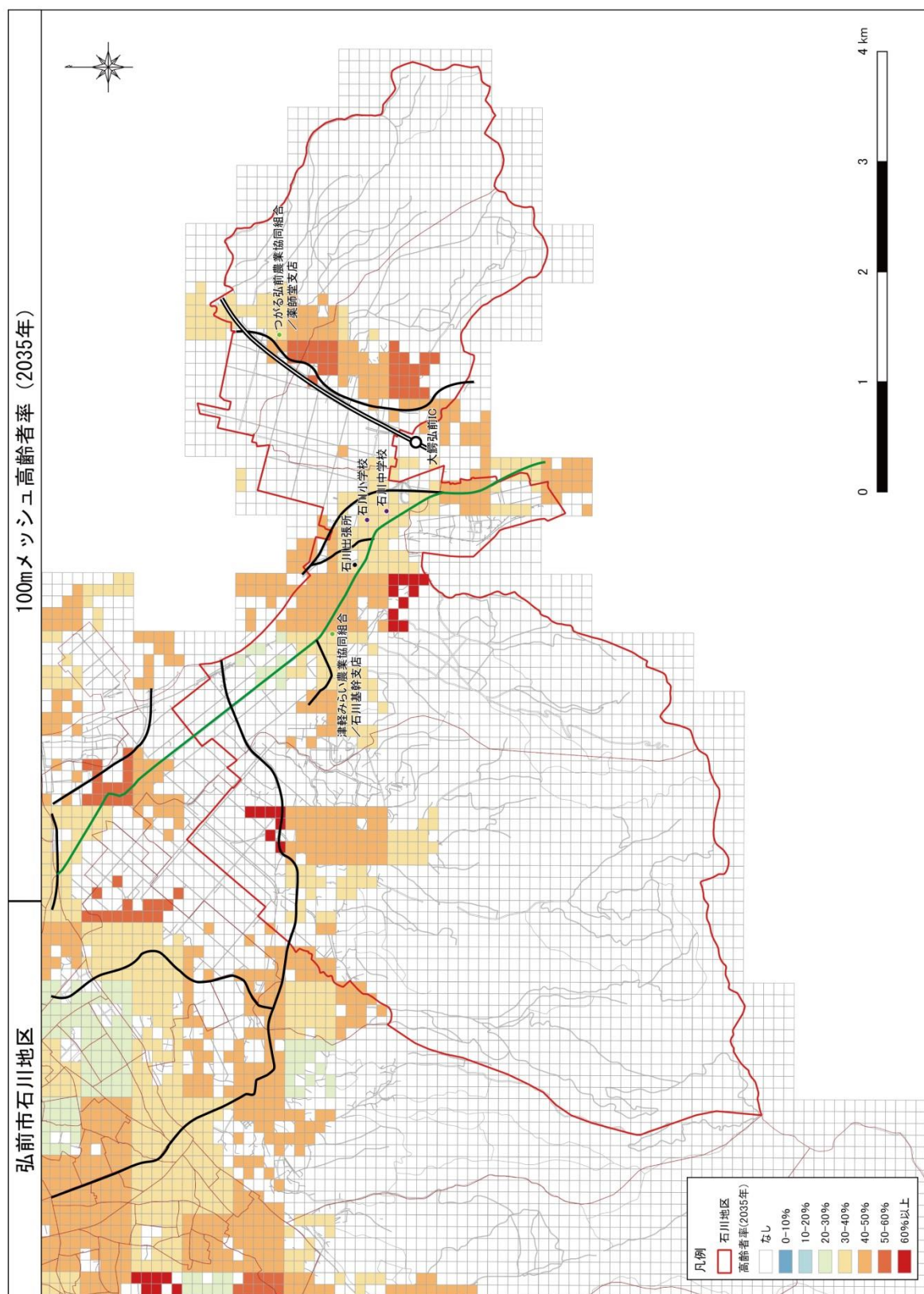
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-83 高齢化率分布(100m メッシュ) 平成 22 年 (2010)



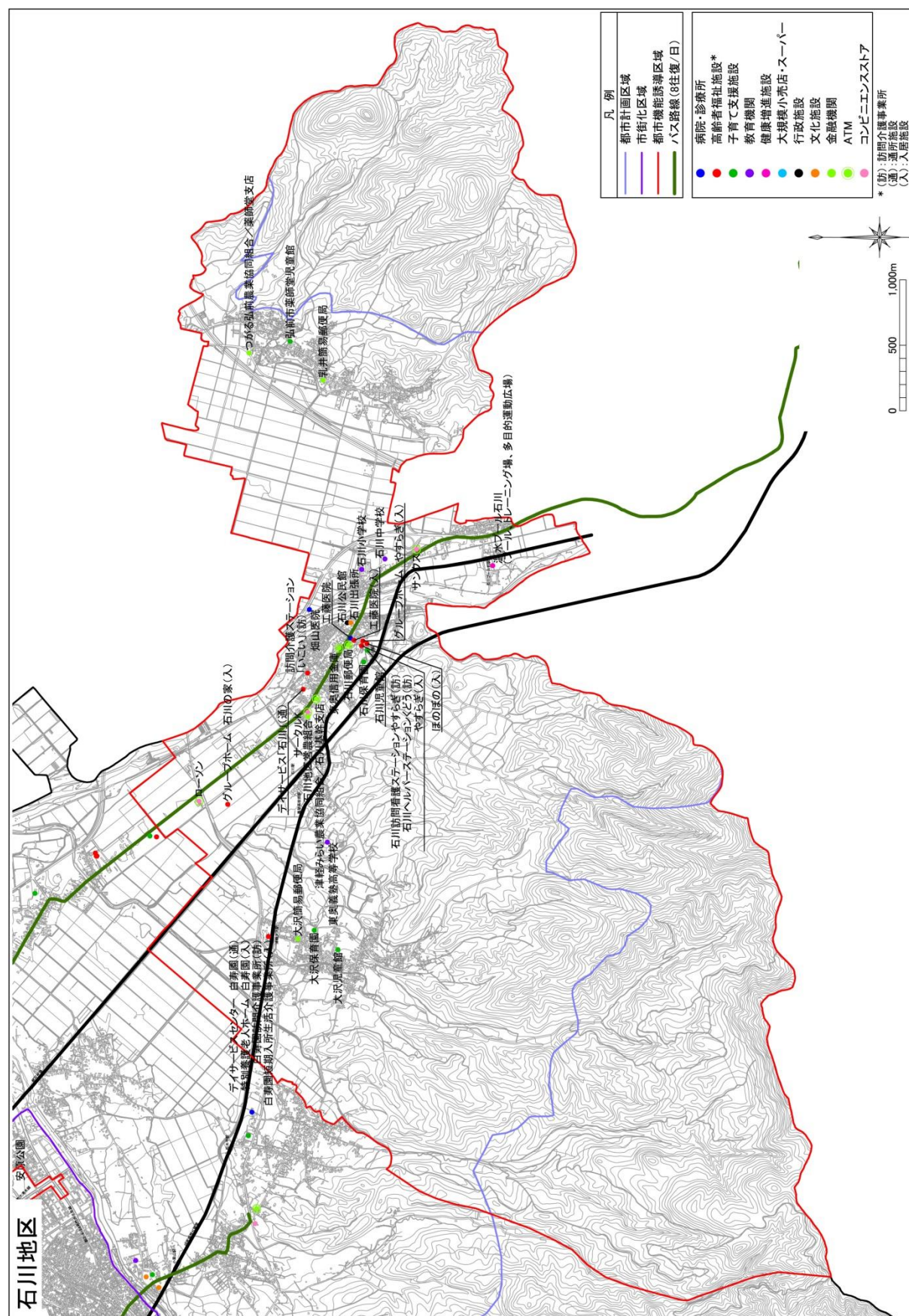
*「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-84 高齢化率分布(100m メッシュ) 令和 17 年 (2035)



* 「平成 22 年 (2010) 国勢調査-世界測地系 (国勢調査-世界測地系 100m メッシュ) 男女別人口総数及び世帯数 / 総務省統計局」を基に作成

図表 4-85 生活利便施設・公共交通



*「国土数値情報/国土交通省」「高齢者介護保健福祉ガイドブック 2015（事業所等一覧）（平成 28 年（2016）2 月作成、弘前市）」他 を基に作成